
文部科学省認可通信教育

レポート課題集

C | 心理専門編

2017

レポート課題集

2017

C

心理専門編

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2019年9月30日到着分まで

「認知心理学」「環境心理学」「障害児の心理」など例外有。
今後変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学 通信教育部

目 次

福祉心理学科関連専門科目	
CC2103	福祉心理学 …………… 12
FA2501	心理学概論 …………… 16
FB2505	心理学実験Ⅰ …………… 22
FB2506	心理学実験Ⅱ …………… 30
FB3508	心理学研究法Ⅰ …………… 37
FB3509	心理学研究法Ⅱ …………… 49
FC2514	社会心理学 …………… 56
FC2515	家族心理学 …………… 63
FC2523	産業心理学 …………… 68
FC2689	人間関係論 …………… 74
FC3504	環境心理学 …………… 76
FD2502	生涯発達心理学 …………… 83
FD2516	児童青年心理学 …………… 92
FD2517	老年心理学 …………… 101
FE2513	教育心理学 …………… 107
FE3518	障害児の心理 …………… 113
FF2511	人格心理学 …………… 120
FF2519	心理アセスメント …………… 130
FF2522	ライフサイクルと福祉心理学 …………… 135
FF3503	臨床心理学 …………… 137
FF3520	心理療法 …………… 141
FF3521	心理療法各論 …………… 149
FF3524	犯罪非行心理学 …………… 152

FG2682	カウンセリングⅠ …………… 158
FG2683	カウンセリングⅡ …………… 160
FG3695	カウンセリング演習Ⅰ …………… 162
FG3696	カウンセリング演習Ⅱ …………… 164
FH3510	認知心理学 …………… 166
FH3512	学習心理学 …………… 171
ZZ5991	卒業研究 …………… 176

特講・福祉心理学

FT2604	特講・福祉心理学 4 (スクール・カウンセリング) …………… 188
FT2605	特講・福祉心理学 5 (自分さがしの心理学) …………… 190
FT2608	特講・福祉心理学 8 (ストレスとつきあう心理学) …………… 192
FT2609	特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学) …………… 194

専門選択科目B群

DA3146	統計情報を見る眼 …………… 198
	履修系統図 …………… 204

『レポート課題集』の構成

●2017年度は下記を参照してください

A 社福・精保指定科目編, B 共通基礎・福祉専門編, C 心理専門編…2017年冊子版を発行 (PDF版も通信教育部ホームページに掲載)

D 特別支援編…2017年PDF版を通信教育部ホームページに掲載 (または2015年冊子版を参照のこと。ただし一部変更あり)

E 2008年度以前入学者科目 社会福祉士指定科目 および F 高等学校福祉科教員免許状関連科目…2016年PDF版を通信教育部ホームページに掲載 (または『レポート課題集2014』を参照のこと。ただし一部変更あり)

掲載冊子・ページは、次ページ以降の「科目別索引」でさがしてください。

●『レポート課題集』掲載順と新科目コード

科目コード順に掲載されており、科目コード (6桁) の意味は下記のとおりです。

1桁め A : 共通基礎科目 C : 社会福祉士・精神保健福祉士指定科目
 D : 社会福祉学関連専門科目 E : 教職免許状関連科目
 F : 心理学関連専門科目

2桁め 科目順調整用コード

3桁め 1 : 共通基礎科目 2～5 : 専門科目 (2 : 1年次以上配当 3 : 2年次以上配当
 4 : 3年次以上配当 5 : 4年次以上配当)

4～6桁め 原則として、2014年度までの科目コード下3桁と同じ

科目別索引

ページ数が入っているものは、この冊子に掲載されています。
 その他は、下記でご確認ください。

A→社福・精保指定科目編, B→共通基礎・福祉専門編,
 C→心理専門編

D→特別支援編:通信教育部ホームページ「レポート課題一覧」ま
 たは冊子版『レポート課題集2015D』

E・F→『レポート課題集2014』または通信教育部ホームページ
 「レポート課題一覧」

2007年版 →『レポート課題集2007』……

2016年版 →『レポート課題集2016』から閲覧してください。

～2008 2009年度以降入学者履修不可

2009～ 2008年度以前入学者履修不可

～2011 2012年度以降入学者履修不可

2012～ 2011年度以前入学者履修不可

ア行

CC3079 **2009～** 医学一般 …………… A
 CC3106 **～2008** 医学一般 …………… E
 DF3147 医療・福祉経済論 …………… B
 DE2113 NPO論 …………… B

カ行

CL2065 **2009～** 介護概論 …………… A
 CL2120 **～2008** 介護概論 …………… E
 EA4193 **2009～** 介護技術 …………… B
 EB4903 介護実習 …………… **2016年版**
 EB4701・EB4741
 介護実習事前事後指導 …………… **2016年版**
 EC3708 カウンセリング
 (教職免許状取得希望者向け) …………… F
 FG2682 カウンセリングⅠ …………… 158
 FG2683 カウンセリングⅡ …………… 160
 FG3695 カウンセリング演習Ⅰ …………… 162
 FG3696 カウンセリング演習Ⅱ …………… 164
 AB1020 科学的な見方・考え方 …………… B
 FH3512 学習心理学 …………… 171
 FC2515 家族心理学 …………… 63
 DH3144 家族法 …………… B
 FC3504 環境心理学 …………… 76
 AH1018 観光と文化 …………… **2014年版**
 AB1145・DA2145
 基礎演習 …………… B
 EC2301 教育原理 …………… F
 EC4904 教育実習 …………… F
 EC4710 教育実習の事前事後指導 …………… F
 FE2513 教育心理学 …………… 107
 EC3706 教育方法論(視聴覚教育等を含む) …… F
 EC5913 教職実践演習(高) …………… F

EC2702 教職論 …………… F
 DD4124・DD4196
 ケアマネジメント論 …………… B
 EG4734 (軽度)発達障害教育総論 …………… D
 EG4733 (軽度)発達障害者の心理 …………… D
 AK1016 健康科学 …………… B
 EG4736 言語障害教育 …………… D
 AH1006 現代社会を見る眼 …………… **2008年版**
 DF3110 公衆衛生学 …………… B
 CM3069 更生保護制度論 …………… A
 CA4108 公的扶助論 …………… A
 EC3703 高等学校教育課程の意義と編成 …… F
 CL2064 **2009～** 高齢者福祉論 …………… A
 CL2117 **～2008** 高齢者福祉論 …………… E
 DH4115 国際福祉論 …………… B
 AH1019 子どもと社会 …………… **2008年版**
 AL1011 コミュニケーション英語 …………… B
 EG4736 コミュニケーション障害教育
 →言語障害教育 …………… D

サ行

FG3680 産業カウンセリングⅠ …… **学習期間終了**
 FG3681 産業カウンセリングⅡ …… **学習期間終了**
 FC2523 産業心理学 …………… 68
 EG3737 視覚障害教育総論 …………… D
 EF3719 肢体不自由教育 …………… D
 EE4723 肢体不自由者の心理, 生理・病理 …… D
 CL2066 **2009～** 児童・家庭福祉論 …………… A
 FD2516 児童青年心理学 …………… 92
 CL2116 **～2008** 児童福祉論 …………… A
 EG4735 自閉症教育総論 …………… D
 FC2514 社会心理学 …………… 56
 CE4073 **2009～** 社会調査の基礎 …………… A
 DD4114 社会病理学 …………… **学習期間終了**

CN3130	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅰ	E
CN4131	～2008	社会福祉援助技術演習Ⅱ	E
CN3082	2009～	社会福祉援助技術演習A	A
CN4083	2009～	社会福祉援助技術演習B	A
CN5084	2009～	社会福祉援助技術演習C	A
CP5901	～2008	社会福祉援助技術現場実習	E
CP5132	～2008	社会福祉援助技術現場実習指導	E
CP5907	2009～	社会福祉援助技術実習	A
CP3190	2009～	社会福祉援助技術実習指導A	A
CP5191	2009～	社会福祉援助技術実習指導B	A
CE3070	2009～	社会福祉援助技術総論	A
CE3071	2009～	社会福祉援助技術論A	A
CE3072	2009～	社会福祉援助技術論B	A
CJ3126	～2008	社会福祉援助技術論Ⅰ	E
CJ3127	～2008	社会福祉援助技術論Ⅱ	A
CJ4128	～2008	社会福祉援助技術論Ⅲ	E
CJ4129	～2008	社会福祉援助技術論Ⅳ	E
AH1050		社会福祉学入門	B
CA3104		社会福祉原論（職業指導を含む）	A
DA2050		社会福祉の基礎	B
DH4111		社会福祉法制	B
DF4112		社会保険論	2008年版
CA4107		社会保障論	A
CM4076		就労支援サービス論	A
EK3711		障害児教育Ⅰ	2011年版
EK3712		障害児教育Ⅱ	2011年版
EK4905		障害児教育実習	2011年版
EK4716		障害児教育実習事前事後指導	2011年版
EK4714		障害児の教育課程	2011年版
EK3715		障害児の指導法	2011年版
FE3518		障害児の心理	113
EK4713		障害児の生理・病理	2011年版
EH4906		障害者教育実習	D
ED3718		障害者教育総論	D
EH4740		障害者教育実習の事前・事後指導	D
CD2118		障害者福祉論	A
EA2195	2009～	障害の理解	B
FD2502		生涯発達心理学	83
AB1332		情報処理Ⅰ	B
DK4692		職場のメンタルヘルス	2016年版
FF2511		人格心理学	120
AH1049		人権と福祉	B
DK3690		人的資源論	学習期間終了
FF2519		心理アセスメント	130
FA2501		心理学概論	16
FB3508		心理学研究法Ⅰ	37
FB3509		心理学研究法Ⅱ	49
FB2505		心理学実験Ⅰ	22
FB2506		心理学実験Ⅱ	30
FB4507		心理学実験Ⅲ	2008年版
FF3520		心理療法	141
FF3521		心理療法各論	149
AS1028		スポーツの心理学	B
AS1024		スポーツ（バーンゴルフ）	学習期間終了
AS1023		スポーツ（バレーボール）	B
EA3194	2009～	生活行動と人体	B
CQ4140		精神医学	A
CS4139		精神科リハビリテーション学	A
CU3151	2012～	精神障害者の生活支援システム	A
CQ3136		精神保健学	A
CW4141	～2011	精神保健福祉援助演習	A
CW3157	2012～	精神保健福祉援助演習A	A
CW4158	2012～	精神保健福祉援助演習B	A
CW5159	2012～	精神保健福祉援助演習C	A
CR3138・CR3148		精神保健福祉援助技術各論	A
CR3156	2012～	精神保健福祉援助技術各論	A
CR3153	2012～	精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	A
CR3154	2012～	精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	A
CR3137	～2011	精神保健福祉援助技術総論	A
CX5902	～2011	精神保健福祉援助実習	A
CX4908	2012～	精神保健福祉援助実習A	A
CX5909	2012～	精神保健福祉援助実習B	A
CT3150	2012～	精神保健福祉のサービス	A
CT4152	2012～	精神保健福祉の制度	A
CS3155	2012～	精神保健福祉の理論	A
CS3133	～2011	精神保健福祉論Ⅰ	A
CT3134	～2011	精神保健福祉論Ⅱ	A
CT4135	～2011	精神保健福祉論Ⅲ	A
AH1026		政治学の基礎	B
EC3707		生徒指導論（進路指導を含む）	F
CX4188	24～	精神保健福祉援助実習指導A	A
CX5189	24～	精神保健福祉援助実習指導B	A
AK1005		生命の科学	B
AA1001		禅のこころ	B
EC4709		総合演習	学習期間終了
ZZ5991		卒業研究	176, B

タ行

CA3105	地域福祉論	A
EF3727	知的障害教育	D
EE4721	知的障害者の心理	D
EE4722	知的障害者の生理・病理	D
DD3119	知的障害者福祉論	B
EF3730	聴覚障害教育	D
EE4725	聴覚障害者の心理	D
EE4726	聴覚障害者の生理・病理	D
EG4732	重複障害教育総論	D
DA3146	統計情報を見る眼	198
EC3705	特別活動の指導法	F
ET3771	特別支援教育支援員概論	D
AT1027	特講（子どもの貧困）	B
DT2201	特講・社会福祉学 1 （介護保険と社会福祉士の課題）	B
DT5205	特講・社会福祉学 5 （社会福祉士国家試験対策講座）	A
DT5206	特講・社会福祉学 6（精神保健福祉士 国家試験対策講座 A）	A
DT2210	特講・社会福祉学 10 （スクール・ソーシャルワーク論）	B
DT2213	特講・社会福祉学 13（福祉産業論）	B
DT2250	特講（防災土研修講座）	B
FT2604	特講・福祉心理学 4 （スクール・カウンセリング）	188
FT2605	特講・福祉心理学 5 （自分さがしの心理学）	190
FT2608	特講・福祉心理学 8 （ストレスとつきあう心理学）	192
FT2609	特講・福祉心理学 9 （コミュニティ心理学）	194

ナ行

FC2689	人間関係論	74
AH1017	人間と教育	B
AJ1004	人間と宗教	2008年版
DD2215	認知症介護論	B
FH3510	認知心理学	166

ハ行

EG4734	発達障害教育総論	D
EG4733	発達障害者の心理	D
DD2211	発達障害者の地域支援	B
DD3161	発達障害者の理解と支援	B
FF3524	犯罪非行心理学	152
EF3729	病弱教育	D
EF4731	病弱教育総論	D
EE4724	病弱者の心理、生理・病理	D
EC3704	福祉科の指導法	D
DF3121	福祉機器論 → 福祉用具と生活支援	B
CC4080	2009～福祉行財政と福祉計画	A
CE4074	2009～福祉経営論	A
DH3123	～2008 福祉計画法	B
DE4125	～2008 福祉施設管理論	B
DH2109	福祉思想論	B
CC2101	福祉社会学	A
CC2103	福祉心理学	12
AH1003	福祉と経済	B
AH1021	福祉と生活	学習期間終了
CB3063	2009～福祉法学	A
CB3102	～2008 福祉法学	E
DA2142	福祉ボランティア活動	B
DF3121	福祉用具と生活支援	B
DE3143	福祉リスクマネジメント	B
AJ1008	文学入門	2006年版
AH1007	法の基礎（日本国憲法を含む）	B
CD4075	2009～保健医療サービス論	A
AB1002	ボランティア論	B

ラ行

FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	135
DF3122	リハビリテーション論	B
FF3503	臨床心理学	137
AJ1009	歴史を見る眼	2014年版
DL3280	レクリエーション概論	B
DL4282	レクリエーション事業	B
DL4281	レクリエーション実技	B
DK4691	労働法	2016年版
FD2517	老年心理学	101

『レポート課題集』の活用方法

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を表します。「R：レポート+科目修了試験」「SR：スクーリング+レポート」「RorSR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』p. 4（またはp. 2）で確認ください。

履修方法=Sの科目についてレポート課題はありません。教科書の有無も科目によりそれぞれですが、本冊子に「スクーリング講義概要」が掲載されています。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、1単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「1年以上」と記載のある科目は、1年生以上（2～4年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

担当教員欄は、主としてレポート添削指導をおこなう教員名を提示しています（ただし、S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、「心理学概論」などのレポートは添削指導員が担当します。

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を示しています。意識して学習を進めてください。

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを多くの科目は15回に分けて掲載しています。一部の4単位の科目は30回に、1単位の科目は8回などに分けられています。ポイントを参考に、教科書を読んでいってください。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は充分理解したことになります。

テーマ部分の（ ）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。過去の版や教科書を所持している方は当てはまりませんが、ポイントの箇所をさがしたり自分で調べたりしていきましょう。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。参考図書を読み、文献に掲げることが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認をお願いします。それ以外の科目は参考図書を読むことは必須とはしていません。学習内容を深めたい場合は、教科書とともに参考図書を読むことをお奨めします。また、先生が掲げた以外の参考図書の活用も可能です。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』6章（2017版4章）を参照してください。

●アドバイス

レポートをまとめるにあたってのアドバイスが掲載されています。よく読んでレポートに取り組んでください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行いません。レポートは学習の途中成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

レポートにおける観点別ルーブリック評価

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことからの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①～④のいずれか2つ以上が満たされている。	①～④の3つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「 」でくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年（初版）・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ (※課題により要求されない場合もある)	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて(事例を挙げる等)まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は伺えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

●科目修了試験 評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が掲載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしばって学習してください。

なお、科目修了試験の評価割合についてはとくに指示がない科目では、レポートの合格は必要ですが、試験100%で評価されます。「レポート30% 試験70%」などという基準が記載されている科目は担当の先生が自身で調整をして、レポート分の点数を加味し科目修了試験の採点結果が出されます。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」にあげられた「卒業までに身につけてほしい力」との関連であげたものです。

福祉心理学科 専門科目 受講条件・留意事項

福祉心理学科の専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目A群の履修登録・スクーリング受講や学習を進めるにあたっての留意点です。

●会場スクーリングの受講が必須の科目

- ・福祉心理学科卒業のために 「心理学実験Ⅰ」または「心理学実験Ⅱ」いずれか1科目
- ・認定心理士取得のために 「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」の3科目
- ・単位修得のために 履修方法「S」または「SR」の科目で、オンデマンド・スクーリングの開講がない科目

●「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」スクーリング受講条件

- ・スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群のなかから7科目以上のレポートを提出すること。

●福祉心理学科「卒業研究」受講条件

- ・「卒業研究」申込締切日（毎年4 / 5 または10 / 5）までに「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「統計情報を見る眼」およびその他専門必修科目、専門選択科目A群から10科目以上が単位修得済であることなど、本冊子の「卒業研究」欄参照。
- ・大学院への進学希望者は、「卒業研究」を受講することを推奨しています。

●「心理療法」スクーリング受講にあたっての留意事項

- ・受講申込締切日までに、「心理学概論」「人格心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「カウンセリングⅠ・Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」のなかから4科目程度以上学習を終えていない方は申込みをご遠慮ください（SR履修ならば、スクーリング受講済+レポート提出済にしておくこと）。

※強制はしていません。

●「臨床心理学」スクーリング受講にあたっての留意事項

- ・「福祉心理学」「心理学概論」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからの受講をお奨めいたします。そのため、4月新生が入学後すぐの5月のスクーリングを受講することはお奨めいたしません。

※強制はしていません。

●受講の順序指定（推奨）

- ・「カウンセリングⅠ」→「カウンセリング演習Ⅰ」の順序での受講を推奨しています。
- ・「カウンセリングⅠ」または「カウンセリングⅡ」のいずれか→「カウンセリング演習Ⅱ」の順序での受講を推奨しています。

※強制はしていません。

※「カウンセリングⅠ」と「カウンセリングⅡ」

「カウンセリング演習Ⅰ」と「カウンセリング演習Ⅱ」

「心理学実験Ⅰ」と「心理学実験Ⅱ」

「心理学研究法Ⅰ」と「心理学研究法Ⅱ」の間の受講の順序の指定はありません。「Ⅱ」を「Ⅰ」より先に受講しても大丈夫です。

●福祉心理学科学生が履修登録する学年について（推奨）

- ・「履修モデル」や「履修系統図」をもとに選択してください。
- ・「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」は入学して最初の履修登録で登録してください。
- ・「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」は取り組みにくい科目です。「心理学研究法Ⅰ」は原則として1年次入学者は3年次、3年次編入学者は4年次に履修登録してください。「心理学研究法Ⅱ」のスクーリングは3年次後半（2017年度の場合4月生：12月、10月生：8月）または4年次に受講してください。

●単位修得期限がある科目

- ・「障害児の心理」「環境心理学」は2018年度中に単位修得してください。その他、『学習の手引き』『開設授業科目一覧』記載の注意点をご確認ください。

●スクーリング単位が変更になる可能性がある科目

- ・現行のスクーリング単位が2単位の科目について、2018年度以降に、①スクーリング単位が1単位に変更になったり、②スクーリングの受講の仕方が変更になったりする可能性があります。

●各科目ともスクーリングの受講をお奨めします

- ・慣れるまでは教科書を読んでも専門用語が多く難しく感じる人が多いかもしれません。その場合は、スクーリングを受講することをお奨めいたします。スクーリングを受講し、教科書や参考図書を読み進めていくうちに、心理学的な考え方に慣れてきて「わかった」ということが増えてきます。
- ・心理学は私たちのところや行動を扱っていますので、具体例と結びつけて考えてみてください。

●『福祉心理学科スタディ・ガイド』も活用ください

- ・本学福祉心理学科の先生からのメッセージを掲載しています。参照して学習をお進めください。

●「心理学」の用語辞典

下山晴彦編集代表『誠信心理学辞典（新版）』誠信書房、2014年（領域別）

外林大作ほか編『誠信心理学辞典』誠信書房、1981年（五十音順）

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年（五十音順）

のいずれか1冊は購入し手元に置いておくことをお奨めしています。

●教科書より平易な入門書もご利用ください

教科書や辞書の文章が難しく感じる場合は、下記のようなよりやさしい心理学の入門書で心理学のイメージをつかんでいただくこともお奨めしています。

- ・大井晴策監修『史上最強カラー図解プロが教える心理学のすべてがわかる本』ナツメ社
- ・青木紀久代・神宮英夫編著『カラー版徹底図解 心理学』新星出版社
- ・渋谷昌三著『面白いほどよくわかる！心理学の本』西東社
- ・植木理恵著『ゼロからわかる ビジュアル図解 心理学』KADOKAWA

※他にもありますので、書店などでさがしてみてください。

- その他、この『レポート課題集』や『試験・スクーリング情報ブック』、『学習の手引き』、『With』でご案内の留意点にご注意ください。

福祉心理学科関連 専門科目

「特講・福祉心理学」の科目内容は、p. 187～195をご覧ください。

福祉心理学科関連専門科目の

スクーリング受講者専用別レポート一覧

科目コード	科目名	別レポート該当単位
CC2103	福祉心理学	2単位め
FA2501	心理学概論	3・4単位め
FC2514	社会心理学	2単位め
FC2515	家族心理学	2単位め
FC3504	環境心理学	2単位め
FD2502	生涯発達心理学	2・4単位め
FD2516	児童青年心理学	2・4単位め
FD2517	老年心理学	3・4単位め
FE2513	教育心理学	1単位め
FE3518	障害児の心理	1・4単位め
FF2511	人格心理学	1・2単位め
FF2519	心理アセスメント	2単位め
FF3503	臨床心理学	1・2単位め
FF3520	心理療法	3単位め
FH3510	認知心理学	1・2単位め
FH3512	学習心理学	1単位め

福祉心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード **CC2103** 担当教員 **渡部 純夫**

■科目の内容

現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。

福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。

■到達目標

- 1) 一人一人の幸せ追及とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。
- 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。

■教科書(「人格心理学」と共通)

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版, 2009年
(最近の教科書変更時期) 2010年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える①	心の学の誕生とその歩み キーワード: 行動主義, ゲシュタルト, 精神分析	心理学の歴史を振り返ることにより, 心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える②	現代の心理学から未来へ キーワード: 環境・社会心理学, 発達心理学, 臨床心理学, 倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより, 未来における心理学の可能性を考える。
3	人は現実世界をどう捉え, 経験し, 困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード: 知覚, 認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び, 日常生活への活用について考える。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」ことの仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか③	「考え行う」ことの仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念についてを学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、文化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から キーワード：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助のあり方を考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

1 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。
2 単位め	人間が生きていく過程において直面すると思われる問題を、「教育領域」「福祉領域」「医療領域」「司法領域」「障がい領域」「思春期領域」「老年期領域」から、自分の関心にそってひとつ選択し、どのように福祉心理学を実践にいかし、支援等に役立てることができるかについて考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不応答を起こすこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておくことが必要になります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うこととなりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

1 単位め アドバイス

- (1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。
- (2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。
- (3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。
- (4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

2 単位め アドバイス

- (1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第4部「ともに生きるための心理学の役割」と第5部「『人生』を生きていくということ」をよく読んで、自分が問題意識を感じたり、興味・関心を引く領域がどれかを見つけてください。
- (2) 次に、その領域に関する情報を文献等で集めてください。施設見学やボランティア活動などで、現場に触れてみる機会があれば体験や経験を通して考えることができるとよいと思います。どうしてもそれ

が無理であれば、テレビや映画、小説など参考になるものを見つけるようにしてみてください。その時感じた気持ちを大事にしながら、その事例をもとに分析するとよいと思います。

- (3) 1単位めで考えた人間理解を基に、実践の場で何ができるか・どのようなアプローチが考えられるかを検討しまとめてください。福祉心理学の可能性と限界を実践に照らしながら理解できるレポートに仕上げてください。
- (4) 実践の場でどんな関わりをしていけばよいかという視点でまとめるとよいと思います。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
 今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
 岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
 水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
 村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年
 藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
 岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
 村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
 佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年(改訂版、2005年)
 宮原和子・宮原英種著『福祉心理学を愉しむ』ナカニシヤ出版、2001年(第2版、2006年)
 白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
 小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
 安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

心理学概論

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上



科目コード **FA2501** 担当教員 **佐藤 俊人**

■科目の内容

生命体が目指すのは「生きる」ことです。ところが「うまく」生きるために、進化の過程で「心」という働きができ、心の働きはしだいに精巧になり、ものの世界とは別に心の世界をつくりました。その心の働きと、心の内容についてのまとまった知識が心理学です。

心理学の概要を、まず心理学の問題史と研究方法の特徴を通して学び、そのあと、心は発達のどのような形成されるのか、人が環境についての情報を入手するための心の働き、欲求や願望の充足を求めるときの心の動き方、経験を蓄積し利用する心の仕組み、困難な場面に直面したときの心の動き方と心の使い方、一人ひとりの心の働きの個性的特徴とその捉え方などについて学んでほしいと思います。

心の「働き」とは、たとえば「見る」「考える」などで、心の「内容」とは、その結果できあがったイメージや知識などのことです。

■到達目標

心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。

■教科書

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（三訂版でも可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学とは (p. 1～4)	心理学とは何を目的としたどのような学問であるかを理解するとともに、心理学の諸領域について理解する。	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使ってどのような情報を収集するのか、そしてどのような領域に分類されているのかを理解しておくことにより、心理学全体のイメージがわかりやすくなります。
2	社会的行動（社会心理学）①個人と社会 (p. 5～18) 第1部1章 1.1～1.3	社会心理学研究の諸理論を理解する。	多くのストレスは対人関係に起因するものです。社会心理学の基本を学ぶことにより、自由に活動しているように見える個人が、いかに社会的な要因によって縛られているかを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会的行動（社会心理学）②コミュニケーション（p. 18～33） 第1部1章 1.4～1.7	集団の中でも個人の動きについて、社会心理学的な視点から理解する。	社会心理学の諸理論は、自分の周りに実際にある事例などを考えながら学習することが、理解をより深めます。日常生活の中で、心理学がどのように関連しているのかを考えながら学習してみましょう。
4	パーソナリティと適応（臨床心理学）①パーソナリティの諸理論（p. 35～42） 第1部2章2.1	さまざまなパーソナリティ理論について理解する。	心理検査によってパーソナリティを測定することは心理学の大きな課題の一つですが、測定されるべきパーソナリティについて理解することにより、次に学習する心理検査の理解がスムーズになります。
5	パーソナリティと適応（臨床心理学）②心理テスト（p. 42～50） 第1部2章2.2	心理アセスメントで使われる心理テストの全体像を理解する。	心理検査には、性格検査、知能検査その他様々な目的の検査があり、その中でも質問紙法、作業検査法、投影法などの手法にわかれています。これら心理検査の基本を学ぶことにより、心理検査の長所と短所を自分なりに考えてみてください。
6	パーソナリティと適応（臨床心理学）③適応と防衛機制（p. 50～68） 第1部2章 2.3～2.6	フラストレーションに関する理論を理解するとともに、私たちがフラストレーションと戦うために持っている防衛機制について理解する。	様々な不適応状態についての基本を概観するとともに、そのような状態に対する心理的支援の方略としてどのような方法があるのか、その基本を学び、将来の臨床心理学的な支援への足がかりをつかみましょう。
7	成熟と成長（発達心理学）①（p. 71～82） 第II部3章 3.1～3.2	発達とは青年期までだけのものではなく、超高齢社会にも対応した発達観があることを理解するとともに、発達心理学における研究方法について理解する。	人間の発達の様相を研究する様々な方法がありますが、それぞれ長所と短所があります。また、例えば遺伝の力を確かめているような研究でも環境要因を排除できていなかったり、因果関係と相関関係を混同していたりする例も少なくありません。自分なりに疑いながら考えてみましょう。
8	成熟と成長（発達心理学）②（p. 82～99） 第II部3章 3.3～3.5	発達に関する古典的な研究について理解する。また、研究の倫理についても考える。	発達心理学では、例えば代理母実験のように、現代では倫理的に実施できないような研究も多くなされてきました。また、人間の親子関係を理解する出发点として、他の動物たちとの比較もされてきました。これら貴重な研究を理解することにより、人間の発達について自分なりに考えてみましょう。
9	学習と動機づけ・情動（行動心理学）①古典的条件づけ（p. 101～108） 第II部4章4.1	心理学における「学習」とはどのようなものかを理解する。その基本的な学習理論である古典的条件づけについて正しく理解する。	レモンを見ただけで、食べてもいないのに唾液が出ます。どうしてこのような現象が起こるのでしょうか。また、この現象を私たちの日常生活に応用するにはどうしたらいいのでしょうか。様々な生理的反応を考え、古典的条件づけの応用性について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	学習と動機づけ・情動（行動心理学）②オペラント条件づけ（p. 108～114）第Ⅱ部4章4.1	オペラント条件づけに関する古典的な実験を知ることにより、オペラント条件づけのしくみと、その長所、短所を理解する。	私たちは日常的に「いいことをしたら賞」を、「悪いことには罰」を与える、与えられることに慣れています。オペラント条件づけを正しく理解することにより、賞罰の与え方、その危険性などについて考えてみましょう。
11	学習と動機づけ・情動（行動心理学）③動機づけ、情動（p. 114～123）第Ⅱ部4章4.2	動物に行動を起こさせる動機について、本能的なものから社会的なものまで理解する。また、感情というものがどのように生じているのかを理解する。	動物の行動には、さまざまな動因が考えられます。本能的なものであったり、社会的なものであったりしますが、その理論を把握することにより、誰かに何かを行動してほしい際の心理的支援に結びつけることができます。また、感情の発生について脳の働きと関連づけて考えてみると、心理療法への応用も可能になるでしょう。
12	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）①記憶（p. 125～138）第Ⅲ部5章5.1	記憶の種類や特徴について理解するとともに、新しい課題に直面した時に人間や動物はどのようにそれを解決するのかについての諸理論を理解する。	私たちは、新しい課題を解決するために様々な方法をとっています。やみくもにやってみることもあれば、こうすればできるはずという、見通しを立てることもあります。
13	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）②（p. 138～150）第Ⅲ部5章5.2～5.3	思考に及ぼす言語の影響に関する諸理論を理解する。また、「知能」に関する諸理論を理解し、自分なりに知能を考える。	何ができれば知能が高いのか、については大変難しい問題です。第2章に取り上げられている知能検査を参照しながら、知能に関する諸理論を学んでみましょう。さまざまな問題解決の方法について学んでみましょう。特に試行錯誤学習や洞察学習については、学習と動機づけの章と関連づけながら考えてみてください。
14	感覚・知覚（認知心理学Ⅰ）（p. 153～177）第Ⅳ部6章6.1～6.6	感覚器から入ってくる情報を、私たちは脳で解釈（認知）して判断している。人間の認知が決して現実、事実をそのまま受け取っているわけではないことを理解する。	感覚器から同じ情報を受け取っても、その理解は一人ひとり違います。それぞれの脳で自分らしく判断しているというのを理解しましょう。
15	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）（p. 179～199）第Ⅳ部7章7.1～7.9	脳の機能に関する基本的な情報を理解する。	脳科学の発展により、人間の思考や感情を脳内物質や電気信号レベルで説明されるようになってきましたが、それでもなお説明しきれない部分はたくさん残されています。脳の各領域の機能を理解しながらも、脳科学で心を説明する限界なども考えながら学習してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	心理学では様々な心理検査（心理テスト）を使って人間の心を理解しようとしています。それら心理検査の種類について概説するとともに、自分だったらどのような目的のためにどんな心理検査を使ってみたいかを記述しなさい。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。
3 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
4 単位め	心の世界は、「意識される部分」のほかに、意識されない「無意識の部分」が存在するという精神分析の立場から、「無意識が確かに存在する可能性がある」ことを誰かに説明するために書くつもりで、具体例を挙げながら記述しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2016』記載の1単位めの課題に合格した方は、4単位めの課題は『レポート課題集2016』の課題で提出してください。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

いくら心理学を極めたとしても、相手の顔をみただけでその人の性格や心理的特徴がわかる人はいません。

その人に何らかの刺激を与えて、それにどう反応するか、の情報をたくさん集めることによって、はじめてその人の心を理解することができるわけです。テキストにも様々なパーソナリティ検査や知能検査が紹介されています（四訂版・三訂版 p. 42～50 改訂版 p. 32～40）が、まずその全体像をわかりやすく説明してみてください。

また、心理検査を使う場合に大切なことは「なんのためにその検査を実施するのか」その目的がきちんと明確になっているか、ということです。誰かにパーソナリティ検査を実施することは簡単ですが、例えば「あなたは社会的」「あなたは内向的」という結果が得られたとしても、それがどのような目的で使われたのかが明確でない場合は、その人をラベリングするただの心理遊びになってしまいます。もしも「社会的な人はオンデマンドによる履修よりも実際にスクーリングに出席したほうが学習満足度が高いかも？」を確かめるために実施したとすれば、「社会的な方はぜひスクーリングへ！」と提案するための重要な情報を得ることができるかもしれません。

このように、心理検査は目的を明確にして実施すべきものですので、今の皆さんにとって「どのような目的のために、どんな人に、どんな検査をすると、どのような提案の可能性がでてくるか」をイメージしながら論述してください。

なお、レポートで言及することは必須ではありませんが、心理検査については一つの検査の結果からそ

の人を判断するのではなく、テストバッテリーという「組み合わせで総合的に判断する」必要があることを付け加えておきます。

2単位め アドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面ではどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとします。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版 p. 108～114 三訂版 p. 100～105 改訂版 p. 14～16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみてもいいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみるとおのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずです。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？おそらく3日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

3単位め アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロウによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版 p. 93 図 3-33, 三訂版 p. 87 図 3-27, 改訂版 p. 143 図 6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。

このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

4単位め
アドバイス

人間の心を理解するには、その人の行動など「観察できるもの」で判断するという立場もありますが（行動主義）、行動だけでは測れない心、他者からだけではなく自分ですらわからない自分の心が存在するという立場の心理学（精神分析）もあり、それこそが大切な心かもしれません。いわゆる無意識といわれる領域ですが、ふだんは意識に隠れてなかなか外には出てきません。そのような無意識を理解するために精神分析で有名なフロイトは「夢」を集めて分析したり、催眠術を使って一時的に意識を軽くしたりすることにより、「無意識の部分から出てくるもの」を手がかりに研究したわけです。

この課題は難しいように思われるかもしれませんが、私たちは「本当にやりたいこと」を、知らず知らずのうちに身につけた「道徳、倫理観」のためにがまんして、「社会でうまくやっていけるような行動」をしているわけであり、その「本当にやりたいこと」を自分自身でも気づかない可能性があるわけです。インターネットで「フロイト 症例」「エディプスコンプレックス」などで検索してみると、そのあたりの心の複雑な動きが具体的に見えてくるかもしれません。

あるいは、心のうちにあるフラストレーションとうまく付き合うための「防衛機制」という仕組みに絡めて論じることも可能です。「自分が不得意な分野はあきらめて、別な分野で頑張ろう！」という防衛機制（補償）はもしかすると意識なのか無意識なのかイメージがわきにくいかもしれませんが、「退行（赤ちゃんがえり）」などは、意志とは関係なく自然にそうになっている例としてわかりやすいと思います。

これらのすべてに言及する必要はありませんが、無意識などない、と考えている人に無意識の存在の可能性を少しでもわかってもらえるようなレポートにしていただければと思います。

■科目修了試験 評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA, 2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

心理学実験 I		単位数	履修方法	配当年次
		2	SR(実験)	1年以上
科目コード	FB2505	担当教員	佐藤 俊人・大関 信隆 山口奈緒美・柴田 理瑛	

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。不測の要因が介入しないように条件を統制するところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
- 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
- 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
- 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
- 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。

■教科書（「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ, 2004年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（初版または第2版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※福祉心理学科の方の教科書配本方法

- ・新入生は入学時に配本します。

※社会福祉学科・科目等履修生の方の教科書配本方法

- ・教科書1)は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得者について、教科書2)は上記3科目と「心理学研究法Ⅰ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得者について、配本希望をいただいた方に発送します。『学習の手引き2012-2016版 or 2017版』巻末様式25、または『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙の「教科書特例配本希望届（無料）」をご利用いただき、郵送またはFAX（または同様の内容を記載してugr@tfu-mail.tfu.ac.jpあてにメール）でお申込みください。

■単位修得方法

- ①スクーリング受講+②実験レポート（4つ）提出・合格+③単位認定レポート（1課題）提出・合格にて単位を修得します。

■評価の方法

- ①スクーリング受講：仙台会場4日間、札幌会場3日間連続で受講してください。
- ②実験レポート（4つ）提出・合格：4種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。
- ※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。
- ※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。
- ③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p.27記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。
- ※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備考
仙台	2017年8月30日	2017年12月24日	9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2017年8月31日
札幌	2017年11月15日	2017年12月24日	—

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？ アルカリ性の液体をつけると…？ 理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけでなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確認するという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけてい

ただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。4つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■スクーリング講義内容・進め方

このスクーリングでは、「ミュラーリヤー錯視」、「刺激の弁別閾」、「印象形成」、「長期記憶の検索」という4つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（仙台会場は1日1つずつの実験を行い4日間、札幌会場は2日めに2つの実験を行い3日間のスクーリングとなります）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3	刺激の弁別閾②	実験実施。
4	刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
9	印象形成②	実験実施。
10	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
11	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
12	長期記憶の検索②	実験実施。
13	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。

▶実験1「刺激の弁別閾」（担当 仙台会場：大関信隆 札幌会場：佐藤俊人）

刺激の弁別閾とは、2つの刺激の強さの違いを区別する感覚の分解能に関する閾（感覚の相違を引き起こす境界）のことです。本実験では人間の触覚について、恒常法や極限法といった精神物理学的測定法を用いて、その弁別閾を推定する実習を行います。

▶実験2 「ミュラー・リヤアの錯視」 (担当 仙台会場：柴田理瑛 札幌会場：佐藤俊人)

私たちの知覚は、物理的世界のそのまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

▶実験3 「印象形成におよぼす背景効果」 (担当 仙台会場：山口奈緒美 札幌会場：佐藤俊人)

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるとともに、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験4 「長期記憶の検索」 (担当 佐藤俊人)

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか（ストラテジーという）を実験的に調べます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中に行った4つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『福祉心理学科スタディ・ガイド』のII章を熟読してきてください（p.26在宅学習の7）。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいってください。

教科書・レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	科学と実証 (教科書1) 第1章)	心理学でなぜ実験を行うかを理解するとともに、因果関係と相関関係の違いや、因果関係を確かめることのむずかしさについて理解する。	小さな子どもが、数年間のうちに「身長も高くなり」同時に「知能も高くなった」からといって、「身長が高い方が知能が高い」という結論にはなりません。因果と相関の違いを理解することで、心理学で因果関係を確かめる重要性和むずかしさを考えてみましょう。
2	さまざまな実験法 (教科書1) 第7章)	研究の目的によって使い分けられる、さまざまな実験法についての全体像をとらえる。	まずは、テキストの随所に出てくる「独立変数」「従属変数」について、事項索引(教科書1) p. 347～)で探して理解しましょう。その上で、それぞれの実験法の長所と短所、短所を補うための工夫などを考えてみましょう。
3	研究の実施 (教科書1) 第14章)	心理学実験の研究計画や論文・レポート作成の際の章立てを理解する。	特に7節の「研究の立案と実施」については十分に理解し、研究計画や論文・レポート作成の基本について学んでおきましょう。
4	結果の解釈 (教科書1) 第15章)	実験を行い、その結果を解釈する際の留意事項について理解する。	まず、6章の剰余変数に関する部分を読み直してみましょう。その上で、実験で扱わなかった要因の可能性などを考え、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えてみましょう。
5	統計的分析 (教科書1) 第16章)	実験の目的と実験計画に応じた統計的な分析の基本を学ぶ。統計の具体的手法を学ぶよりも、どのような場合にどのような統計が使えるかのイメージをとらえる。	難しいイメージのある統計的分析ですが、何を確かめるための分析かを考えることにより、身近なものに感じられます。統計的手法は実験の中心ではなく、実験結果をまとめる際の「道具」にすぎないことを念頭に置きながら全体のイメージをとらえましょう。
6	研究報告 (教科書1) 第17章)	心理学研究における論文、レポート執筆の基本について理解する。また、表17-1により、論文の標準的な構成について学ぶ。	論文、レポート執筆にはそれぞれの学問分野独特のルールや表現方法・・・いわば方言があります。一見面倒くさそうですが、これらの基本を身に着けることにより、必要な情報をわかりやすく的確に他者に伝える力がつき、心理学のレポート作成以外の場面においても応用できるはずです。
7	実験の意味・実験レポートの書き方 (教科書2) II章 p. 48～73)	実験の意味や具体的な実験レポートの書き方について学ぶ。	簡単な手続きによって、心理学的現象を実験によって確かめることが可能です。剰余変数や交互作用などの危険性もありますが、まずは簡単な実験により、心理学実験の面白さを理解することが大切です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	論文の作成 (教科書2) IV章48 p. 174~194)	学術論文の作成について学ぶ。	学術的な研究論文は、実験レポートの延長上にあります。実験や調査によって人間の心理を把握する面白さを実感できたならば、ぜひ卒業研究にもチャレンジして頂ければと思います。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	スクーリング終了後1課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題1 (担当) 佐藤俊人	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね7個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題2 (担当) 山口奈緒美	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差をあげ、説明し、対策を述べなさい。
課題3 (担当) 柴田理瑛	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものであると思うか、考察しなさい。
課題4 (担当) 大関信隆	心理学の方法論の一つとしての実験(法)の意味について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 23記載の期限内に提出してください。レポート用紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいて結構です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

**課題1
アドバイス** スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能で

しょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数（刺激の種類によっても変わりますが3～5くらい？）からマジックナンバーである7をはさんで、覚えているのが無理な数（15以上？）まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないのでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が 7 ± 2 になればマジックナンバー7が検証されたことになります。もし実験の結果がマジックナンバーが 7 ± 2 から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えばチャンクという考え方も有効なのではないでしょうか。

課題2 アドバイス

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たちの判断につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

課題3 アドバイス

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

課題4 アドバイス

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われるかもしれません。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯瞰的に眺められるかと思えます。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて $+\alpha$ の考察をしてみることもよいかもしれません。

■参考図書

課題1：金城辰夫編『図説現代心理学入門』培風館、1996年（「心理学概論」の教科書改訂版 p. 94～97・三訂版 p. 142～145・四訂版 p. 127～128）

課題2：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ 13）サイエンス社、1991年
ほか、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題3：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、2005年

北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、2010年

丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996年

椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995年

梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版 心理学事典』平凡社、1981年

<http://www.kecl.ntt.co.jp/IllusionForum/ja/visual.html>（ホームページ「錯視について」）

<http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/>（ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」）

<http://psywww.human.metro-u.ac.jp/sakusi/>（ホームページ「錯視の広場」）

課題4：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年

小牧純爾著『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、2000年

利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993年

宮原英種・宮原和子監修 加知ひろ子・武藤幸穂著『心理学実験を愉しむー心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、2003年

大山正・中島義明編『実験心理学への招待』（新心理学ライブラリ8）サイエンス社、1993年

中島義明著『実験心理学の基礎』誠信書房、1992年

B. フィンドレイ著 細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996年

■スクーリング受講上の注意

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」に受講の順序指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは、どちらを先に受講していただいても結構です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

心理学実験Ⅱ		単位数	履修方法	配当年次
		2	SR(実験)	1年以上
科目コード	FB2506	担当教員	中村 修・吉田 綾乃 平川 昌宏・平泉 拓	

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを中心にしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。
- 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマにのっとった意味づけ（考察）をすることができる。
- 3) 研究記述のフォーマットにのっとって、レポートを作成することができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ、2004年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（初版または第2版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄をご覧ください。

■単位修得方法

- ①スクーリング受講+②実験レポート（4つ）提出・合格+③単位認定レポート（1課題）提出・合格にて単位を修得します。

■評価の方法・基準

- ①スクーリング受講：仙台会場4日間連続で受講してください。
- ②実験レポート（4つ）提出・合格：4種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験

方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p. 34～35記載の「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備考
仙台	2017年8月22日	2017年12月24日	9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2017年8月31日

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験Ⅱと心理学実験Ⅰが目的とするものは半分同じで、半分異なると言っていいでしょう。

「同じもの」は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして○○な行動をするのだろうか？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいのでしょうか？この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうか、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

次に「異なるもの」ですが、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う4つのテーマは以下に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■スクーリング講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「鏡映描写」、「概念学習」、「社会的影響」という4つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学における実験の意義および仮説検証のロジックの説明
2	系列学習法①	テーマおよび実験方法の説明

回数	テーマ	内容
3	系列学習法②	実験実施
4	系列学習法③	データ分析と実験レポートの記述法
5	鏡映描写①	テーマおよび実験方法の説明
6	鏡映描写②	実験実施
7	鏡映描写③	データ分析と実験レポートの記述法
8	概念学習①	テーマおよび実験方法の説明
9	概念学習②	実験実施
10	概念学習③	データ分析と実験レポートの記述法
11	社会的影響①	実験実施
12	社会的影響②	テーマおよび実験方法の説明
13	社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法

▶実験1「系列学習法」 (担当 平川昌宏)

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な3タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

▶実験2「鏡映描写」 (担当 平泉 拓)

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験3「概念学習」 (担当 中村 修)

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目（抽象）し、また他の特性群を無視（捨象）することによって、任意のカテゴリー（概念）を「心」の中につくりあげると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます（ところで何が同じ?）。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

▶実験4「社会的影響」 (担当 吉田綾乃)

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中の4つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『福祉心理学科 スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

教科書・レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実験と観察 (教科書1) 第2章)	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。
2	実証の手続き (教科書1) 第3章)	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作 (教科書1) 第4章)	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	従属変数の測定 (教科書1) 第5章)	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制 ①：固体内変動の統制 (教科書1) 第6章)	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。
6	剰余変数の統制 ②：直接的な統制 (教科書1) 第6章)	実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。	実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。
7	仮説とその検証 (教科書2) IV章49・50 p. 195～204)	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。
8	独立変数・従属変数とデータ収集法 (教科書2) IV章51 p. 205～211)	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかけるとともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	スクーリング終了後1課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題① (担当) 平川昌宏	系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。
課題② (担当) 平泉拓	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。

<p>課題3 (担当) 中村 修</p>	<p>次の4つの尺度について、日常生活の中から2つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような4つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度 (nominal scale), ②順序尺度 (ordinal scale), ③間隔尺度 (interval scale), ④比率尺度 (ratio scale)。</p>
<p>課題4 (担当) 吉田綾乃</p>	<p>社会的な手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 31記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

課題1 アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題2 アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておく、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしてきた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独特のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずですよ。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題3 アドバイス

この課題では、4つの尺度の概念弁別がきちんとなされているかが評価ポイントとなります。心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書などを参考になさった方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらうのは、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

課題4 アドバイス

スクーリング時の解説，配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけでなく，具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題1：スクーリング時に紹介します。

課題2：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社，2001年

課題3：山内光哉著『心理・教育のための統計法〈第3版〉』サイエンス社，2010年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版，1997年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房，2003年

課題4：アロンソン，E. 岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル 第11版 人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社，2014年

本間道子著『集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社，2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミクス 集団と群集の心理学』有斐閣，2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社，2008年

■スクーリング受講上の注意

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」に受講の順序指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは，どちらを先に受講していただいても結構です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため，とくに，「総合的な人間理解力」，「根拠に基づく情報発信力」，「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

心理学研究法 I			単位数	履修方法	配当年次
			2	R or SR	2年以上
科目コード	FB3508	担当教員	佐藤 俊人・吉田 綾乃 大関 信隆・平川 昌宏		

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「心理学実験Ⅱ」として科目が設定されているので、ここでは、**実験法以外の方法**について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法Ⅱ」のスクーリングにおいて解説する予定になっています。

心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つことになります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。

なお、この科目のスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。

■到達目標

- 1) 心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。
- 2) 独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。
- 3) 心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。
- 4) 「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることができる。

■教科書（教科書2）は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 大村彰道編著『教育心理学研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、2000年
- 2) 『福祉心理学科 スタディ・ガイド（第3版）』Ⅲ章 東北福祉大学（初版または第2版でも可）（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書1）は履修登録時に配本します。

※教科書2）の配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄をご覧ください。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学における様々な研究技法 (教科書1) 1章)	心理学研究において、様々な研究技法(アプローチ)を習得することの重要性を理解する。 キーワード：研究技法、観察、面接、質的分析、質問紙調査、実験	テキストでは、著者の研究を具体例とし、自分の研究アイデアを実現する上では様々な研究技法を習得し、使い分けることの重要性が述べられています。この点を学習し、これ以降の学習の動機づけとしてください。
2	観察法の基本的理解 (教科書1) 2章1節)	観察法の2つの流れについて、さらには、それらを使い分けることの重要性について理解する。 キーワード：自然科学的観察法、参与観察	以下の点について説明できるように学びを進めてください。 ・自然科学的観察法の考え方と基本原則 ・伝統的な観察法の限界とそれを補う手法としての参与観察 ・2つの観察法はどのような目的で用いられるのか
3	観察法の実際① (教科書1) 2章2節)	自然観察法を用いた研究事例にふれることで、自然観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：自然観察法、符号化	研究事例では、2～3歳児の「泣き」や他児の「泣き」に対する反応の個人差を検討するために、自然的観察法が用いられています。その際、「泣き」のエピソードやそれに対する反応を符号化し、分析可能なデータとすることが大切になります。具体的な符号化の方法や内容に着目しながら、理解を深めていってください。
4	観察法の実際② (教科書1) 2章3節)	実験観察法を用いた研究事例にふれることで、実験観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：実験観察法	研究事例では、子どもの「恐れ(用心深さ)」や「てれ」の表出についてデータを得るために、実験観察法が用いられています。この研究事例を通して、実験観察法の利点について考えながら、学習を進めていってください。
5	観察法の手順と留意点 (教科書1) 2章4節)	・自然観察法と実験観察法の違いとそれぞれの利点・欠点について理解する。 ・観察法における現象の切り取り方やその記述の仕方について理解する。 ・観察データの信頼性と妥当性をチェックすること・倫理性を意識することの重要性を理解する。 キーワード：偶発的観察法、組織的観察法、日誌法、事象見本法、時間見本法、場面見本法、逐一行動描写法、カテゴリーチェック法、評定尺度法、観察者(評定者)がおかしやすい誤り、操作的定義、生態学的妥当性	まずは、観察法を自然観察法と実験観察法の2分し、それぞれの利点と欠点について整理していってください。また、観察法を用いた別の研究を見たときに、現象の切り取り方や記述の仕方という観点からその研究を整理できるように、理解を深めていってください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	面接法の基本的理解 (教科書1) 3章1節)	<ul style="list-style-type: none"> ・「面接法 (調査面接)」と「日常会話」の違いについて理解する。 ・「面接法 (調査面接)」の利点と留意点について理解する。 キーワード：リサーチクエスション, 臨床面接, 調査面接	「面接法 (調査面接)」と「日常会話」の違いについては、3点指摘されています。次に面接法を用いた研究実践を学ぶ際に、この3点がどのように具体化されているかを確認していけるよう、学習を進めてください。
7	面接法の実際① (教科書1) 3章2節)	構造化面接を用いた研究事例にふれることで、構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：構造化面接, ラポール, プロトコルデータ	研究事例では、絵本における挿絵間の因果関係の理解がどのように発達するのかを検討するために、構造化面接が行われています。具体的な構造化の内容、さらには、データを分析する際の具体的指標などに着目しながら、学習を進めてください。また、研究協力児が面接に際し過度に緊張しないようになされた工夫についても学ぶ意義があると思います。
8	面接法の実際② (教科書1) 3章3節)	非構造化面接を用いた研究事例にふれることで、非構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：非構造化面接, 記述モデル, 仮説生成	研究事例では、母親の適応 (発達) 過程の特異性・独自性を検討するために、非構造化面接が行われています。非構造化面接とデータ分析を通じた仮説形成の過程について学びを進めてください。
9	面接法の手順と留意点 (教科書1) 3章4節)	<ul style="list-style-type: none"> ・面接法の特徴、その利点と限界 (留意点) について理解する。 ・面接法の手続きと各過程における留意点を理解する。 キーワード：再現可能性・追試可能性, プロトコル分析	面接法の利点と留意点について、第7回目の学習内容と合わせて説明できるように、学習を進めてください。
10	質問紙法の基本的理解 (教科書1) 5章1節)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙法の利点と限界 (留意点) について理解する。 キーワード：構成概念	テキストには「教育心理学研究のいくつかのアプローチの中で、質問紙法によるアプローチはもっとも多用されている」と述べられています。質問紙法のメリットとデメリットについて他の研究法と比較しながら理解するようにしてください。
11	質問紙法の実際① (教科書1) 5章3節)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 ・相関, 重回帰分析, 分散分析といった分析法がどのような目的で用いられているかを理解する。 キーワード：相関, 重回帰分析, 分散分析	各分析法の簡単な説明が、テキスト第5章第5節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	質問紙法の実際② (教科書1) 5章4節)	<ul style="list-style-type: none"> 研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 因子分析がどのような目的で用いられているかを理解する。 キーワード：因子分析	11回目の学習と同様に、因子分析の説明がテキスト第5章第5節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。
13	質問紙法の手順と留意点 (教科書1) 5章5節)	<ul style="list-style-type: none"> 質問紙法の手続きと各過程での留意点について理解する。 既存する質問紙を使用する場合、その尺度名だけではなく、具体的な質問項目についてもチェックすることの必要性について理解する。 「相関関係」と「因果関係」の違いについて理解する。 キーワード：尺度の信頼性、尺度の妥当性、相関関係、因果関係	尺度の「信頼性」と「妥当性」について説明できるようにしましょう。質問紙法を用いた研究では、変数間の相関関係を踏まえて、変数間の因果関係について検討することがあります。「相関関係」と「因果関係」の違いを正しく理解することは、結果の考察を行う上でも重要になります。「相関関係」と「因果関係」の違いについて説明できるように学習を進めてください。
14	心理学研究の基本① 仮説を立てる (教科書2) III章20)	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 キーワード：仮説、独立変数、従属変数	14回目・15回目の学習内容はこれまでの学びの前提にある、「心理学研究を進めるにあたって基本となる事柄」です。今回の学習内容の観点からこれまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。
15	心理学研究の基本② 構成概念を具体化し、測定する (教科書2) III章21)	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念、構成概念の具体化、評定尺度法	14回目と同様に、今回の学習内容の観点から、これまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。

■レポート課題

この科目は2単位です。したがって、提出しなければならないレポートは2つですが、課題は5つ設定してあります。1単位めは、課題1～3の中からいずれか1つを選んでレポートを作成し提出してください。2単位めは、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講するかどうかによって、取り組む課題が異なります。つまり、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講しない人は課題4に、受講する人は受講後に課題5に取り組むレポートを提出することになります。

なお、1単位めの課題と2単位めの課題のうち、どちらの課題を先に行っても構いません。ただし、2単位めの課題が「観察法」「面接法」「質問紙法」の理解を問う課題であるのに対して、1単位めの課題が各研究法に関する理解を応用して自身で研究計画を立てる課題になっていますので、2単位めの課題を先に行った方が、1単位めの課題もより容易に取り組むことができると思います。

<p>1 単位め (1課題選択)</p>	<p>課題1 気の長い人と短気な人を観察法によって見分けるための研究をするとしたら、どのような観察を行うかを中心に、研究計画を立てなさい。</p> <p>課題2 小学生における食事の好き嫌いに影響する要因について面接法で研究するとします。半構造化面接によって調査を行うとしたら、どのような研究計画になるか考えなさい。</p> <p>課題3 子どもの攻撃性の高さに対するテレビの影響というテーマで、質問紙法を使って研究するとしたら、どのような研究をするか、研究計画を立てなさい。</p>
<p>2 単位め</p>	<p>課題4 (「研究法Ⅰ」スクーリングを受講しない人はこの課題を行ってください) 「観察法」「面接法」「質問紙法」のそれぞれについて、その方法の効用と限界(留意点)を述べなさい。</p> <p>課題5 (「研究法Ⅰ」スクーリングを受講する人はこの課題を行ってください) 「心理学研究法Ⅰ」スクーリング終了時に配布される研究論文の中から1つを選び、 Ⅰ. 選択した研究の①目的、②仮説、③方法をまとめなさい。 Ⅱ. 選択した研究と同じ目的や仮説で研究を行うとすれば、あなたは「観察法」「面接法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか、そして、なぜその方法を選択するかについて述べなさい。 課題5の場合、レポート課題記載欄は研究論文名を記載してください。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが一部変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■レポート提出上の注意

- (1) この科目のレポートは、1単位ずつ提出してください。1単位の課題の字数は2,000字程度ですが、4,000字程度まで記入することも可です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。
- (2) 1単位めの課題が取り組みにくく感じる方、再提出が続く方は、この科目のスクーリングを受講してから提出してください。
- (3) 2単位め課題4や旧2単位めレポート課題に合格した方もスクーリングを受講することができます。その際、2単位め課題5の提出は不要です。
- (4) スクーリングを受講しない方は、通常の科目と同様に科目修了試験受験の必要があります。この科目のスクーリング試験、科目修了試験ともに、心理学研究法の基礎的な理解がないと合格が難しい傾向にありますので、充分学習をしてから臨んでください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

課題1～3は、同じ種類の課題ですので、まとめて解説します。それぞれの課題には、テーマと使用方法が指示されています。この科目の目標は、研究法を学習することになるので、それぞれの方法についての学習を進めたくうえで、つまり、それぞれの方法について十分理解したうえで、指示に従って研究の計画を立てるとというのが課題です。次のような学習の進め方をし、そのうえで、以下に示すような内容のレポートにまとめてください。

- (1) 教科書の1章を読んで、研究の進め方についての全体的な理解を図ってください。

ここでは、研究の進め方についての一般的な考え方と、実際の研究に基づいた研究の進め方の例とが書かれています。1節の1と2をまず読み、次に3節を読んで理解してから、2節の事例を読んだ方がわかりやすいかもしれません。また、2章以降のそれぞれの方法についての理解を確立した後で、もう一度2節を読むと、より一層理解が深まると思われます。

- (2) 次に、それぞれの方法（2章から5章）について理解します。それぞれの方法について1節に「～法への招待」、2節に研究紹介、3節に「～法の手順と留意点」という構成で書かれていますので、まず1節を読んで、その方法についての基本的な理解を確立し、次に3節を読み、一般的な理解が進んでから、2節の研究例を通してその方法についての具体的な理解を図るという学習の仕方が望ましいでしょう。
- (3) この段階で、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つの方法についての理解ができたこととなります。次に、課題1～3のどれかを選んで、そこで使うことになっている方法について改めて読みなおして、理解を確実なものにしてください。特に、各章2節を参考にすることになりますので、そこはしっかり読みましょう。なお、課題2に取り組む際「半構造化面接」の意味を辞典、参考図書で調べて理解する必要があります。
- (4) いよいよ課題に取り組めます。それぞれに示されているテーマは漠然としていますので、まず研究の目的をはっきりさせることから始めます。つまり、そのテーマにそって、最終的に何を明らかにしたいか、ということをもまず考えなければなりません。課題1は「気が長いか短気か」ですからはっきりしていますが、次のように取り組むとよいでしょう。「気の長い・短い」は、心理学ではこれまでどのような分野で扱われてきたのでしょうか。これから研究計画を立てようとするテーマに関連した行動のある程度特定することが必要です。例えば、「気の長い・短い」は、これまでもよく「のろま・ぐず」とか「せっかち・早とちり」などと称されてきたものに近いかもしいことに気づくでしょう。そこで、その行動は日常生活のどんな場面でよく見かけるか考えてみてください。このように研究しようとする行動とその「気の長い・短い」の（自分なりの）定義をし、仮説を立てて研究内容を絞り込むことです。その後、研究対象、観察場所、時間、観察行動などを考えてください。観察の手法は、自然的観察だけでなく、その行動が良く見かけるように仕掛けた実験的観察でもよいでしょう。組織的な観察法を用いる場合は、観察チェックに必要な行動カテゴリーをどんなものにするか考えることが必要です。その後の結果処理、すなわちデータがどう示されれば仮説が検証されると言えるのかを考えると良いでしょう。課題2は「食事の好き嫌い」としか指定していないので、「食事の好き嫌い」ということをどのように捉えるかを具体的に考えなければなりませんし、同時に、「影響する要因」といっても、さまざまに考えられるわけですから、どんな要因を取り上げるかということも考える必要があります。課題3も、「テレビの影響」といってもいろいろ考えられるので、そこをどう捉えるか、ということがポイントになります。
- (5) 研究についての具体的なイメージができたなら、次は「仮説」を立てるという段階です。「仮説」というと難しく聞こえるでしょうが、単純に言えば「どのような結果を予想するか」ということです。課題1でいえば、「気の長い人と短気な人の行動の違いは、こういうところに現れるだろう」と予想することであり、課題2では「食事の好き嫌いは、こういう要因が影響しているのではないか」と考えることであり、課題3では「子どもの攻撃性に影響するのは、テレビのこういう面ではないか」と考えること

です。

この仮説がないと、研究計画が立てられないので、頑張って考えてください。

(6) 実際に研究を行うとなるといろいろ制約が出てきますが、ここでは机上で計画を立てるという課題なので、実行可能かどうかは考えないで、自由な発想で計画を考えてください。上記の仮説が明らかになったとして、いよいよ具体的な研究計画を考えます。研究計画の具体的内容については、課題ごとに説明します。仮説を明らかにした上で、

①課題1：1) 観察の対象をどのような人にするか また、その人数

2) 観察の場所と時間

3) どのような行動を観察対象とするか◎

4) 観察の仕方と記録の仕方◎

5) 観察が終わった後で、どのように分析するか

②課題2：1) 面接の対象をどのような人にするか また、その人数

2) 面接の内容（具体的な質問）と記録の仕方◎

3) 面接調査が終わった後で、どのように分析するか

③課題3：1) どのような子ども（年齢・性別など）を質問紙調査の対象とするか

子どもたちが低年齢で質問紙に答えることが難しい場合は、どのような人たちを質問紙調査の対象とするか

2) どのような質問紙（具体的質問項目）を使うか◎

質問紙には、①視聴時間の長さや視聴時間帯あるいは単独視聴が多いのか複数（例えば家族で）視聴が多いのか、視聴番組の内容といった「テレビの見方や内容など」について＝独立変数を測定するための質問項目と②「攻撃性（の量的・質的な違い）」＝従属変数を測定するための質問項目が含まれていることとなります。①については、「仮説」にしたがってどのような内容をどのような項目で尋ねたらよいか考えてください。また、②については、全部で6項目とします。そのうち、3項目は「すぐに暴力をふるう」「言葉遣いが荒い」「つまらない、ささいなことでイライラする」とし、残り3項目は攻撃性を調べる上で適切な項目を自分で考えてください。ぜひ心理学関連の辞典、辞書で「攻撃性」の意味を調べてみてください。その際、上で挙げた3項目の単純な言い換え（たとえば、「簡単に手を挙げる」「乱暴な言葉を使う」「ちょっとしたことで腹を立てる」など）にならないよう注意してください。

3) 調査の仕方

4) 調査が終わった後で、どのように分析するか

どの課題も、教科書のそれぞれの方法の「研究紹介」に示されている研究例を参考に計画を立ててください。紹介されている研究ほど綿密な計画でなくて構いませんが、基本的には同じような内容になります。また、レポートのポイントは、◎がついた項目です。

(7) レポートの内容

レポートは、次のような内容にしてください。

1) その課題を選んだ理由

2) 研究の目的と仮説

3) 研究計画

4) その課題に取り組んで考えたこと、難しかった点、工夫したところ、疑問、感想など

2単位め アドバイス

(1) 課題 4

この課題は、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講しない人が、2単位めの課題として取り組むものです。レポート作成にあたっては、1単位めの課題のアドバイスで述べた(1)と(2)の内容が非常に重要となります。教科書（とりわけ第2章、3章、5章の3節）をよく読み内容を理解してから課題に取り組んでください。

心理学の研究を進める上では、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」によって用いられる方法が異なります。また、それぞれの方法を通して得られるデータの性質（データの数や内容）や検査実施上の利点・留意点（一度に得られるデータの数、調査者や調査協力者の負担など）も異なります。したがって、実際に研究を行う際には、研究の目的や対象、仮説に合わせて、どの方法を用いるかを選択しなければなりません。では、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれによって、明らかにできる事柄、できない事柄はどのようなことなのでしょう。また、それぞれの方法によって得られたデータの特徴や実施上の利点・留意点はどのようなことなのでしょう。以上の内容について、それぞれ「効用」と「限界（留意点）」に分けて整理し、レポートを作成してください。

(2) 課題 5

この課題は、「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングを受講する人が、2単位めの課題として取り組むものです。「研究法Ⅰ」のスクーリングでは、「研究法の成り立ち」「観察法」「面接法」「質問紙法」に関して、その内容や効用・限界について解説していきます。また、この4つのテーマについて、より具体的に理解してもらうために、適宜実習を行います。そして、スクーリング終了後、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を実際に用いた研究論文を配布します。課題5は、これらの配布された研究論文の中から1つを選び、まず、その研究の①目的、②仮説、③仮説を確かめるために用いられている方法とその詳細についてまとめます。さらに、④あなたなら仮説を確かめるためにどの方法を用いるかについて考えを述べるのが課題となります。

レポートは、次のような内容で作成してください。

①研究の目的

心理学研究においては、研究者が関心を向けた要因（従属変数）に対して影響を及ぼす別の要因（独立変数）が考えられ、この独立変数と従属変数の関係について検討が行われます。たとえば、『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅲ章の「心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント」について見てみると、清兵衛は「桶の売り上げ」に関心を向け（従属変数）、それに影響を及ぼす要因（独立変数）として、「風が吹くかどうか」や「店の雰囲気」を取り上げています。では、選択した研究論文において、研究者は独立変数、従属変数としてどのような要因を取り上げているのでしょうか。言い換えれば、どのような要因とどのような要因との関係を見ることが目的となっているのでしょうか。この点についてまとめてください。

なお、「①研究の目的」と次に述べる「②研究の仮説」は、研究論文では多くの場合、「問題と目的」の中に書かれています。また、研究によっては論文の題目を見るだけで、独立変数や従属変数が何であるかわかる場合があります。たとえば、「〇〇が××に及ぼす影響」といった題目であれば、〇〇が独立変数であり××が従属変数であることがわかります。

②研究の仮説

「①研究の目的」で述べた独立変数と従属変数について、独立変数は従属変数に対してどのような影響を及ぼすのでしょうか？ この点について研究者が調査前に考える「仮の答え」が仮説となります。たとえば、先ほどの例を再び用いると、清兵衛は「風が吹くかどうか」という独立変数が「桶の売り上げ」という従属変数に対して、「風が吹くと桶の売り上げが下がってしまう」という方向ではなく、「風が吹くと桶の売り上げが上がってくれる」という方向で影響を及ぼすことを仮説として考えています。そして、実際の研究では、データを集め分析した結果に基づいて、その仮説が正しいかどうかについての検討が行われます。ここでは、選択した研究論文の中でどのような仮説が考えられているかについてまとめてください。

なお、研究論文においてはこの仮説が必ずしも明確に書かれているわけではありません。その場合、研究者がどのような仮説を考えていたかについて論文の中から読み取ることが重要となります。このレポート課題でも、「①研究の目的」で明らかにした独立変数と従属変数との関係について、つまり、**独立変数が従属変数に及ぼす影響の方向**について読み取り明記してください。

③研究の方法

ここでは、大きく [A. 調査の手続き] と [B. 独立変数と従属変数とを測定するために用いられた尺度] についてまとめてください。以下、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれについて詳しく説明していきます。

「観察法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが観察の対象となっているか。また、その人数
- 2) 観察の場所や状況、所要時間
- 3) 観察方法（自然観察法か実験的観察法か）
- 4) 観察の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている行動カテゴリーや基準。そして、その行動カテゴリーや基準の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容、そして、従属変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容を分けてまとめてください。

「面接法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが面接の対象となっているか。また、その人数
- 2) 面接が行われた時期、所要時間
- 3) 面接方法（構造化面接か非構造化面接か半構造化面接か）
- 4) 面接の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている質問の具体的内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた質問内容と、従属変数を調べるために用いた質問内容を分けてまとめてください。

「質問紙法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが質問紙調査の対象となっているか。また、その人数
- 2) 調査の仕方（質問紙の配布方法や回収方法）
- 3) 用いた質問紙や尺度。そして、その具体的な項目

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている尺度とその具体的な項目。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた尺度や質問項目と、従属変数を調べるために用いた尺度や質問項目とを分けてまとめてください。

④あなたなら「面接法」「観察法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか

選択した研究論文では、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を用いて研究が行われています。「観察法」「面接法」「質問紙法」にはそれぞれそれを用いる効用と限界があります。つまり、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」さらには「どのような仮説を確かめたいのか」などについて、得意な部分と不得意な部分がそれぞれあるのです。そして、研究計画を立てる際にはこのような各研究法の効用と限界についての理解に基づき、研究の方法を選択することが必要になります。

では、選択した研究論文と同じ目的や仮説のもとで研究計画を立てる場合、あなたなら「面接法」と「観察法」と「質問紙法」のうちどの方法を選択するでしょうか。ここではその方法と選択理由について述べてください。もちろん、研究論文と同じ方法を選択しても構いません。ただし、その選択理由として「選択した論文で用いられていた方法であるため」というのはやめてください。たとえば、「この研究は○○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、××という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）を用いるのが適切だと考える」といった形でまとめるようにしてください。さらに、「この研究は○○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、△△という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）はあまり適切ではないと考える」といった主張を付け加えても構いません。

■科目修了試験 評価基準

- ・問題設定の条件を満たしているか。
- ・的確な言葉を用いて、論理的に説明されているか。
- ・具体例を挙げてという設定に対し、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

以上の観点によって、科目修了試験100%で評価を行う。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編著『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著『心理学研究法』放送大学教育振興会（NHK出版）、2003年
 海保博之・大野木裕明・岡市広成著『心理学研究法 [新訂]』放送大学教育振興会、2008年
 大野木裕明・渡辺直登著『心理学研究法（改訂新版）』放送大学教育振興会、2014年
 高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣、2004年
 『心理学マニュアル 研究法レッスン』『心理学マニュアル 面接法』『心理学マニュアル観察法』『心理学マニュアル 質問紙法』『心理学マニュアル 要因計画法』北大路書房、1997～2000年
 高橋順一ほか編著『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
 日本発達心理学会監修『心理学・倫理ガイドブック』有斐閣、2000年
 『発達研究の技法』『臨床心理学研究の技法』『社会心理学研究の技法』『性格研究の技法』『認知研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、1999～2000年
 大山正監修『心理学研究法1～5』誠信書房、2011～2012年
 『心理学研究法』（1～17）東京大学出版会
 W. J. レイ著・岡田圭二訳『エンサイクロペディア 心理学研究方法論』北大路書房、2003年
 森正義彦・篠原弘章『心理学研究法』培風館、2007年
 伊藤正人『心理学研究法入門』昭和堂、2006年
 吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006年
 大山正ほか著『心理学研究法』サイエンス社、2005年
 丹野義彦編『臨床心理学研究法』誠信書房、2004年
 山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房、2001年
 鈴木淳子著『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版、2002年
 松浦均・西口利文編『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版、2008年
 安藤清志・村田光二・沼崎誠編『新版 社会心理学研究入門』東京大学出版会、2009年
 やまだようこ編『現場（フィールド）心理学の発想』新曜社、1997年
 田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002年

■スクーリング受講条件

この科目のスクーリング受講は任意ですが、受講する場合はスクーリング申込締切日までに、福祉心理学専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群のなかから7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（実験科目を含めること可・特講科目・S科目は含まれない）。

心理学研究法Ⅱ			単位数	履修方法	配当年次
			2	SR	2年以上
科目コード	FB3509	担当教員	中村 修・平川 昌宏 柴田 理瑛		

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。この科目では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。

■到達目標

- 1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。
- 2) 手順ののっとり統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。
- 3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ、2004年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（初版または第2版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄をご覧ください。

■単位修得方法

- ①スクーリング受講＋②1単位めレポート（課題1）（スクーリング時に持参）合格＋③1単位めレポート（課題2）（スクーリング受講中、または指定された期日まで提出）＋④2単位めレポート（スクーリング受講後に提出）合格にて単位を修得します。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

1・2コマめで検査法全般に関する講義を行い、3・4コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日めには、 χ^2 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。

▶心理検査法について

- ・心理検査法とは 検査法実施上の留意点
- ・知能検査（ウエクスラー系・ビネー系）の概要と留意点
- ・発達検査の概要と留意点
- ・性格検査（Y-G性格検査など質問紙法，ロールシャッハテスト・TATなど投影（映）法，作業検査法）の概要と留意点

▶心理統計について

- ・心理統計学の基礎についての講義（仮説演繹法，実験的研究と相関的研究，心理統計がなぜ必要か，サンプリングと剰余変数の統制，統計的仮説検定の流れなど）
- ・統計処理（有意差検定，相関分析等）についての講義（解説）と演習

■スクーリング受講条件

※この科目はスクーリング受講が必須です。

- (1) スクーリング申込締切日までに，福祉心理学科専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群のなかから7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（実験科目を含めて可，特講科目などS科目は含まれない）。
- (2) スクーリング事前学習をすませてください。『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み，要約レポート＝レポート課題1単位の課題1を作成し，スクーリング初日開始時間に提出すること。

※課題の内容については，p.53「レポート課題」「アドバイス」を参照してください。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容	担当教員
1	心理検査法①	知能検査法と発達検査法の概要と留意点	平川
2	心理検査法②	性格検査法（質問紙検査法及び投影法）の概要と留意点	平川
3	心理統計①	心理統計の基礎	平川
4	心理統計②	統計的仮説検定とその手続きの概要説明	平川
5	心理統計③	質問紙調査法に基づくデータ処理の概要説明	柴田or中村or平川
6	心理統計④	記述統計についての講義と演習	柴田or中村or平川
7	心理統計⑤	相関・連関についての講義と演習	柴田or中村or平川
8	心理統計⑥	有意差検定についての講義と演習	柴田or中村or平川

■講義の進め方

配付資料と板書を基にした講義と，統計処理実習等の個人作業を行います。

特に5～8回目では， χ^2 検定やt検定，相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義と実習を行います。具体的には，ある仮説を確かめるために計画された架空の調査研究及びその調査

によって得られた架空のデータを用います。そのデータに対して、実際に統計処理ソフトSPSSを使って「 χ^2 検定」「t検定」「相関分析（無相関検定）」を行います。そして、その分析結果に基づいて仮説が支持されたかどうかの判断をするという課題をしていただきます。

■スクーリング 評価基準

事前課題の提出状況30%と、事後課題の提出および採点70%によって評価します（この科目はスクーリング試験は実施しません）。

■スクーリング時の教科書

スクーリング時は教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習・事前課題（学習時間の目安：5～10時間）

受講生は本冊子の「心理学研究法Ⅱ」のページ（p.49～55）をよく読んできてください。

さらに、スクーリング事前学習として、1単位めレポート（課題1）「要約レポート」が課されています。「要約レポート」はスクーリング初日に必ず持参してください（郵送しないこと）。

■スクーリング事後課題

この科目の1単位めレポート（課題2）は、スクーリング期間中または終了後決められた期限必着で提出してください。

2単位めのレポートは、原則としてスクーリング受講後に提出してください。

教科書・レポート学習

■在宅学習9のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント① (教科書2) III章20)	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 キーワード：仮説、独立変数、従属変数	心理学的な研究を行う上で最も基本となるのは、問いを立てて仮説を考えることです。「桶屋の清兵衛」というストーリーを通して、仮説の立て方、独立変数・従属変数の設定、仮説の検証について学び、それぞれについて説明できるようになりましょう。
2	心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント② (教科書2) III章21)	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念、質問紙、構成概念の具体化、評定尺度法	心理学では身長や体重のように実体があるものだけでなく、雰囲気のように目に見えないもの（物理的には測定できないもの）を測定することがあります。このような構成概念を測定する際のプロセスについて学び、説明できるようになりましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	検査法 週刊誌やテレビの“心理検査”は科学的か (教科書1) 第12章)	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と専門家が利用する検査法の比較から、専門家の利用する心理検査の背景にある理論を理解する。 キーワード：ロールシャッハテスト、臨床心理学、投影法、妥当性	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と、専門家が利用する心理検査の比較から、科学と疑似科学の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。検査法における理論的背景を理解しておく、次回以降で学習する妥当性や信頼性についての理解が容易になるでしょう。
4	妥当性の検証と信頼性の評価 (教科書1) 第12章)	検査の妥当性を検討する過程を理解し、妥当性と信頼性の違いについて学ぶ。 キーワード：仮説検証、妥当性検証、収束的証拠、弁別的証拠、信頼性	検査の妥当性や信頼性を満たす条件について整理しながらそれぞれの特徴についてまとめると理解しやすいでしょう。週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査は妥当性や信頼性を満たしているかについて考えてみましょう。
5	検査得点の解釈と標準化 (教科書1) 第12章)	検査を実施・解釈するにあたって、検査得点(素点)の標準化と検査手続きの明確化について学ぶ。 キーワード：規準、規準集団、パーセンタイル順位、標準得点、検査の標準化	心理検査によって得られた素点を解釈するには、あらかじめたくさんの人に心理検査を実施して得たデータを利用して、解釈のための基準を作成する必要があります。この点について理解できると、専門家が利用する心理検査とそうでない心理検査の弁別がより容易になるでしょう。
6	心理検査法に関する研究 (教科書1) 第12章)	心理検査に関連した研究を学ぶことで、近年の心理検査をめぐる発展について理解する。 キーワード：紙筆式検査、個別式の検査、テスト理論、相関の希薄化、項目反応理論、項目特性曲線	近年、心理検査に関連する研究領域では、紙筆式の検査だけでなくコンピュータや項目反応理論を利用した検査法の開発が進められています。このような発展は検査者・被検査者にとってどのような利点があるかについて自分なりに考えてみましょう。
7	結果の解釈一般化をめぐる問題② (教科書1) 第15章)	心理学の実験によって得た結果を一般化する際に問題となる事象を通して、実験的研究の限界と実験結果の妥当な解釈について学ぶ。 キーワード：母集団、標本、無作為抽出、剰余変数	実験的研究では、母集団(第16章参照)の性質を実験結果(標本)によって推定する際に、しばしば問題が生じます。多くの実験では大学生を対象としていますが、その実験結果を人類全体に適用することはできるのでしょうか。教科書を熟読し自分なりに考えてみましょう。
8	統計的分析① 記述統計 (教科書1) 第16章)	得られたデータの特徴を図表や、数値を用いた的確・効率的に把握するための方法を学ぶ。 キーワード：平均値、標準偏差、相関係数、外れ値	ここでは、実験によって得られた加工前のデータから、そのデータの特徴や傾向を見出すための基本的な分析方法を学びます。平均や標準偏差など基本的な概念について自分なりに整理し、説明できるようになりましょう。
9	統計的分析② 推測統計と統計的検定 (教科書1) 第16章)	得られたデータに対して統計的分析を行うことの意味と実際に行う際の留意点について学ぶ。 キーワード：推測統計、統計的検定、有意水準	実験条件間の平均値などについて、見た人の主観的な判断によって「差がある・差がない」などと解釈が異なることはなぜ問題なのかを考えてみましょう。また、このような問題を防ぐために使用される、統計的検定の基本的な考え方について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>課題1は、スクーリング初日開始時間に提出してください。課題2は、スクーリング受講中、または受講後指定された期日までに提出してください。</p> <p>課題1 『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み原則的な研究の流れについて要約レポートを作成しなさい。その際、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いること。</p> <p>課題2 当日わたされたデータを講義内容をふまえ統計的手法を用いて分析し、その結果をわかりやすく整理した後、仮説が支持されたか否か検討しなさい。</p>
2 単位め	<p>原則としてスクーリング受講後に提出すること</p> <p>パーソナリティ検査における質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べ、代表的な検査をそれぞれ1つずつ解説しなさい。</p>

※提出された2単位めのレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め 課題1 アドバイス

この課題は、スクーリング初日開始時間に提出してください（事前郵送は不可。必ず当日持参）。

要約レポートの作成要領は下記のとおりです。

- 1) A4判用紙（または原稿用紙）使用1,000字以上 ワードプロ・パソコン可（手書きも可）。1行めに学籍番号・氏名を記載。返却はいたしませんので、コピーを手元に残しておいてください。
- 2) 要約は、文中太字の語句を中心にまとめてください。また、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いてください。書式は自由（箇条書きや図解の使用も自由）です。
- 3) この要約レポートはスクーリングの講義内容の理解を深めるための予習にあたるものですので、自分なりの理解でまとめてください。

1単位め 課題2 アドバイス

この課題は、スクーリング受講中、または受講後指定された期日までに提出してください。提出用紙はスクーリング実施中に配付します。

レポート課題では、具体的な研究例のデータに対して、

- ・その研究の仮説を確認する
- ・仮説の検討に用いる分析手法を選択する
- ・SPSSを用いて実際に分析する
- ・SPSSの分析結果を読み取り、どういう結果が得られたかを文章と表でわかりやすくまとめる
- ・仮説が支持されたか否か結論をくだす

という作業を一人で行い、レポートにまとめていただきます。

多くの受講生にとっては、何のために統計処理をするのか、また、その結果は何を意味しているかということについては、ほとんど知識がなく戸惑うことが多いのではないかと予想されます。その点についても、スクーリング中に説明しますので、講義をきちんと聴くということと、ある程度予習をして「統計学」ということについても基礎的な学習をしてくることを期待しています（前述の「事前学習」参照）。

パーソナリティ検査（性格検査）は、検査の仕方によって「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などに分類されます。この課題は、まず、それぞれの方法について、その考え方、長所と短所などを解説することが求められています。そして、それぞれの方法を使った代表的な検査を各1つ（合計3つ）選んで、その検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などについて説明するというのが、課題の後半部分です。

なお、この課題は、

- (1) 質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分
- (2) それぞれの代表的な検査の各1つについて、検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などを解説する部分

で構成する必要があります。

2単位めの課題では、4,000字程度まででまとめていただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

(1)の「質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分」がこの課題の中心となりますので、(2)については簡略にまとめてください。

このレポート課題は、スクーリングの講義内容および適当な参考書を見つければ書ける内容になっています。参考書入手が困難な受講生は、スクーリングの際に図書館を利用して、レポートの材料を集めておいた方がいいでしょう。なお、参考文献を明記することを忘れないでください。

原則としてスクーリングを受講してから、「2単位めのレポート課題」に取り組むことを推奨します。

2単位めのレポートは、通常のレポート用紙に記入して、提出してください。

■参考図書

●心理検査に関するもの

- 松原達哉編著『心理テスト法入門 [第4版]』日本文化科学社、2002年
大村政男・花沢成一・佐藤誠著『心理検査の理論と実際 (第4版)』駿河台出版社、1998年
塩見邦雄編著『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
願興寺礼子・吉住隆弘編『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版、2011年
水田善次郎著『心理検査の実際』ナカニシヤ出版、2001年
渡部洋編著『心理検査法入門』福村出版、1993年
村上宣寛著『心理テストはウソでした』講談社+α文庫、2008年

●心理統計に関するもの

- 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年
岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
大村平著『改訂版 統計のはなし』日科技連、2002年
松田文子ほか著『わかって楽しい心理統計法入門Ver. 2』北大路書房、2012年
丸山欣哉ほか著『学生のための心理統計法要点』おうふう、2009年
村井潤一郎・柏木恵子著『ウォームアップ心理統計』東京大学出版会、2008年

山内光哉著『心理・教育のための統計法<第3版>』サイエンス社, 2010年

山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房, 2004年

南風原朝和著『心理統計学の基礎』有斐閣, 2002年

南風原朝和ほか著『心理統計学ワークブック』有斐閣, 2009年

田中敏著『実践心理データ解析 (改訂版)』新曜社, 2006年

森 敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房, 1990年

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

社会心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード	FC2514	担当教員	吉田 綾乃
-------	--------	------	-------

※会場により、スクーリングを別教員（高口 央先生）が担当いたします。

■科目の内容

社会心理学は「人間がその場の状況や他の人々（社会）とのかかわりの中で、どのように影響を受けて行動するのか」という視点から人間を研究している学問です。研究テーマは、「人の第一印象はどうやって決まるのだろうか？」「意見の合わない友人を説得するにはどうしたらいいだろうか？」「彼はなぜあんなに攻撃的にふるまっているのだろうか？」といった、身近な疑問や発想から生まれています。その意味では、「答えは自分の中にもある」と考える人も多いかと思います。しかしながら、社会心理学を学び、興味深い数々の実験結果を知ると、「自分の考え」が必ずしも「科学的に証明された事実」と一致しないことに驚くことでしょう。社会心理学は、非常に親しみやすい分野でありながらも、自分たちの身のまわりに起こる出来事や自分たちの考え方や行動について、「常識」とは違った観点から見直すきっかけを与えてくれます。

■到達目標

- 1) 自己や他者の行動、集団行動における社会的・心理学的な法則性、規則性を理解し説明できる。
- 2) 社会的な事象の因果関係について客観的に説明できる。

■教科書

池上知子・遠藤由美著『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社、2008年
(最近の教科書変更時期) 2009年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会心理学とは(序章)	社会心理学の学問的特徴を理解し、社会心理学の研究アプローチの特色、その背景にある理論や人間観を理解する。 キーワード：相関的研究、実験的研究、実験者効果、「場」理論、素朴な科学者、認知的倏約家、動機づけられた戦術家など	社会心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。社会心理学における人間観の変遷について理解しておくこと、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	対人認知 (第1部1)	対人認知の心的過程について学ぶ。印象形成の古典的理論、対人記憶の主要な理論、対人認知のプロセスモデルの特徴を理解する。対人認知の歪みおよび対人認知の個人差が生じるメカニズムについて理解する。 キーワード：ゲシュタルト理論、ネガティビティ・バイアス、対人記憶のネットワークモデル、期待効果、アクセシビリティ効果、ステレオタイプ、2過程モデル、暗黙の人格理論、認知的複雑性など	私たちが「ありのまま」に他者を見るのが如何に困難なことであるのかについて、先行研究を通して理解しましょう。そして、自分自身が持っている対人認知の「クセ」について考えてみましょう。
3	社会的推論 ①帰属 (第1部2)	他者を含む社会的事象一般に対する推論プロセスの特徴について学ぶ。 キーワード：内的帰属、外的帰属、対応推論モデル、共変モデル、スキーマ、自動的特性推論、オートマティシティ、ブラインディング など	自分自身の経験や具体的な社会的出来事を思い浮かべながら帰属過程の特徴について理解すると分かりやすいでしょう。私たちが日常的に行っている推論が自動的かつ直感的なプロセスによって支えられていることを理解することがポイントです。
4	社会的推論 ②バイアス (第1部2)	社会的推論におけるエラーとバイアスに関与している心理要因について学ぶ。推論の歪みによる誤った信念や知識の形成が生じるメカニズムについて理解する。 キーワード：ヒューリスティックス、基本的帰属のエラー、行為者-観察者バイアス、セルフ・サービングバイアス、コントロール幻想、合意性バイアス、錯誤相関、自己中心性バイアス、仮説検証型判断 など	バイアスやヒューリスティックスがなぜ生じるのかについて、認知的要因と動機的要因に着目しながら理解しましょう。バイアスやヒューリスティックスを低減するためにはどうすればよいか自分なりに考えてみましょう。
5	態度 (第1部3)	態度がどのように形成されるのかについて学ぶ。態度の強度や持続性、態度と行動との一貫性に及ぼす認知過程の影響について理解する。 キーワード：認知的一貫性理論、認知的均衡理論、認知的不協和理論、精緻化可能性モデル など	「○○が好きだ」「xxが嫌いだ」といった態度はどのようにして形成されるのでしょうか。説得効果はどのような要因から影響を受けているのでしょうか。誰もが日常生活の中で経験している「態度形成」と「態度変容」について認知的一貫性の観点から考えてみましょう。
6	説得的コミュニケーション (第1部3)	説得過程の規定要因について、メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因の観点から学び、態度変容の心的メカニズムについて理解する。 キーワード：メッセージの反復効果、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、予告、接種理論、自我関与、態度のアクセシビリティ理論 など	普段の生活のなかで行われている説得だけではなく、企業や政府、メディアなどが行っている説得事例についても考えてみましょう。現代社会ではどのような場面で説得が行われているのでしょうか。個人間の説得だけではなく社会的な場面で行われている説得についても考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	感情（第1部4）	感情の生起過程および、情報処理アプローチの観点から感情が人の思考や判断、行動に及ぼす影響について理解する。 キーワード：シャクターの情動2要因説、認知-感情独立仮説、気分一致効果、感情ネットワークモデル、気分効果の非対称性、気分維持修復動機 など	近年、「感情」が私たちの思考や行動に大きな影響を及ぼしていることが明らかになってきました。主観的な「感情」経験について、感情が持つ機能と特徴を理解することを通して客観的に考えてみましょう。
8	自己認知（第2部5）	自己理解に社会的・文化的要因が及ぼす影響について学ぶ。自己認知の情報源、自分を把握するための主な様式、セルフ・スキーマが他関連情報の処理に及ぼす影響について理解する。 キーワード：自己概念、自己知識、個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティ、自己カテゴリー化理論、自己ステレオタイプ化、セルフ・スキーマ、自己呈示、自己概念の複雑性 など	私たちは誰もが「自分はこのような人間だ」という考えを持っています。自分自身に対する認知が「どのように」形成されたのか、どのような場合に変化するかについて考えてみましょう。「自己」に対する認知が、自分だけではなく、他者とのコミュニケーション場面においても影響を及ぼしていることを理解することが重要です。
9	自己評価（第2部6）	自己評価について、自尊感情、社会的比較理論、自己評価維持モデル、自己評価における重要他者の影響、愛着の観点から学ぶ。自己評価が心の健康を左右するメカニズムについて理解する。 キーワード：自尊感情、ソシオメータ理論、顕在的自尊感情、潜在的自尊感情、自尊感情の功罪、社会的比較、自己評価維持モデル、重要他者、愛着、内的作業モデル など	自己評価は自尊感情だけではなく対人コミュニケーションや心の健康とも密接に関わっています。自己評価が持つ様々な機能について学び、自己評価を適切なレベルに維持することの重要性について考えてみましょう。
10	自己と動機づけ（第2部7）	自己認知に関わる動機について学ぶ。自己認知が自己関連情報の選択、判断、記憶、評価に及ぼす影響について理解する。 キーワード：自己査定動機、自己確証動機、自己高揚動機、ポジティブ幻想、自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング、自己制御 など	私たちは「自分について知りたい」「自分がよい人間だと思いたい」など様々な自己に関連する動機を持っています。自己関連動機がどのような行動と結びついているのか理解しましょう。また、社会生活における自己制御の重要性について考えてみましょう。
11	対人行動（第2部8）	自己意識が行動に及ぼす影響、援助行動および攻撃行動の生起メカニズム、社会的排斥がもたらす諸問題について学び、他者に対する行動を規定する要因について理解する。 キーワード：自己意識、私的自己意識、公的自己意識、社会的不安、没個人化、自己開示、返報性、援助行動、攻撃行動、社会的排斥 など	他者に対する好ましい行動や好ましくない行動は「なぜ」生じるのでしょうか。自己意識や社会的不安、没個人化などが他者に対する行動に及ぼす影響を理解し、好ましくない行動を抑制するための対策について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	人間関係 (第2部9)	人間関係の成立と維持, 発展に関する要因およびその背後にある原理について学ぶ。 キーワード: 人格的特徴, 身体的特徴, 類似性-魅力仮説, 熟知性, 単純接触効果, 近接性, 報酬性, SVR理論, 社会的交換理論, 投資モデル, 衡平モデル, 互惠モデル, 対人的葛藤, 錯誤帰属, 恋愛の色彩理論 など	人間関係を説明するために様々なモデルが提唱されています。各モデルが検討している人間関係の種類や進展度に注意しながら理解すると分かりやすいでしょう。また, 恋愛関係, 友人関係および勢力関係において重要となる要因の違いを理解しましょう。
13	集団と個人 (第2部10)	集団が個人に及ぼす影響および個人が集団全体に及ぼす影響について学び, 集団と個人の間における相互規定性を理解する。 キーワード: 社会的促進, 社会的抑制, 社会的手抜き, 社会的補償, 社会的インパクト理論, 集団思考, 集団極性化, 集団規範, 同調, 少数派の影響, リーダーシップ, 社会的ジレンマ, 内集団バイアス, 社会的アイデンティティ理論 など	集団のなかに入ると「なぜ」ひとりの時とは異なる行動が生じるのでしょうか。集団が個人に及ぼす影響の良い面と悪い面について考えてみましょう。また, 個人が集団全体を動かすために重要となる要因について理解しましょう。
14	健康と幸福 (第2部11)	人々の精神的健康や幸福に社会構造や心の社会性が及ぼす影響について学ぶ。 キーワード: 心理的免疫システム, ストレス, コーピング, ソーシャル・サポート, 親密関係の負の効用, 反実思考 など	親密な対人関係はストレス源となることもあれば, ストレスに対処するための処方箋になることもあります。どのような場合に, 対人関係が薬あるいは毒になるのかについて考えてみましょう。
15	文化と人間 (第2部12)	文化と人間に対する社会心理学の考え方を学ぶ。文化に対するアプローチの仕方の違いを理解する。 キーワード: 普遍主義, 文化相対主義, 文化心理学, 文化的自己観, 集団主義-個人主義, 異文化適応	私たちを取り巻いている「文化」は知らず知らずのうちに私たちの思考パターンや行動に影響を与えています。文化がどのように人々の心的過程や行動に影響を及ぼしているのか, また人々の行動が文化に及ぼす影響について理解しましょう。そして, 文化と人間との相互規定性について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	対人認知における歪みがなぜ生じるのか, 自分自身が経験した事柄をあげながら説明しなさい。また, その克服方法について自分の考えを述べなさい。
2 単位め	態度変容における説得の影響について, 自分自身が経験した事例をあげながら説明しなさい。また, 説得を防ぐための方法について自分の考えを述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・Web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストを読む際には, その内容が日常生活のどのような場面について述べているのか, 具体的に思い

浮かべながら読んでください。レポート課題は、誰もが日常的に経験している、他者を判断する、他者から判断されるという「対人認知」と、態度を決める、態度を変えるといった「態度形成・態度変容」に関するものです。自分の日々の経験を、社会心理学の理論や研究知見から捉えなおしてみてください。

レポート作成にあたっては、教科書だけに頼るのではなく、他の文献も参考にするようにしてください。また、自分自身の言葉で述べるのが最も大切ですが、テキストの内容を理解した上でまとめていることがわかるように、テキストで紹介されている社会心理学的な用語を用いて、その現象が「なぜ」生じたと考えられるのか、ご自身の考えをまとめてください。

1単位め アドバイス

私たちは、「あの人は冷たい人だ」と他者を判断することもあります。逆に「あなたは冷たい人だ」と他者から判断されてしまうこともあります。このような他者の判断（対人認知）は、人が自分の中で「判断」した結果であり、「事実」とは異なっている可能性があります。皆さんも、周囲から誤解されていると感じたり、あるいは自分が他者を誤解していたことに気がついたことがあるのではないのでしょうか。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した対人認知の歪みについて、社会心理学的な側面から考えていただきます。

レポートを作成する際には、テキストの第1章：対人認知を参考にしてください。テキストで紹介されているように、対人認知の歪みは、期待効果、ステレオタイプ、暗黙の人格理論、ネガティビティ・バイアスなどによって引き起こされることが明らかになっています。また、この課題はテキストの第2章：社会的推論も参考になります。たとえば、対人認知の歪みをもたらす要因として、スキーマ、錯誤相関、仮説確認型判断、仮説確認バイアスなどの影響を考えることができます。これまでに自分が経験した対人認知（判断する側・される側のどちらの経験でもよい）の歪みが、なぜ生じたと考えられるのか、テキストで紹介されているキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。そして、そのような対人認知の歪みを克服するためには、どうすればよいのか、認知的複雑性や、印象形成の2過程モデルなどの研究も参考に、ご自身の考えを述べてください。

2単位め アドバイス

私たちは、「この映画が好きだ」、「この意見に賛成である」など、さまざまな対象に対して何らかの態度をもっています。しかしながら、このような態度は、常に変わらないわけではありません。これまでに周囲の人から説得され、自分の態度を変化させたことがある人は多いでしょう。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した「態度変容」について「説得」という側面から考えていただきます。

レポートを作成する際には、テキストの第3章：態度を参考にしてください。説得が成功するか否かは、メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因によって左右されます。これまでに自分が経験した説得（説得する側・される側のどちらの経験でもよい）による態度変容が、どのような要因によってなぜ生じたのか、テキストで紹介されている、メッセージの反復効果、恐怖喚起、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、自我関与、気分状態などのキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。その他にも、認知的不協和理論、精緻化可能性モデルなどの理論に基づいた考察もよいでしょう。また、今日でも報道が続いている振り込め詐欺など、悪質な説得を避けるためにはどうすればよいのか、直接経験、予告、被説得性、接種理論に関する記述などを参考に、ご自身の考えを述べてくだ

さい。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

以下の項目を考慮しながら総合的に判断します。

- 1) 出題意図の正しい理解
- 2) 心理学的概念に対する正しい理解
- 3) 回答内容の論理性と説得性
- 4) 主張の論拠が示されているかどうか（引用あるいは参照された研究の適切性など）

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

基礎編：初めて学ぶ人へ

吉田寿夫著『人についての思い込み Ⅰ・Ⅱ』北大路書房，2002年

心理学ジュニアライブラリのシリーズの一冊であり、読みやすいでしょう。

1 単位めの対人認知に関する課題の参考になります。

岡本浩一著『社会心理学ショート・ショート』新曜社，1986年

トピック中心のわかりやすい内容になっています。

認知的不協和理論や態度変容に関する実験内容が詳細にまとめられています。

2 単位めの態度変容に関する課題の参考になります。

藤本忠明・東正訓著『ワークショップ 人間関係の心理学』ナカニシヤ出版，2004年

社会心理学の研究が人間関係の問題と関連づけて分かりやすく紹介されています。

Q&Aがあり、自分の理解度を評価することができます。

応用編①：テキストだけでは物足りない人へ

山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書，2001年

概念の正確な把握や知識の整理に有効です。辞書としても利用できます。

末永俊郎・安藤清志著『現代社会心理学』東京大学出版会，1998年

社会心理学の領域が網羅され、また個々の研究内容についても詳細な説明があります。参考図書も充実しています。

池田謙一・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子著『社会心理学』有斐閣，2010年

幅広いテーマを取り上げており、広く社会心理学の知識を深めたい方にお勧めします。

応用編②：社会心理学およびレポート課題に関連する知識を深めたい人へ

E. アロンソン著『ザ・ソーシャル・アニマルー人間行動の社会心理学的研究』サイエンス社, 1994年
著名な社会心理学者による読み応えのある一冊です。

小坂井敏晶著『社会心理学講義』筑摩書房, 2013年

フランスのパリ第八大学で教鞭をとる日本人社会心理学者によるテキストです。

T. ギロビッチ著『人間この信じやすきもの』新曜社, 1993年

人間の認知の偏りがなぜ生じるのか、いかに克服するかを論理的に解説しています。

R. チャルディーニ著『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか (第2版)』誠信書房, 2007年

R. チャルディーニ・N. J. ゴールドスタインほか著『影響力の武器 実践編』誠信書房, 2009年
態度形成や態度変容について幅広い視点から理解することができます。

S. アイエンガー著『選択の科学』文藝春秋, 2010年

盲目の女性社会心理学者による「選択」に関する研究が面白くまとめられています。

R. バウマイスター・J. ティアニー『WILLPOWER意志力の科学』インターシフト, 2013年

影響力のある社会心理学者のひとりであるバウマイスターの研究がわかりやすくまとめられています。意志力について悩んだ事のある方にお勧めします。

家族心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード	FC2515	担当教員	平泉 拓
-------	--------	------	------

■科目の内容

家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。

家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。

■到達目標

- 1) システムとしての家族を説明することができる
- 2) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる
- 3) 家族を対象とする心理臨床と、個人を対象とする心理臨床の違いについて説明することができる

■教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣、2008年

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族システム理論 (第1章)	家族という事象をとらえるための基盤である、家族システム理論について理解する。 キーワード：社会構成主義、家族システム理論、階層性、円環的因果律、第一次変化と第二次変化	身の回りの家族を例にして、家族をシステムとしてみてください。家族をシステムとしてとらえることができると、2回目以降の学習内容がより深く理解できます。
2	家族を理解するための鍵概念 (第2章)	家族という事象をとらえるための3つの鍵概念—構造、機能、発達について理解する。 キーワード：構造、機能、発達、ジェノグラム、エコマップ	身の回りの家族を例にして、ジェノグラムとエコマップを描き、学習内容を整理してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	独身の若い成人期 (第3章)	若い成人期の発達課題と危機について理解する。また、将来の家族形成に向けた予防的アプローチについて理解する。 キーワード：親密性、親密さへの恐怖、自己分化、情緒的遮断、親役割代行、配偶者選択、アサーション	家族という事象は、結婚する前の若い成人期、あるいはそれ以前からすでに始まっていると考えられます。三回目は、若い成人期のどのような側面が後の家族生活に影響するか、といった点について理解してください。
4	結婚による家族の 成立期 (第4章)	新しい家族生活のスタートとなる新婚期の家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：家族システムの結合、非合理的思い込み、カップルダンス	夫婦は家族の最も基本的かつ中心的なサブシステムです。夫婦が新婚期にどのような課題に直面するか予測できると、夫婦で課題と危機に対処することができます。4回目は、新婚期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
5	乳幼児を育てる段階 (第5章)	妊娠・出産・子育てによって生じる家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：伝統的性別役割観、仕事と家庭のバランス、拡大家族、親の機能、父親の育児参加	乳幼児を育てるなかで、夫婦関係は変化するし、夫婦の役割は変更されます。夫婦が子育てに取組み、父親が子育てに積極的に関わることができるようになることが大切です。5回目は、育児期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
6	小学生の子どもとその家族 (第6章)	小学生の子どもとその家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：エアポケット、発達の加速現象、三角関係、養育システムの再編成、成員の個性化、ギャング・エイジ	思春期の子どもは、発達・成長が著しく、学校など家族以外の場面のなかで精神的に成長します。6回目は、学童期の子どもがいる家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
7	若者世代とその家族 (第7章)	青年が親離れする過程、親が青年を手放していく過程で生じる、家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：移行期、チャムシップ、ピア関係、自我同一性、	思春期・青年期に入った子どもは自立の準備を進めていきます。7回目は、中年期の家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
8	老年期の家族 (第8章)	高齢期の家族が抱える発達課題と危機について理解する。 キーワード：人生の統合、多世代の関係性の再構築	高齢者やその家族は、ケアが必要な「受け身の存在」になりやすいです。このような中で、高齢者と家族がより自律的に生き生きと暮らすためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	家族への臨床的アプローチ (第9章)	家族療法の発展史, 代表的な理論モデル, 他のアプローチとの違い, 代表的な技法について理解する。 キーワード: 多世代家族療法, 構造的家族療法, MRI家族療法, ミラノ派家族療法, ソリューション・フォーカスト・アプローチ, ジョイニング, 多方向への肩入れ, リフレーミング	4回目から8回目までの裏テーマになっていたのは「家族内のルールの変更」でした。家族療法の理論モデルはいずれも, 家族内のルールの変更を支持し, 家族が自律的に問題を解決することを援助するものです。9回目は, 個人を対象とする心理臨床と, 家族を対象とする心理臨床の違いは何か, という観点から家族療法について理解してください。また, コラム⑨「家族療法の魅力」を読み, 家族療法の特徴について理解を深めてください。
10	夫婦関係の危機と援助 (第10章)	夫婦関係の危機とカップル・セラピーについて理解する。 キーワード: カップル・セラピー, 離婚のプロセスと発達課題, 再婚家庭のプロセス, ステップファミリー	現代の家族のあり方は多様であり, 離婚や再婚など人々が選択する家族の形はさまざまです。10回目は, 離婚と再婚のプロセスについて特に整理してください。そのうえで, カップル・セラピーの留意点について, カップルとセラピストそれぞれの観点から理解してください。
11	子育てをめぐる問題と援助 (第11章)	社会の守りの中での子育ての必要性について理解する。 キーワード: 障害者・児, 児童虐待, 育児不安, 親支援, 親業トレーニング, 家族再統合プログラム	いつの時代でも, 地域や親族の支えがないと家族は子育てをすることができません。孤立した環境のなかで「育てにくい子ども」を育てている親だけでなく, 多くの親は育児への不安とストレスを抱えながら子育てをしています。11回目は, 親支援や子育て支援のプログラムを知り, その必要性について理解してください。
12	家族が経験するストレスと援助 (第12章)	災害, 病気, 子育てなど, 家族が経験するストレスと援助について理解する。 キーワード: あいまいな喪失, グリーフ(悲嘆), 段階理論, ウェルビーイング, 医療的家族療法, リジリアンス, 多世代家族療法, ナラティブ・アプローチ	問題を抱えない家族は存在しません。12回目は, 自然災害, 家族メンバーの喪失, 一過性・慢性の病気への罹患, 事件や事故への遭遇などを取り上げます。そして, どのような行動が家族メンバーの助けになるのかについて, それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
13	家族の中のコミュニケーション (第13章)	家族療法のコミュニケーション学派の理論について理解する。また, DVと暴力のサイクルについて理解する。 キーワード: コミュニケーションの公理, ダブルバインド仮説, コミュニケーションの悪循環, 解決志向アプローチ, 家族神話, DV, 暴力のサイクル, アサーション	セラピストのツールは, 単純化すると言葉のみです。「言葉はもともと魔法である」といわれるように, セラピストは「言葉」により「変化」を作っていきます。13回目は, このような考えの基盤となる, コミュニケーションの5つの公理を理解してください。また, 「解決しようとするのが問題を維持させる」というパラドックス(逆説)についても理解してください。身の回りの家族を例にすると, 学習が深まります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	女性と家族 (第14章)	家庭内外にあるジェンダーの問題を扱い、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について理解する。 キーワード：ジェンダーのレンズ、ジェンダー・センシティブ・サイコセラピー	社会文化に敏感な視点をもった心理療法は、それ自体が単独で成立するものではなく、あらゆる心理療法に浸透するべき要素です。14回目は、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について、もっとも重要な事項はなにかを考察してください。その際、コラム⑭「心理療法に必然的に生じる“力関係”にどう取り組むか」を読み、理解を深めてください。
15	男性と家族 (第15章)	父親と夫をどう理解し援助するかについて理解する。 キーワード：パワーとコントロール、恐れと思い込み・信念	夫・父親をどのように理解し関わるのがより効果的な援助につながるのだろうか。15回目は、父親や夫であることをめぐる葛藤と不安について、理解を深めてください。

■レポート課題

1 単位め	家族のある時期を取り上げて、家族が直面する発達課題と危機、対処法について具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

システム論的なものの見方は、最初はどうしても身になじまず、理解が容易でないと感じられるかもしれませんが、しかし、ひとたび自分のものにすることができると、家族だけでなく、複数の人が相互に影響を与えながら機能する会社組織や学級、学校システムの理解に適用することができるたいへん便利なものの見方です。

各課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

1 単位め アドバイス

レポートを完成させるためには、次の(1)から(3)について整理することが助けになるでしょう。教科書では「第2章」および「第Ⅱ部」が関連する箇所です。

(1) 家族の発達の側面とはどういうことか

(2) カーターとマクゴールドリックの家族発達課題（家族のライフサイクル）では、家族の誕生から消滅までを6段階で説明しています。このうち、関心のある一時期を取り上げてください。

(3) 家族がある時期の発達課題や危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのでしょうか。たとえば、青年期には「子どもの独立を進め、家族の境界を柔軟にすること」が家族の発達課題になります。この課題を乗り越えるためには、「a. 青年が家族システムを出入りできるように親子関係を変えること」、「b. 親子関係を成人同士の関係に発展させること」などが求められます。それでは、このように家族が変化するには、家族メンバーのどのような行動が役立つでしょうか。この点について、自分自身の経験やそれぞれの家族メンバーの視点にたって具体的に論じてください。

注) 教科書の記述について：「モルフォスタシス（形態維持）」と「第一次変化」、「モルフォジェネシス（形態発生・変化）」と「第二次変化」はそれぞれ同じ内容をさす用語です（参考として、教科書12頁、27-28頁）。

2単位め アドバイス

このレポート課題では、人間のコミュニケーションをとらえるための重要概念について出題しました。解答のポイントは、教科書で紹介されている例を手がかりにしつつ、身の回りの家族生活の例をあげることです。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館、1999年
- 2) 平木典子・中釜洋子著『家族の心理 家族への理解を深めるために（ライブラリ 実践のための心理学3）』サイエンス社、2006年

その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。

産業心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	SR	1年以上



科目コード **FC2523** 担当教員 **山口奈緒美**

※この科目は2017年度に新設された科目で、履修方法：SR（スクーリング受講＋レポート1課題）により単位修得します。

■科目の内容

産業心理学はモノやサービスの生産や消費といった場面における人々の行動や心理過程を明らかにする学問で、研究内容は「組織行動」、「人事」、「安全衛生」、「消費者行動」の4つに大別されます。組織行動領域では、ワークモチベーションや意思決定、チームワークなどが、人事領域では採用や選抜の方法、キャリア発達支援、人事評価などが研究対象となっています。安全衛生領域では、ヒューマンエラーや安全工学、職務ストレスなどが、消費者行動領域では購買行動、広告効果、心理的会計などが研究対象となっています。これら4領域の研究を通して、組織全体が持続して目標を達成し、組織の中で働く人々が効率よく、成果を収めながら、生き生きと、自己成長しながら、他の人と協働して、安全に働くことの実現を目指しています。また、わたしたちは、生産者として生産にかかわり、消費者として消費にかかわっています。これら双方の立場の観点から、今日の産業に携わる人々の心理を探ることも産業心理学のねらいです。

■到達目標

- 1) 組織成員の心理について、ワーク・モチベーション、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる。
- 2) 組織が組織成員に及ぼす影響を、集団意思決定や公正といった観点から説明できる。
- 3) 産業場面における効率性と安全性の両立について、科学的管理理論やヒューマンエラーといった観点から説明できる。
- 4) 消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる。

■教科書

高橋 浩・中嶋 励子・渡邊 祐子著『社会人のための産業・組織心理学入門』産業能率大学出版部、2013年

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。

スクーリング

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	産業心理学とは	産業心理学の歴史と発展、4領域の説明
2	ワーク・モチベーション	ワーク・モチベーションの内容理論と過程理論
3	キャリア観の発達	キャリアに関する諸理論
4	ジョブ・ストレス	ストレスに関する諸理論
5	生産性と安全性の両立	科学的管理法、動作研究、ヒューマンエラー
6	集団の影響(1)	集団と生産性、集団と意思決定
7	集団の影響(2)	リーダーシップとチームワーク
8	消費者行動	消費者の購買意思決定と広告の効果
9	スクーリング試験	

※講義内容はやむをえない事情により変更することがあります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

また、在宅学習15のポイントのうち、1から7、14から15がスクーリング事前学習に該当します。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義で学んだ内容を現実生活に当てはめ、気になった事象について理論を用いて説明できるように、繰り返し取り組んでみてください。

教科書・レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	産業・組織心理学とは (第1章)	産業・組織心理学が誕生した経緯と発展過程、現在の産業・組織心理学が取り組んでいる4つの研究領域を理解する。 キーワード：ミュンスターベルクの3部門体系、組織行動、人事心理学、作業心理学、消費者行動	産業・組織心理学がどのような歴史社会的背景のもとに発展してきたのか、どのような社会的要求に応じてきたのかを整理してみましょう。そして、今日、どのようなことが研究されているのか、4つの領域を区別できるようにしましょう。
2	組織と個人 (第2章)	組織や組織成員への見方の変遷を知る。また、組織として機能するための条件を知る。 キーワード：組織の機械観と有機体観、経済人モデル、社会人モデル、自己実現人モデル、複雑人モデル、部門と階層	組織に対する見方や理解の仕方は、産業心理学の発展とともに変遷してきています。それと同時に、組織で働く人々に対する見方もまた変遷しています。どちらについても、どのような変遷をたどったのかを整理しましょう。また、組織を組織足らしめるにはどのような条件が必要なのかを押えておきましょう。
3	組織行動(1)： 職場集団と人間関係 (第3章)	個人が組織集団に与える影響と、組織集団が個人に与える影響の双方向性を理解する。 キーワード：集団発達、集団規範、集団凝集性、集団意思決定	職場集団がどのような特徴をもつのか、規範と凝集性という観点から理解しましょう。また、これらが人々の生産性にどう影響するのかもまとめましょう。最後に、集団であるが故に生じる、意思決定の特徴も整理して学んでください。 ※集団意思決定については、参考図書の4)第4章がとても参考になります。
4	組織行動(2)： ワーク・モチベーションの内容理論 (第4章1～2節)	なぜ人は働くのかということについて、動機づけの観点(特に内容理論)から理解する。 キーワード：内容理論、欲求階層理論、ERG理論、XY理論、達成動機、衛生要因と動機づけ要因	働く意欲は組織における人々の行動に大きな影響を与えます。なぜ人々は意欲を持って働くことができるのかについて、意欲の種類を明らかにした数々の理論をまとめて内容理論とよびます。どのような種類の意欲があるのかまとめましょう。
5	組織行動(3)： ワーク・モチベーションのプロセス理論 (第4章3～4節)	働く動機づけについて、過程理論を学ぶ。 キーワード：プロセス理論、公平理論、期待理論、目標設定理論	働く意欲の種類を明確にするだけではなく、それらがどのような状況的要因によって変化するのかを説明したものをプロセス理論とよびます。いくつかの理論が示されているので、それぞれの理論を理解しましょう。
6	組織行動(4)： 組織とコミュニケーション (第5章)	一般的なコミュニケーション理論を理解した上で、組織におけるコミュニケーションの類型と生産性への影響について学ぶ。 キーワード：コミュニケーションのタイプ、コミュニケーションスキル、コミュニケーション・ネットワーク・モデル	組織におけるコミュニケーションは、私的なコミュニケーションとは異なるいくつかのポイントがあります。それが、組織の第1目標である課題の達成に与える影響を整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	組織行動(5)： リーダーシップ (第6章)	好ましいリーダーシップとは何かについて学ぶ。 キーワード：特性アプローチ，行動アプローチ，状況適応アプローチ	リーダーシップに関する研究の流れを，特性アプローチ，行動アプローチ，状況適応アプローチの順に概観し，リーダーシップを説明するのに足りない要因を順次取り入れてきた経緯を理解しながら望ましいリーダーシップについて考えてみてください。
8	人事心理学(1)： 人事アセスメント (第7章)	人事評価における個人差の測定について，事前評価と事後評価を学ぶ。 キーワード：採用選考のアセスメント，人事交差のアセスメント，評価の信頼性と妥当性，評価エラー	採用選考や人事考査に用いられるツールの信頼性と妥当性について理解しましょう。同様に，評価者が犯しがちな評価時に生じるエラーもまとめましょう。
9	人事心理学(2)： 能力開発 (第8章)	従業員の能力開発について，その重要性と方法を学ぶ。 キーワード：職務遂行能力，能力開発，OJT，Off-JT	なぜ従業員の能力開発が必要なのか，どのような能力を開発する必要があるのか，どのように能力を開発するのか，3つの観点からまとめましょう。
10	人事心理学(3)： キャリア発達とその支援 (第9章)	キャリア発達とその支援の方法について学ぶ。 キーワード：キャリアの発達理論，キャリアサイクル，キャリアアンカー，六角形モデル，トランジション論，キャリア・デベロップメント・プログラム	キャリアという語がもつ意味を理解し，勤務経歴とともにキャリアがどのように発達していくのかについて説明した理論を整理してみましょう。また，キャリアを継続的に発達できるように組織が提供している内容についても理解しましょう。
11	人事心理学(4)： 産業・組織における カウンセリング (第10章)	産業・組織におけるカウンセリングの意義を学ぶ。 キーワード：カウンセリング，認知行動療法，論理療法，短期療法，カウンセリング・プロセス	カウンセリングが産業や組織にどのように役に立つのかについて理解しましょう。特に，人事労務管理や労働法規および従業員規則などの知識を深めることは，従業員を組織に復帰させるために必要な知識です。
12	作業心理学(1)： 仕事の能率と安全 (第11章)	作業能率と安全性をどのように両立すべきか，「働く人」を中心に据えたモデルを学ぶ。 キーワード：時間研究，動作研究，ヒューマンエラー	テイラーの科学的管理法によって徹底した効率化が行われましたが，それだけではエラーを回避することができません。人の基本的特性を知り，エラーを防ぐにはどうすればよいか理解しましょう。
13	作業心理学(2)： 職業性ストレスと メンタルヘルス (第12章)	ストレスに関する代表的な理論やモデルを知り，職業場面において特徴的なストレスモデルを学ぶ。 キーワード：汎適応症候群，ライフイベント研究，心理学的ストレスモデル，NIOSHの職業性ストレスモデル	安全に働くためにはストレス労働者のストレス負荷を減らすことが求められます。ストレスについての知識を深め，職場ではどのようなことがストレスとなり，またストレス反応を生じさせるのかを整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	消費者行動(1): 消費者行動 (第13章)	消費者行動のプロセスと主な影響要因について学ぶ。 キーワード: 購買意志決定モデル, イノベーション普及モデル	消費者はどのように購買商品を決定しているのかについて, プロセスと個人内要因について整理しましょう。
15	消費者行動(2): マーケティングリサーチ (第14章)	消費者のニーズや自社製品の評価, 広告効果などを把握する研究方法について学ぶ。 キーワード: 定量調査, 定性調査	どのような商品やサービスが消費者のニーズをとらえるのか, 販売促進計画をどう立てるのかについて, 科学的な検討が必要です。定量調査と定性調査について区別して理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	公平理論を参考にして, どのような制度であれば評価者や被評価者にとって満足感が高い人事考課制度になるのかを論じなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

職場やアルバイト先で, なぜこんながんばっているのに評価されないのだろうと感じたことはないでしょうか。このレポート課題では, よりよい人事考課を実現するために, どのような仕組みがあればよいのかを考えてみたいと思います。現状ではどのような考課が行われており, そこにどのような心理学的なエラーが生じるのかをまとめ, 評価される側の公平感についての理論を参考にした上で, どのような考課システムが望ましいのか, ご自分の意見を述べてみてください。具体的な作成要領は以下に示します。

最初に, 人事考課制度の仕組みについて説明してください。現在, どのような目的で, どのような項目が評価されているのかをまとめましょう。テキスト第7章第3節「人事考課制度の目的と仕組み」を参考にしてください。

次に, 評価者(管理者)の視点から, 人事考課制度について考えてみましょう。ここでは, あくまでも評価者からの視点から書き, 決して被評価者の視点を混ぜてしまわないように注意してください。評価者が陥りがちな心理的な評価エラーにはどのようなものがあるでしょうか, また, どう対策を採ればよいでしょうか。さらには, 人事考課に必要な評価者の姿勢についてもまとめてください。テキスト第7章第4節「人事考課制度の運用」を参考にしてください。

最後に, 被評価者の視点から, どのような人事考課制度が「公平だ」と感じられるのかについて, 公平理論について説明を行った上で, 論じてください。公平理論はテキスト80頁に説明がありますが, 自分の貢献度と結果のつりあいが, 他者のそれとつりあうかどうかによって, 人々はその処遇が公正かどうかを判断するという理論です。こうした観点から, どういう場合に被評価者は人事考課制度を「不公正」と感じるのでしょうか, 逆に言えば, どのような制度であれば, 「公正だ」と感じることができるのでしょうか。被評価者が「公正である」と感じられるために必要な要因(評価者に求められること, 組織に求められること, システムに求められること)を区別して書いてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

産業・組織心理学の入門書としては以下の5冊がおすすめです。

1) 柳澤さおり・田原直美 編著『はじめて学ぶ 産業・組織心理学』白桃書房, 2015年

産業・組織心理学を理解するために必須の用語や理論が網羅的に示されていて、全体像が把握しやすいです（それゆえ、各理論に対する説明はやや簡潔ですので、自分なりに掘り下げるべく学習が必要でしょう）。また、実際の企業における例や事例が新しく豊富ですので、現実的な問題と知識を関連付けて考えやすいように工夫されています。

2) 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久著『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』有斐閣アルマ, 2006年

たいていの産業・組織心理学の本は4つの研究領域ごとに章立てが行われますが、この本は大学4年生が就職活動をして、職に就き、組織で働いていくというワークライフのプロセスを展望しながら構成されています。それゆえ、新社会人となってから経験することを時系列で学習することができるよう工夫されています。こちらも入門書ですので、専門用語や理論については更に深めて学習が必要です。

3) 山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房, 2007年

産業・組織心理学で扱われる用語集のような本です。初学者向けに各概念や理論が分かりやすく説明されています。

4) 田中堅一郎編『産業・組織心理学エッセンシャルズ（改訂三版）』ナカニシヤ出版, 2014年

こちらも産業・組織心理学についての網羅的な概論書です。この本の特徴は、ひとつの事柄に関する研究の流れが分かりやすく書かれている点です。モデルや用語の意味を理解するだけでなく、あるモデルが提示され、そのモデルに対するどのような批判が生じ、どのように改良されたモデルが提出されたか、という流れを知るのに良い本だと思います。

5) 井上枝一郎 編著『心理学と産業社会とのかかわり』八千代出版, 2013年

産業・組織心理学は心理学の知見を応用したものですが、この本は、心理学と産業社会にどのように役立っているのかが分かりやすい内容になっています。事例編が設けられており、実際の事例を取り上げて心理学的に解説している部分が興味深いです。

■履修上の注意

「産業心理学」(FC3687)の単位修得者は、履修登録できません。

人間関係論

単位数	履修方法	配当年次
1	S	1年以上



科目コード **FC2689** 担当教員 **山口奈緒美**

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義を通して、人間関係の端緒、深化、崩壊に関する要因と理論を、自分で説明できるようになるとよいと思います。また、人間関係を悪化させてしまう誰しもが有する認知的なゆがみについてを理解し、この観点から、自分の人間関係を分析できるようになっていただきたいと思います。

■到達目標

- 1) 人間関係の維持や崩壊に関する理論をあげ、それぞれについて違いに留意しながら説明することができる。
- 2) 他者からの拒絶について、拒絶されても反社会的にならずにすむメカニズムを説明することができる。
- 3) 人間関係にかかわる様々な認知バイアスをあげ、それらを説明することができる。
- 4) 人間関係に関する諸理論やそれらにかかわる要因を理解し、それらを用いて現実の人間関係を分析し、問題を解決できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	人間関係の時系列的視点①	人間関係の始まり
2	人間関係の時系列的視点②	人間関係の維持
3	人間関係の時系列的視点③	人間関係の崩壊、対人葛藤の原因と解決
4	人とのかかわり①	受容と拒絶
5	人とのかかわり②	拒絶感受性
6	人とのかかわり③	ソーシャルサポート
7	人間関係にかかわる多様なバイアス	人間関係をゆがめるバイアス
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義はパワーポイントを用いて進めます。受講者には講義で用いるスライドにもとづいて作成された資料をお配りします。

この資料は、受講者が適宜工夫して記入し、受講者オリジナルのノートとして作成しやすいように作ら

れています。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（100%：配付資料と自筆のノートのみ持込可。図書類は持込不可）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

人間関係がどのように始まり、深まり、維持されているか、あるいは崩壊してしまうかについて、ご自分の人間関係を見直してみてください。また、自分が日頃、他者を受容したり拒絶したりしているかどうか、分析してみてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の人間関係について考察する際、講義で紹介したさまざまな実験のように、どの事柄が人間関係に影響を及ぼしているか、あるいは及ぼしていないのか、明確に区別できるように現実の分析力を高めてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

藤森立男編著『人間関係の心理パースペクティブ』誠信書房、2010年

奥田秀宇著『人をひきつける心 対人魅力の社会心理学』サイエンス社、2008年

浦 光博著『排斥と受容の行動科学 社会と心が作り出す孤立』サイエンス社、2009年

環境心理学		単位数	履修方法	配当年次	
		2	R or SR	2年以上	
科目コード	FC3504	担当教員	柴田 理瑛		



※この科目は、2018年度まで開講します。スクーリング受講、レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

※この科目の会場スクーリングは2017年度が最終開講です。2018年度は開講いたしません。

※オンデマンド・スクーリングは2017・2018年度開講予定です。

■科目の内容

「環境心理学」は「心理学」の研究分野の一つです。「心理学」の大きな目的の一つは人間理解にあるのですが、「環境心理学」はとくに、ヒトと環境とのさまざまなかかわりのあり方を通して人間を理解するといってもよいでしょう。よく“人は人によって人となる”などといわれますが、これは人と人的環境、もっと大きくとらえれば人と社会的環境とのかかわりについて述べたものです。また私たちは、毎日の生活を快適にするために、部屋のインテリア、採光、温度などに配慮します。これは物理的環境に手を加えていることになります。街の景観や都市計画、産業地帯の整備などは、はるかに規模の大きいものになるわけです。それによって私たちは快適感や満足感を味わうことができる一方で、目的や方法が身勝手に、環境への配慮の足りないものであれば、環境を汚染し取り返しのつかない破壊を地球に残してしまうことにもなります。

この科目では、人間の成長発達に及ぼす環境の影響や、快適環境作りなど、基礎と応用の両面にわたって勉強しながら、一方では破壊、他方では保全といった、相反する行動を行う人間の心の世界をも考えてみたいと思います。

■到達目標

- 1) 環境心理学の代表的な研究について内容を説明できる。
- 2) 環境心理学の応用的な研究について内容を説明できる。

■教科書

岩田紀編著『快適環境の社会心理学』ナカニシヤ出版、2001年

■在宅学習15のポイント

回数		学習内容・キーワード	学びのポイント
1	環境―人間行動への関心 (1章)	環境の定義や環境心理学の起源について学ぶことで、環境心理学の特徴を理解する。 キーワード：人間と環境の関係、個人決定観、環境決定観、相互作用観、覚醒理論、人間―環境システム論	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。学習心理学における様々な理論の変遷について理解しておくこと、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	都市環境と人間 ① (2章2.1-2.3)	都市の定義や特質について学びながら、都市の快適性と過密の人に対する影響を理解する。 キーワード：都市の特質、都市化の進行、都市的行動様式、都市の快適性、クラウディング	都市のもつ特質について触れながら、都市の快適性や、都市の抱える問題について自分なりに整理しましょう。また、人口密度が高いことが必ずしもクラウディングを生起させない理由について考察してみましょう。
3	都市環境と人間 ② (2章2.4-2.5)	様々な環境刺激が人間の行動に及ぼす影響および都市と都市に居住する人々の社会行動との関係について学ぶ。 キーワード：騒音、刺激過剰負荷、都市と犯罪、都市と援助行動、都市と人間関係	ここでは都市環境の快適性について、騒音や都市の気象といった物理的な環境刺激だけでなく、犯罪や援助行動といった人間関係が都市の快適性に及ぼす影響について考察してみましょう。
4	自然環境と人間 (3章)	自然環境の特徴について学び、自然環境と人間のかかわりについて理解する。 キーワード：自然環境、景観評価の精神物理学のモデル、景観評価の心理学的モデル、ストレスからの回復	自然という単語の定義を通しながら、改めて自然の意味を考えて見ましょう。また、自然環境と人間に関する研究に触れながら、自然は人にとってどのような価値があるのかについて自分なりに考察してみましょう。
5	住宅環境と居住性① (4章4.1-4.3)	居住環境の快適性にかかわる諸要因について学び、動線を考慮した平面計画について理解する。 キーワード：快適性、住宅の機能、平面計画	住宅の快適性や機能性を規定する要因について物理的側面と心理的側面から整理してみましょう。また、住宅内における人の行動を考慮した平面計画について、自分の家と比較検討してみましょう。
6	住宅環境と居住性② (4章4.4-4.6)	住宅内部の安全性やインテリアのデザイン計画について学び、環境心理学を活かした住宅計画について理解する。 キーワード：安全性、インテリアのデザイン計画、様式、住宅計画	住宅内部の安全性、デザイン性について学びながら、住宅環境の快適性について理解しましょう。また、環境心理学的な知見が住宅計画にどのような影響を与えているのかについて考察してみると良いでしょう。
7	超高層集合住宅 (5章)	超高層住宅が居住者の心理的行動的側面に及ぼす影響について学ぶ。 キーワード：超高層住宅、住環境ストレス度、子供の自立の遅れ、子供の遊び、妊産婦に与える影響、防犯性	本章では、超高層住宅が居住者の心理的・行動的側面について、建築学、住居学、保健学といった観点から学びます。超高層住宅ならではの特徴や問題について考察してみましょう。

回数		学習内容・キーワード	学びのポイント
8	オフィス環境の快適性① (6章6.1-6.4)	オフィス環境に関する研究を学びながら、オフィスが抱える問題やオフィスの生産性を規定する要因について理解する。 キーワード：居住後評価, 開放感, 生産性	本章では、これまでのオフィス環境に関する研究やその手法（POE, SD法など）を学びながら、どのような要因がオフィス環境の快適性に寄与しているのかについて理解しましょう。また、オフィスの快適性と生産性について自分なりに考察してみましょう。
9	オフィス環境の快適性② (6章6.5-6.6)	オフィスの快適性と個人スペースの関係を学び、未来型のオフィスについて学ぶ。 キーワード：個人スペース, プライバシー, オープンプラン・オフィス, バーチャル・オフィス	本章では、オフィスの快適性について物理的な要因だけではなく、心理的な要因の重要性について学びます。特に、オフィスにおける個人スペースの広さが快適性に与える影響を自分なりに考察してみましょう。
10	学校環境の快適性① (7章7.1-7.2)	環境心理学的アプローチの観点から、学校環境の快適性について学ぶ。 キーワード：動的な環境体験, 居場所性, 相互交流, ふれあい空間, 行動セッティング	学校とは、知識獲得の場だけではなく、多様な日常生活を送る場でもあります。このような学校の快適性には、活動にふさわしい機能だけでなく、その活動を支える雰囲気や仲間との相互交流について配慮する必要があることを理解しましょう。
11	学校環境の快適性② (7章7.3-7.4)	キャンパス空間の快適性やデザインプロセスについて、実践例を通しながら、快適な学校環境のデザインには何が必要かを学ぶ。 キーワード：キャンパス空間, 物理的環境因子, 組織的環境因子, 仲間関係因子, 生活の質, コミュニティ・デザイン	快適なキャンパスの条件には、多様な行動セッティングの配備といった物理的環境の整備だけでなく、学生や教員の好みなどの心理面についても配慮する必要があることを理解しましょう。また、キャンパス内部だけではなく、周辺部の環境についても包括的にデザインすることの意義について考察してみましょう。
12	地域環境と快適性 (8章)	地域環境と快適性について、主に物理的環境を対象とし、よりよい環境を創出するための方法を学ぶ。 キーワード：国民生活指標, 新国民生活指標, ISM法, 評価関数モデル, 整備水準と満足度, 施設の配置と満足度, 効率性と公平性	本章では、住居やオフィス、学校などの建物の内部環境ではなく、建物の外部環境について学びます。地域の快適性を評価するには、どのようなアプローチがあるのか、どのような要因が地域の快適性を規定するのかについて理解を深めましょう。
13	地球環境と人間 (9章)	地球規模の環境問題について触れながら、問題の構造とその解決方法について学ぶ。 キーワード：共有地の悲劇, グローバル・チェンジ, エーリッヒの方程式, 環境ハザード, リスク知覚, 社会的ジレンマ, 行動的介入	地球規模で生じる環境問題は、人間生活の快適性を最大限向上させようとしてきたことが1つの原因と考えられています。個々人が生活の快適性を最大限追求するのではなく、皆が協調し適度な快適性を維持するためにはどうすればよいか、自分なりに考察してみましょう。

回数		学習内容・キーワード	学びのポイント
14	環境保全と環境教育 (10章)	国際的な比較を通して、日本における環境教育のあり方と環境保全について学ぶ。 キーワード：ユネスコ、UNEP、ストックホルム会議、ベオグラード憲章、トビリシ会議、モスクワ会議、ボランティア活動、公害、環境倫理	環境問題の解決における環境教育の果たす役割について、国際的な取り組みの変遷と日本における取り組みを学びましょう。また、このような国際比較を通して、日本における環境教育の実践とそのあり方について、どのような要因が重要な役割を担っているかについて考察してみましょう。
15	環境保全の実践 (11章)	環境社会心理学の観点から、環境保全の実践に関連する諸問題について学ぶ。 キーワード：環境配慮行動、リスク認知、責任帰属の認知、対処有効性の認知、段階的要請法、役割演技法、社会規範評価、便益費用評価、実効可能性評価、アクション・プログラム	環境に配慮した行動を実行するまでの意思決定プロセスと、その行動を規定する要因を整理しましょう。また、環境配慮行動を引き出すためにはどのようなアプローチがあるのかについて考察してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	職場環境あるいは居住環境のどちらかを選び、その機能性、快適性、安全性について、具体例をあげながら、望ましい環境条件について論じなさい。
2 単位め	地球温暖化はなぜ起こるのか、その原因と考えられる人間の心理と行動について説明し、地球環境を守るために私たちが今行わなければならないことは何かを論じなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

私たちの日々の生活で最も身近な「家」あるいは「職場」環境の機能性、快適性、安全性と、私たち人間の環境破壊によるさまざまな環境問題について考えてもらいます。どちらもきわめて日常的かつ重要な問題ですので、日ごろの自分の考えを生かしながら、具体的で現実味のあるアイデアを述べてください。解決策は意外と身近なところにあるものです。

■2つの課題に共通する留意点

1. レポート全体の構成

レポート全体の構成について注意深く考えてみましょう。大きくは、導入・議論・結論の3部構成にし、それぞれ順に15%、70%、15%くらいの割合にするとバランスが良くなるでしょう。

2. 「段落」、「一文」についての意識を高める

その段落で読み手に伝えたいことは何でしょうか？ 読み手に何を伝えたいのか、段落ごとに意識しながら書きましょう。また、次の段落につなげるときには、段落間のつながりがスムーズで無理のないものかを考えてみましょう。そのようにして一つひとつの段落を積み上げていくつもりで全体を

書いてみましょう。同様に、一つひとつの文章間のつながりも、なめらかで強引なところはないか見直し、文章単位でも推敲を重ねてください。主語と述語が一致しない文章がないか、長すぎる文章がないかをチェックしてみてください。(レポートでの「です・ます」調、体言止めなどはふさわしくありませんので使用しないように。)

3. 参考文献・引用文献について

引用文献とは、その中の文言を引用した文献です。その文献の著者・出版年・タイトル・出版社をレポートの最後に明記しなくてはなりません。本文中に、例えば、「広瀬(2008)は…」や「…である(広瀬, 2008)」などと表記した場合には引用文献となりますので、その原典を引用文献として記載してください。テキスト中で紹介されている研究をレポートに引用する場合、テキストを参考文献として挙げるだけでは不十分です。レポート本文で上述のような表記〔(広瀬, 2008) など〕をするなら引用文献として扱ってください。原典は参考にした図書(章)の最後にまとめられていますので、そのままの形式で記載してください。一方、参考文献とは、レポートを書く上で漠然と参考になったという文献です。これも最後に参考文献として著者、出版年、タイトル、出版社の情報を挙げてください。

4. パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

1 単位め アドバイス

テキスト第4章「住宅環境と居住性」、第5章「超高層集合住宅」、あるいは第6章「オフィス環境の快適性」をよく読んでください。それらの知識を参考にしながら、今お勤めの職場環境、あるいは今お住まいの居住環境(建物そのものと立地条件など)を、どのように改善したら機能性、快適性、安全性の点から見てよりよい環境になるかを論じてください。

なお論述に当たっては、プライバシーの観点から判断して、許される範囲で結構です。よりくわしいアドバイスは下記のとおりです。

1. 概念の定義

職場環境か住居環境のどちらかを選び、その環境における機能性、快適性、安全性とは何か、3概念それぞれについて、自分はどのような意味でこの言葉を用いるかを述べてください。その際、「○性とは…のことである」などの文章を使うとよいでしょう。

論じようとする概念を定義することは、自分が何について述べようとしているのか、自分が論じるのはどの範囲なのかを読者に伝えることです。何について述べようとしているのかを最初に読者に示すことによって、レポートの書き手と読み手が同じことについて考えられるようになります。例えば、「快適性」とは何のことでしょうか? 身体的な心地よさを指しているのか、精神的なそれを指しているのか、両方なのか、あるいはもっと別なものを指しているのか、さまざまな解釈があり得ます。書き手と読み手が同じ事象について考えることができるよう、概念を定義する必要があるのです。

2. 定義した範囲内におさまる具体例

定義ができれば、自分が定義した範囲内に収まる具体例を示すようにしましょう。その際、定義と具体例の一貫性を保つよう心がけましょう。そうすることによって、脱線することなく議論することができ、読者に説得力をもって働きかけることができます。

3. 最後にまとめの段落をつくりましょう

住居環境（職場環境）の機能性、快適性、安全性についてそれぞれ論じ終えたら、最後にまとめの段落を作ってレポート全体を締めくくるようにしましょう。今まで論じてきたことをまとめ、どのような住居環境（職場環境）が理想とされるのかについて、自分の考えをまとめるようにしてください。

2単位め アドバイス

テキストのパートⅢ「地球環境の保全」を参考にしてください。環境を汚染し、破壊するような結果をもたらした人間行動の多くは、おもに経済的価値を第一とする考え方に根ざしており、それに政治的価値重視の考えが重なるとその規模も極端に大きくなる傾向にあります。改善のためには、いろいろな機会を利用しての啓蒙と、一人ひとりが、面倒がらずに保全のための努力を地道に継続するしかありません。自分の日々の生活を振り返り、地球市民の一員としての責任を果たすためにも、ぜひ改めて考え、実行してみてください。よりくわしいアドバイスは下記のとおりです。

1. 地球温暖化による異変

地球温暖化による異変について、砂漠化や温暖化など、ご自身の関心のあるものでよいので、1～2つ位のトピックスに絞って具体的に紹介してください。実際のデータや数値などを示しながら、客観的に書きましょう。

2. 地球温暖化

温暖化がなぜ生じたのか、その原因を考えて書いてみましょう。その際、温暖化を導いた人々の心理的原因とそれによって引き出される行動的原因に注目してみましょう。

3. 原因を取り除く具体的行動と、それを促進する具体的アプローチは？

原因まで記述できたら、その原因を取り除くために我々ができることを具体的に書くとよいでしょう。その際、どのような心理学の知見や考え方がそれを促進することができるのかを調べて紹介してください。環境問題の難しさは、環境破壊を抑制する日常的な行動（例えばエコバックや公共交通機関の利用など）が大切であるという人々の認識は十分にあるのに、実際にはそれをあまり行わないところにあります。どのような心理学的知見を活用すれば、こうした問題を少しでも解決できると思いますか？その際、テキストにある専門用語を単に並べて述べるのではなく、その専門用語が何の何を意味していて、それがどのように課題の解決に役立つのかを自分の言葉で述べましょう。この分野を初めて学ぶ人にも分かるように心がけて書くと良いレポートになると思います。大いに自分の考えを述べてください。

レポートの一番の目的は、課題についてさまざまな資料や文献を調べ、調べたことをもとに自分が「何を」「どう考えたのか」を読み手に分かりやすく伝えることです。自分の考えや主張を段取りよく相手に説明することは日常生活でも重要なスキルだと思います。レポート作成を通して、ぜひこのスキルを身につけていただけたらと思います。がんばってください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。具体的には、試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」を身につけてほしい。

■参考文献

広瀬幸雄編 『シリーズ21世紀の社会心理学11 環境行動の社会心理学—環境に向き合う人間のこころと行動』 北大路書房, 2008年

佐古順彦・小西啓史編 『朝倉心理学講座12 環境心理学』朝倉書店, 2007年

三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部編 『Q & A 環境問題50』日本経済新聞出版社, 2010年

鈴木浩明著 『快適さを測る』日本出版サービス, 1999年

遠山益著 『人間環境学』裳華房, 2001年

日本生理人類学会 居住環境評価研究部会編著 『生理人類学から見た環境の科学』彰国社, 2000年

楨究著 『環境心理学—環境デザインへのパースペクティブ』春風社, 2004年

渡辺光雄・高阪謙次編著 『新・住居学 (改訂版)』ミネルヴァ書房, 2005年



生涯発達心理学	単位数	履修方法	配当年次
	4	R or SR	1年以上
科目コード	FD2502	担当教員	中村 修

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。

※2017年度のオンデマンド・スクーリングは、別教員（木村進先生）が担当します。

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょう？ さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょう？ この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。もちろん「生涯発達心理学」という科目名ですから発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるわけですが、では生涯という視点で人を理解するとはどのようなものなのでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

- 1) 「生涯発達」の意味を理解し、「発達は積み重ねである」という観点から自分の発達の経過を振り返ることができる。
- 2) 発達のそれぞれの段階/時期における特徴を理解し、学んだ概念を用いて自分および自分の周りにいる人々の姿・行動を説明することができる。
- 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、育児における具体的な働きかけのあり方と留意点について考えることができる。

■教科書

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学－生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2014年

(最近の教科書変更時期) 2017年4月

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① (1章-1)	発達とはどういうことと考えられてきたか キーワード：発達観、発達のゴール上昇の変化	発達とはどういうことかを理解するうえで、まず昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。
2	発達するとはどういうことか② (序章、1章-2)	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	①現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方との相違点を明確にする。
3	発達するとはどういうことか③ (1章-3、4、5)	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、Bronfenbrenner、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
4	胎児期 (2章)	胎児の特徴を学ぶ キーワード：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
5	ピアジェの発達理論 (3章-1)	ピアジェの発達理論について理解する。 キーワード：ピアジェ、シュマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
6	乳児期① (3章-2、3)	認知機能の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：目と手の協応、選択注視法、馴化-脱馴化法、対象の永続性、社会性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究方法を理解する。
7	乳児期②：乳児-養育者間コミュニケーション (4章-1、2)	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑	乳児と養育者の双方の対人関係形成の基盤について理解する。
8	乳児期③：アタッチメントの発達 (4章-3、4)	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	幼児期①： 言葉と表象 (5章-1, 2, 3)	言葉の発達の基盤についての理解 キーワード：表象, ごっこ遊び, 喃語, 共同注視, 初語, 統語, 外言, 内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
10	幼児期②： 遊びの発達 (5章-4)	遊びの発達についての理解 キーワード：機能遊び, 象徴遊び, 並行 遊び, 連合遊び, 協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の 基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ, 遊びの変遷を理解 する。
11	幼児期③： 自己の発達 (6章-1, 2, 3, 4)	自己の発達の理解, 特に自己の芽生えに ついて キーワード：自己感覚, 自己, 主体, 客 体, 第一次反抗期, 自己主張期, 概念的 自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解 する。 ②自己にもさまざまな側面があること を理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について 理解する。
12	幼児期④： 自己制御の 発達 (6章-5)	自己の発達の理解, 特に自己制御につい て キーワード：自己制御, 自己主張, 自己 抑制, 文化差, しつけ, 発達期待	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する 要因について理解する。
13	幼児期⑤： 社会性の発 達と心の理 論 (7章-1, 2)	社会性の発達の理解, 特に他者の意図の 理解について キーワード：心の理論, 誤信念課題, う そ, 道徳的判断, コールバーグ, 共感 性, 向社会的行動, 実行機能	①心の理論とはどういうことか理解す る。 ②道徳的判断の発達について理解す る。 ③共感性の発達について理解する。
14	幼児期⑥： 社会性の発 達, 仲間関 係 (7章-3)	社会性の発達, 特に同年代関係について キーワード：ギャング・グループ, 社会 的比較, ねたみ	仲間(同年代他者)との関係の中でみ られる社会性の発達を理解する。
15	前半の振り 返り	①発達の主要理論についての整理②胎児 期から幼児期までの発達のまとめ	①バルテス・ピアジェ・エリクソンな ど繰り返し触れられる発達理論につい て, 対比的に理解する。 ②胎児期から幼児期までを, 時期ごと ではなく1つの流れとして「どんなこ とがどう変わっていくのか」という観 点で整理する。 ③胎児期から幼児期まで, 子どもに関 わる他者がどのような点で重要なのか 整理する。
16	児童期①： 子どもと学 校 (8章-1)	児童期の認知機能の発達, 特に脱中心化 という観点から キーワード：前操作期, 自己中心性(中 心化), 保存課題, 3つ山課題, 脱中心 化, 具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき, 児童期の思 考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理 解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
17	児童期②： 認知機能の 発達 (8章－2, 3, 4)	児童期の任里機能の発達, 特にメタ認知 という観点から キーワード：短期記憶, 長期記憶, ワー キングメモリ, 動機づけ, メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
18	青年期の発 達①：自己 認知 (9章－1, 2)	青年期の発達の理解, 特に青年期初期の 自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴, 思春期スパー ト, 自己理解, 自我体験, 時間的展望, 青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴に ついて理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否 定的感情の高まりについて理解する。
19	青年期の発 達②：友人 関係 (9章－3, 4)	青年期の発達の理解, 特に同年代他者と の関係から キーワード：友人関係, 関係性攻撃, 恋 愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解, 自己形成にど のように影響するか理解する。
20	青年期の発 達③：親子 関係 (9章－5)	青年期の発達の理解, 特に異年代との関 係から キーワード：心理的離乳, 脱衛星化, 自 立, 対立的関係, 分離と統合	青年期における親子関係の変化につ いて, ①心理的離乳という概念を理解する。 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ 捉えてよいか, よくない場合にはどの ようなとらえ方が可能なのか理解す る。
21	青年期から 成人期へ ①：アイデ ンティティ の発達 (10章－1, 2)	青年期の発達の理解, 特にアイデンティ ティの形成という観点から キーワード：エリクソン, アイデンティ ティ, モラトリアム, マーシャ, アイデ ンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき, アイデ ンティティと何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ス テイタス論」に基づき, アイデンティ ティの形成プロセスについて理解す る。 ③成人期以降のアイデンティティの変 化について理解する。
22	青年期から 成人期へ ②：キャリ アの選択 (10章－3)	成人期前期の発達の理解, 特にキャリア という観点から キーワード：やりたいことへのこだわ り, キャリア, 主体的形成	キャリア形成という観点から「青年期 から成人期への移行」について理解す る。
23	成人期初期 (10章－4, 5)	成人期前期の発達の理解, 特に家庭生活 という観点から キーワード：晩婚化, 非婚化, ライフ コース, 性役割観, ライフイベント	ライフコースの選択と見直しという観 点から成人期前期の発達, 及びその時 代的変遷について理解する。
24	成人期中期 から後期 ①：世代性, 職業・キャ リア発達 (11章－1, 2)	成人期中期以降の発達についての理解, 特にキャリア発達の観点から キーワード：世代性, アイデンティティ 再体制化, メンタリング	成人期中期以降の発達の变化につい て, ①アイデンティティの再体制化とは何 か ②世代性とは何か を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
25	成人期中期から後期：親として、子としての発達 (11章－3, 4, 5)	成人期中期以降の発達，特に親役割の変化という観点から キーワード：養護性，親の成長，子どもの自立，夫婦関係の見直し，子育て不安，介護，ジェネレイショナル・ケア，親役割	成人期中期以降の発達の变化について， ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
26	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 (12章－1, 2)	老年期の発達の理解，特に認知機能について キーワード：エイジズム，流動性知能，結晶性知能，超高齢期，補償，最適化，知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達の变化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
27	老年期②：パーソナリティの発達，サクセスフルエイジング (12章－3, 4, 5)	老年期の発達の理解，特に「人生の統合」という観点から キーワード：ライフレビュー，老年的超越，サクセスフル・エイジング，ソーシャルネットワーク，コンボイ，死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。
28	発達をつまづき① (13章－1, 2)	発達をつまづき，特に発達障害の理解 キーワード：発達障害，自閉スペクトラム症，ADHD，限局性学習症（学習障害），個別支援，環境調整，二次障害	①発達をつまづきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し，基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
29	発達をつまづき② (13章 3, 4, 5, 6)	発達をつまづき，ある発達期に特徴的なつまづきの理解 キーワード：リスク要因，プロテクト要因，不登校，ひきこもり，反社会的障害，摂食障害，喪失，認知症，生活環境，可塑性	①発達期のそれぞれに特有のつまづきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。
30	後半のまとめ	①発達の主要理論についての整理②児童期から老年期までの発達のまとめ	①バルテス・ピアジェ・エリクソンなど繰り返し触れられる発達理論について，後半の学びを含めて改めて対比的に理解する。 ②胎児期から老年期までを，時期ごとではなく1つの流れとして「どんなことがどう変わっていくのか」という観点で整理する。 ③発達をつまづきで理解したことを踏まえて，発達支援をする際の留意点をまとめる。

■レポート課題

1 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
2 単位め	「脱中心化」という観点から、幼児期から児童期にかけての思考の発達について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
3 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者一子相互作用」の重要性についてまとめよ。
4 単位め	「社会的関係の見直し」という観点から成人期の発達を説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書1つをとってもある事柄が説明されている箇所は1か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です

1単位め アドバイス

この課題は教科書の「1章」が中心となりますが、「序章」「12章2」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へとという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつかないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどのようなものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のじっくりくる説明を探してみましょう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう(心理学辞典・事典に載っている)「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づききっかけになるかもしれません。

旧教科書の方は、「序章Ⅰ」「Ⅰ章Ⅱ、Ⅳ」を中心に、教科書以外から「バルテス」という生涯発達心理学者の発達の定義・とらえ方について調べて、レポートをまとめてください。

2単位め アドバイス

この課題は「3章Ⅰ」と「8章Ⅰ」が中心となりますが、「7章」なども踏まえる必要があります。

ピアジェは認知機能に関する発達段階説をまとめています。その発達段階の1つである「前操作期」に該当する子どもの思考・認知の特徴は「自己中心性」とされています。まずはこの「自己中心性」がいわゆる大人の「ジコチュー」と同じことなのかどうか、この時期の子どものどんなことを自己中心性と言っているのか、整理してまとめてください。その上で、「脱中心化＝自己中心性から脱すること」にはどのようなことが必要なのか、自己中心性から脱して子どもの思考はどのような変化をみせることになるのかまとめてください。

説明していることを具体的に示す子どものエピソードなどが説明に盛り込まれると、とても分かりやすいレポートになるかもしれません。ただし、説明にかかわりなく子どもの姿だけが延々と述べられていても課題にこたえることにはなりません。エピソードを用いたり例を加えたりするなら、そうすることで説明がわかりやすくなるのかどうか、独りよがりの記述になっていないか注意して見直してください。

旧教科書の方は、「Ⅰ章Ⅲ」「4章Ⅰ」にてピアジェ理論の大枠をつかんだのち、「5章」を「認知・思考の発達の变化」に焦点をあてて読んでください。加えて教科書以外から「自己中心性」という概念について調べて、レポートをまとめてください。

3単位め アドバイス

この課題は「4章」が中心となりますが、「2章3」「13章3」なども踏まえる必要があります。

端的に言えば、この課題はエリクソンのいう「基本的信頼感対不信」という心理社会的危機の説明、ボウルヴィが提唱した「アタッチメント」概念の説明が中心になります。これだけでもレポートをまとめることは可能だと思いますが、それに加えて「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己、そしてその幼児期にかけての発達の变化」、「『養育者一子の安定した関係』をベースに広げる対人関係」「養育者一子の不安定な関係と関係する問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください（あまり手を広げようとすぎないように気を付けて）。なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者一子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

旧課題の方は、「5章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達の变化」が中心となりますが、「3章Ⅲ」「4章Ⅱ」「9章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

4単位め アドバイス

この課題は「11章」が中心となりますが、「10章」「12章」なども踏まえる必要があります。

人は青年期から成人期にかけて「子どもから大人への移行」を経験します。具体的には「学校という場における学生という役割」が中心だったところから、「社会の中で、職業人（労働者）や地域人（ボランティア、市民活動を行う人）という役割」「家族・家庭という小さな社会で配偶者や親（自

分の子どもに対して)、子ども(自分の親に対して)」をもつなど、個々が選択するライフコースに合わせて様々な役割を同時に持ち、また同時に持つ役割のどれを中心的なものにしていくかをマネジメントしていくこととなります。その意味で、成人期以降の発達は、各個人の選択に応じて多様なあり方を示すことになり、多方向に進んでいくといえます。

この課題では、そのような成人期について「成人期前期と成人期後期では同じ成人期と言ってもどのようなことに違いがあるのか」ということについて、具体的に言えば成人期前期と成人期後期で発達課題はどのように違うのかということについて整理してまとめてください。また、成人期を説明するためには、その前後の時期について簡単に触れることも有効でしょう。具体的には青年期と成人期前期の違い、成人期後期と老年期の違いについても触れてみてください。

旧教科書の方は、「6章」を中心にレポートをまとめてください。「6章Ⅲ」が特に中心になりますが、「6章Ⅱ」「6章Ⅳ」をどこまでどれだけ取り込むかよく考えてレポートをまとめてください。

■レポート 評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』6章(2017版4章1節)「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉(キーワード)が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して回答におこむことができると評価が高まります。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1994年 *旧教科書
- 2) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ 機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年
- 3) 無藤隆・やまだようこ編『生涯発達心理学とは何か一理論と方法』(講座生涯発達心理学1)金子書房、1995年

- 4) 本郷一夫編『シートブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社, 2007年
- 5) 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学(第2版)』ミネルヴァ書房, 2009年
- 6) 無藤隆・中坪史典・西山修編著『新・プリマーズ 発達心理学』ミネルヴァ書房, 2010年
- 7) 無藤隆・子安増生編著『発達心理学』東京大学出版会, 2011年
- 8) 氏家達夫・陳省仁著『発達心理学概論』放送大学教育振興会, 2011年
- 9) 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン 生涯発達心理学(第2版)』ナカニシヤ出版, 2012年
- 10) 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房, 2013年
- 11) 高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学15講』北大路書房, 2014年

児童青年心理学

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上



科目コード **FD2516** 担当教員 **半澤 利一**

■科目の内容

児童青年心理学は、人間の児童期と青年期における発達の姿と特徴、発達にかかわる要因の分析やそのメカニズム等を明らかにすることを中心におく発達心理学の一分野です。児童は狭義には学童期をさしますが、広義には、人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの青年にいたる前の発達期をすべて包含します。そして、学童期に続く青年期にある個人の心理・行動を研究するのが青年心理学です。したがって、児童青年心理学で扱う対象は、児童期・青年期としておきます。

児童期・青年期の示す種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、そのような発達をもたらす要因や条件の分析、発達の制御や発達過程を明確にするための理論の構築と検証、そして理論の適用へと児童青年心理学の課題は進展してきています。

それらを解明するためには、単に児童や青年を対象とする心理学だけではなく、心理学の他の領域—家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学—はもちろんのこと、近接領域の科学—社会学、経済学、生物学、文化人類学—などとも、ますます密接に関係をもつ必要性がでてきています。児童・青年の理解とその行動科学のために、基礎的な知識と理論を学んで欲しいと思います。

■到達目標

(児童期部分の2単位分)

- 1) 児童期と他の発達時期（幼児期と青年期）の相違点を、領域別に説明できる。
- 2) 児童期を学校生活の低学年（1年生－2年生）、中学年（3年生－4年生）、高学年（5年生－6年生）に分け、それぞれの特徴を比較説明できる。
- 3) 今日の子どもの社会とのかかわりの中での問題点、また、発達のつまずきや節目について説明することができる。

(青年期部分の2単位分)

- 1) 青年期と他の発達期の相違点を複数の観点から比較説明できる。
- 2) アイデンティティの形成プロセスを理解し、4つのアイデンティティ・ステータスのそれぞれの特徴を比較説明できる。
- 3) 青年と社会との関わり的重要性及び問題点について、「問題行動」「キャリア形成」などの領域別に指摘することができる。

■教科書

- 1) 心理科学研究会編『小学生の生活とこころの発達』福村出版、2009年（1・2単位め）
- 2) 菊池武剋監修 沼山博編集『トピックス 思春期・青年期と向き合う人のための心理学』中央法規

出版, 2004年 (3・4 単位め)

(最近の教科書変更時期) 2007年4月より, 2) の教科書が変更になり, 2010年4月より, 1) の教科書が変更になりました。

■在宅学習15のポイント (児童心理学=教科書1))

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	児童期とは① (教科書1) 第1部第1章)	児童期という発達期の位置づけについて理解する。 キーワード: 学校文化への参入, 授業における学習, 発達課題としての勤勉性	児童期は, 発達段階の中でどのような特徴を持っているのでしょうか? 学校生活が始まり, 次第に親から離れ, 学校を中心とした勉強に打ち込み, また交友関係の広がりもみられ, 人格を形成していきます。小学生の生活を理解するために, 子どもたちを取り巻く社会環境と自然環境の中で, 子どもたちの見せる柔軟さ・潜在力はどんな風に発揮されるのか考えてみましょう。
2	児童期とは② (第1部第2章)	幼児期から児童期・思春期へと連続的な時間の流れの中で経験する非連続な発達の節目について理解する キーワード: 子どもを取り巻く生態学的環境, 客観的・科学的認識, 防衛機制	幼児期と青年期の間の児童期は, 罹病率が低く, 子ども同士で遊ぶことができ, 比較的安定した時期と言われてきました。しかし, 現実には発達段階の移行期におけるさまざまな問題乗り越えていかなければなりません。その鍵と言えるのが, 子どもの発達が, 縦と横の"つながり"の中で見守られ, 支えられ, 促進されることで充実していくことが必要であることを理解してください。
3	1年生-2年生① (第2部第1章 1.1・2)	幼児期から児童期への移行は, 発達プロセスとしてどのように特徴づけられるのかについて, 説明できるようにする。 キーワード: 幼児の認知発達段階, 自己中心性, 前操作期,	小学校入学は, 日課, 活動スタイルなどがそれまでの就学前の幼稚園・保育所と大きく異なり, 小学校入学は, 異質な文化システムへの参入といえます。ここでは, 移行期の教育上の留意点を知るために, 幼児期の発達について理解してください。
4	1年生-2年生② (第2部第1章 1.3・4)	「小1プロブレム」と幼保小連携・接続の問題を理解する。 キーワード: 書きことば, 2次の言語の獲得, 科学的思考への移行期	幼児期から児童期へ, 幼稚園・保育所から小学校への移行期の発達の理解, 遊びという活動の捉えなおし, 安心できる人間関係づくりが「小1プロブレム」を乗り越えるために大切なことを理解し, 説明できるようにしてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	1年生－2年生③ (第2部第1章2・3・4)	低学年の学級の荒れへの対策とそこで必要な見方について理解し、適切な関わりができるようにする。児童期の自然に対する認識の変容を理解する。 キーワード：7歳の壁、素朴生物学の変化、小1プロブレム、学級集団作り、自己の客観視	小学校低学年の学級の荒れへの対策を考えると、原因追求は適切でない場合が少なくありません。どうしたらうまく関係をつながれることができるか考えることが必要です。小学校と就学前教育、教師と子ども、子ども同士、教師と保護者や地域をつなぐことが、荒れへの対策としてまず重要であることを理解してください。
6	3年生－4年生① (第2部第2章1)	知的好奇心旺盛で、友達仲間同士で世界を広げてゆく活力のあふれる中学年の子どもの特徴を説明できるようにする。 キーワード：仲間関係の発達、ギャングエイジ、規範意識	児童期において重要なことは、仲間関係の形成です。仲間関係が本格的に作られるのは、小学4年生以降のことです。こうした他者との関係を築く資質や能力に基づく人格発達の側面を理解してください。
7	3年生－4年生② (第2部第2章2・3)	9、10歳の節が児童期一般に関わる発達過程であると考え、ことば、思考、人格の3つの側面からその特徴を理解する。 キーワード：知的リアリズム、視覚的リアリズム、落ちこぼれ、望ましい集団活動に必要な5つの心	9、10歳の節は、聴覚障害児における学力形成上の困難さを示す「9歳の峠」という呼称が起源です。状況依存的な言語に起因する発達上の困難、学力形成を支える思考の問題、つまり現象の背後に潜む過程に分け入る思考の問題、おとなから一定程度自立して自分の頭で考えて行動し、結果について責任を引き受ける、これが児童期の人格形成の課題です。9、10歳の節について、理解を深めてください。
8	5年生－6年生① (第2部第3章1)	児童期の後期に位置する思春期について、理解する。 キーワード：第2次性徴、発達加速現象、マージナルマン、青年期の自己意識、自己肯定感、社会的視点取得能力	「まだ子ども」であると同時に、「もう大人」として扱われることも多くなる思春期。一般的には、児童期の後期に位置づけられるとともに、身体的には第2次性徴を迎えて思春期に入っていくという、不安定な移行期です。社会化と個性化の狭間で、展開されるこの時期の子どもの特徴を理解し説明できるようになってください。
9	5年生－6年生② (第2部第3章2)	高学年は思春期の入り口です。児童期から青年期への過度期は、「発達の危機」を抱え込んだ年齢として説明されることもあります。 キーワード：形式的操作期、科学的思考の育成	この時期は、人々のまなざしに映った自己像や自分が体験したことを経験したことの振り返り、推量的なメタ認知が可能となり、他者や環境といった「外的な評価に対する敏感性」が反映されやすい時期です。この時期の特徴を自己意識から説明できるようになってください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	中学生への移行 (第2部第3章4)	小学6年生にとって、慣れ親しんだ小学校生活から、中学校という新しい学校環境へと移行する際に不安はつきまとう。子どもたちの移行期の意識の変化を理解し、説明できる。 キーワード：小学校を卒業すること、中1プロブレム	小学校から中学校への学校移行。中学校への進学に際して「～したい」という具体的な期待感を強く持つと同時に、その裏返しとして「うまくやっけていけるか」という不安感も同時に強く感じるでしょう。小学生より中学生の方が、将来への希望を抱かなくなるのは、自分や自分の周囲の世界について客観的、現実的に眺めることができるようになる時期であるから、発達的变化をこのような将来展望から考えてください。
11	子どもらしさを捉える① (第3部第1章3)	文化と人間発達との関係を探る。 キーワード：社会的認識	人間の学習・発達の仕組みには、優れた観察と模倣の能力を持つ子どもと、それをうまく活用してコミュニティの活動に導く年長者とが、互いに影響し合って構造化していくという基本過程が見えてきます。現代の日本社会にこうした基本過程が十分に機能する環境があるか、大人と子供の活動が分離されないことが文化的発達には重要であることを理解してください。
12	子どもらしさを捉える② (第3部第3章)	社会生活の基礎となる生活リズムの形成過程について説明できるようになる。 キーワード：サーカディアンリズム、ノンレム睡眠、レム睡眠、睡眠教育	子どもを取り巻く環境が夜型化してきます。子どもの心身の発達の理解において、基礎的で重要な問題の一つは、子どもが生物学的な存在から社会的存在へと質的に変容する過程です。睡眠と生活リズムを考慮した睡眠教育の普及について説明できるようにしてください。
13	個性の理解と発達支援① (第3部第1章2)	子どもの臨床的問題へのアセスメントと介入効果について理解し、実施できるようになる。 キーワード：情緒障害、児童期の行為障害	発達とはその展開の内部に正負両面をあわせもちつつ進行する矛盾に満ちた過程であると認識することが必要です。発達が内包する矛盾に関するもう一つの視点は、通常<良い>と思われる能力はいつも<良い>行為として現れるわけではありません。他者の内面を理解することは、健常児か障がい児かを問わず社会化には重要な要素であることを理解してください。
14	個性の理解と発達支援② (第1部第2章1, コラム6)	通常、発達障害のある子どもたちの発達上の困難さを通して、子ども達の個性の幅を理解する キーワード：自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムという概念は、これまでの発達障害も健常児も一直線状の量的問題で捉えようとしたものです。子どもの発達支援には、子どもの理解が前提として行われる必要から、子どもの個性についていろいろ側面から把握することができるようになってください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	子どもの権利としての子どもらしさ(第3部第5章1)	子どもの権利としての子どもらしさについて理解を深め、子どもの権利を守る大人の役割について、説明できる。 キーワード：人権、子どもの権利、支援と教育	子どもにとっては、労働から解放され、学校に通い学習することが制度化されたこと、遊び等の子ども文化が生まれたことなどが現代の「児童期」を特徴づけています。しかし、禁止されたり強制される行動もあります。子どもは大人を乗り越えていく存在でもあります。このように子どもらしさの歴史的社会的性格と2面性とをふまえながら、子どもらしさの発達の意義について理解してください。

■在宅学習15のポイント（青年心理学＝教科書2）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	青年期とは①(教科書2)1章1・4)	青年期という発達期の位置づけについて理解する。 キーワード：思春期、通過儀礼、モラトリアム、ライフイベント	他の発達期と青年期はどのような点で異なるのでしょうか？特に青年期の前後の時期との「境目」をどう考えておけばよいのでしょうか？まずは「青年期」という時期を大づかみにでも理解してください。
2	青年期とは②(1章2・3)	青年期の身体的・生理的側面について理解する。 キーワード：発達加速現象、生活習慣、第二性徴	青年期ならではの身体的特徴、変化の特徴を踏まえたうえで、「身体の変化」が「こころの変化」と関連していることを理解してください。
3	青年期とは③(1章54章1)	発達課題という概念を理解し、特に青年期の発達課題を明確にする。 キーワード：発達課題、進路選択	社会は青年期に相当する年齢の人間に対して何を求めているのでしょうか。社会がこの時期に対して何を課題とし設定するのか、何を達成した上で次の時期へと進んでいってほしいと考えているのかということは、「青年期の前後の時期との項目」について考える1回目のテーマとも関連しています。
4	青年期とは④(1章75章1)	親子関係の変化から青年期の特徴を理解すると共に、「疾風怒涛」と表現される青年期の意味づけの是非について考える。 キーワード：心理的離乳、個性化、疾風怒涛、第二次反抗期	「反抗期」という言葉から青年期は「荒れる時期」と連想する向きもあるかもしれませんが、果たしてそうなのでしょうか？「荒れなければ青年期ではない」かのような言説は正しいのでしょうか？
5	アイデンティティ形成①(1章8・6)	エリクソンの提唱した「青年期の心理的危機」としての「アイデンティティ」概念と、マーシャの提唱した「アイデンティティ・ステータス論」を理解する。 キーワード：自己概念、アイデンティティ、アイデンティティ・ステータス	この回は特に重要です。青年期に対する代表的な言説としての「アイデンティティ」について十分に理解してください。また、自己概念というものが人間にとってどのように重要なのかということもここで理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	アイデンティティ形成② (1章9 2章7)	自己のありよう、自己の捉え方が以下に心身の健康に影響するか理解する。 キーワード：自己評価、社会的比較、原因帰属	5回目「自己概念の重要性」の続きとなる部分です。アイデンティティには「自己の一貫性、統合性」が大きな要素となります。自己の捉え方という問題は、どのようなアイデンティティが形成されるかということへとつながっていきます。ボディイメージという事項は7回目へとつながる要素です。
7	アイデンティティ形成③ (3章3 2章8)	摂食障害を例に、自己の捉え方と心身の健康状態の関連を理解する。 キーワード：摂食障害、メディア、メディア・リテラシー	青年期（の女性）に特に問題になりやすい摂食障害という問題に、自己概念という観点からはどのような説明ができるのかという点がポイントです。また、メディアの問題をとりあげることで、次回以降の事項である「青年期をとりまく他者、社会」の問題へとつながっていきま
8	青年と社会との関係① (1章10 2章4)	青年期の友人関係、同年代関係の特徴を理解する。 キーワード：ギャング・エイジ、重要な他者、アイデンティティのための恋愛	4回目に「親子関係の変化」を取り上げましたが、では「親から離れた」後に誰とどのような対人関係を築いていくのか、その対人関係はアイデンティティの形成にどのように影響するのかといった点について理解してください。
9	青年と社会との関係② (2章 1・3)	メールというコミュニケーションツールに焦点を当てた説明から、友人関係の維持・(再)構築の意義を考える。 キーワード：移行、(環境)適応、(対人関係の)希薄化	青年期では何度も環境移行が行われます。環境が変わり人間関係も変わる中で「環境適応の基盤のための人間関係」をどう築いていくのか、という点が1つのポイントです。次に、青年の対人関係が希薄化していると言説もありますが果たしてそうなのか、コミュニケーションツールという観点から考えてみてください。
10	青年と社会との関係③ (3章4 5章6)	非行という現象に対して、特に「青年と社会の関係」に着目して説明を行っている理論の概要を理解する。 キーワード：学習、社会的絆、準備性	「非行」とはそもそもどんな現象なのか、なぜ非行を行うのかということについて「社会」という要因を重視した理論を学ぶことにより、8回目と9回目に学んだ「青年と社会との関係」の理解を深めてください。
11	青年と社会との関係④ (3章 5・6)	青年期に生じやすい問題行動を理解すると共に、問題をどのように捉えるかという視点を理解する。 キーワード：反社会的行動、非社会的行動、アンビバレント	7回目から10回目まで「裏テーマ」となっていたのが「青年期の問題行動」でした。それらの回で理解したことを改めて「問題行動」として整理し直し、併せて「対応」の際の留意点について理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	青年期のキャリア発達① (4章 4・8)	キャリア概念を理解し、キャリア発達の中での青年期の位置づけを理解する。 キーワード：ライフキャリア、役割間葛藤、(選択の)プロセス	この回も特に重要となります。3回目に「発達課題としての職業選択」を取り上げましたが、ここから最終回までは「キャリア選択」に焦点をあてて青年期及びアイデンティティ形成への理解を深めます。そのための基盤としてここで正しく「D.E. スーパーによるキャリアに関する言説」を理解してください。
13	青年期のキャリア発達② (4章 5・9)	キャリア選択に必要な自己理解及び職業理解に関する青年期の特徴を理解する。 キーワード：マッチング、職業適合性、パーソナリティ・タイプ、職業認知	学校段階を終え社会人になるということは「青年期の終わり」を特徴づける重要な事項となります。次の進路を選ぶ際には自分及び社会を理解して選択の材料とすることが必要になりますが、これらの理解に関する問題点を理解してください。
14	青年期のキャリア発達③ (4章 6・7)	「青年期を終える時点の問題」ではなく「青年期を通じての一貫した課題」としてのキャリア・職業選択のありようを理解する。 キーワード：(選択の)プロセス、意思決定、調査的決定	13回目に「選択の材料としての理解」をポイントとしましたが、理解した材料をどう扱うのか、どうやって材料を集めるのかということも大きなポイントとなります。青年期を通じてその課題に取り組み続けることの必要性を理解してください。
15	青年期のキャリア発達④ (4章 10・12)	キャリア形成・選択のつまづきとその対応を理解する。 キーワード：自分探し、モラトリアム、やりたいこと志向、自己実現	必ずしも「フリーターは問題ある青年」ということではありませんが、12回目から14回目までの内容について「つまづきを示して」フリーターとなっている場合もあります。どんな点で選択プロセスが滞ってしまうのか、ある種のフリーター像を例に考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	児童期における知的機能の発達の特徴を述べなさい。
2 単位め	児童期の社会化において家族や友だちが果たす役割について論じなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
3 単位め	【説明型レポート】 次の①～③の概念を、それぞれ400字以上600字以内で説明しなさい。 ①心理的離乳 ②自己概念と自己評価 ③モラトリアム
4 単位め	青年期におけるキャリア形成の意義について論じなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

各課題について、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で、理解された内容をまとめるように心がけてください。その際、自分が大人になっていく道筋を振り返り、手がかかりとするのもいいでしょう。経験科学である心理学を学ぶことは、自分を含めて周囲の人や出来事を科学化することでもあります。

1単位め アドバイス

心身の急激な発達や発育が見られる乳幼児期に比べ、児童期は比較的安定した時期だと言われます。心身がゆるやかに成長する中でも、知的操作は自己中心性を脱して具体的操作段階へ、さらには形式的操作段階へと移行します。その過程で何をどう学び、どう発達して行くのか、ピアジェの理論を軸にして具体的に考えてください。

2単位め アドバイス

児童期においては、就学によって学校という社会に踏み出します。今まで生活のすべてであった家庭を一時的に離れ、行動範囲も地域社会の中で少しずつ拡大して行きます。家族の重要性は変わりませんが、子どもの発達のプロセスによってその役割も少しずつ変化し、友だち関係も重要になってきます。児童期に影響する家族や友だち関係を役割や機能面から捉え、論じてください。

3単位め アドバイス

単に辞書的な定義を書くだけでなく、用語解説としてわかりやすくなるように気をつけてください。①～③とも、テキストの該当部分のみではなく、他の事項も参照し、さらに参考文献などからも情報を取り入れて自分の言葉で記載してください。

4単位め アドバイス

青年期の終わりには「自分はどんな仕事に就いて生きていくのか」について答えを出さなければなりません。その後変更することがあるにしても、とにかく「一つの答えを出して」社会人として、成人としての一步を踏み出すことが望まれます。いわば、青年期は答えを出すための「探索期」でもあると言えますが、回答においては、まずはエリクソンの心理社会的発達段階説とスーパーの職業的発達段階説から「探索期としての青年期のありよう」についてまとめてください。次に、探索する中でどのようなことを理解して行けば答えにつながるのか、さらにはそれがアイデンティティの形成にどう影響するのか、までを含めて自分なりに考察してください。

■科目修了試験 評価基準

記号選択の設問においては正しい記号が選択されている場合のみ正答としています。

記述問題においては「①課題で問うている内容の理解」「②問いの形式に応じた回答の記述」という2点が評価ポイントであり、記述量はあくまで副次的な評価ポイントです（つまり、課題に直接関連しないことが多く述べられていたとしても評価されません）。

■ 「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■ 参考図書

- 1) 心理科学研究会編『心理科学への招待』有斐閣, 2004年
- 2) J. コールマン・L. ヘンドリー著 白井利明ほか訳『青年期の本質』ミネルヴァ書房, 2003年
- 3) 浦上昌則・三宅章介・横山明子著『就職活動をはじめる前に読む本』北大路書房, 2004年
- 4) 遠藤由美著『青年の心理 ゆれ動く時代を生きる』サイエンス社, 2000年
- 5) 齊藤誠一編『青年期の人間関係』培風館, 1996年
- 6) 白井利明・都筑学・森陽子著『やさしい青年心理学』有斐閣, 2002年
- 7) 白井利明著『大人へのなりかた——青年心理学の視点から』新日本出版社, 2003年
- 8) 徳田安俊著『青年心理学入門——発達の課題とその理解』川島書店, 1982年

*生涯発達心理学の教科書・参考文献も「使える」はずです。



<h1>老年心理学</h1>		単位数	履修方法	配当年次	
		4	R or SR	1年以上	
科目コード	FD2517	担当教員	吉川 悠貴		

■科目の内容

これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、人間関係、認知症の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。

■到達目標

- 1) 高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。
- 2) 高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。
- 3) 認知症に関する基礎的知識を得たうえで、心理を理解した支援の要点を述べることができる。
- 4) 高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べることができる。

■教科書

- 1) 加藤伸司編『介護福祉士養成テキストブック10 発達と老化の理解』ミネルヴァ書房、2010年
- 2) 本間昭編『介護福祉士養成テキストブック11 認知症の理解 第2版』ミネルヴァ書房、2013年（最近の教科書変更時期）2013年4月より、上記2)の教科書が変更になりました。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人間の成長と発達①発達のさまざまな理論（教科書1第1章）	「発達」とは何か、どのようにとらえられるものかについて学ぶ。また人間の発達を理解するための基礎的な理論にはどのようなものがあるかを理解する。 キーワード：発達、相互作用説、生涯発達心理学、発達段階、発達課題	とかく誕生から成人までの時期がイメージされやすい「発達」という概念について、「生涯発達」という視点を踏まえて基本的なとらえ方や基礎的な理論を理解しましょう。自身や近親者などのこれまでの歴史を振り返りながら考えると理解の助けになります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	人間の成長と発達②乳幼児期から青年期まで(教科書1)第1章)	乳幼児期, 児童期, 青年期のそれぞれについて, 人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において, どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード: 乳幼児期, 児童期, 青年期, 自我	各時期において生じる様々な変化について, 概要を理解しましょう。特に, 心理社会的な側面から, かつ自身の経験を踏まえてとらえてみましょう。
3	人間の成長と発達②成人期から高齢期まで(教科書1)第1章)	乳幼児期, 児童期, 青年期のそれぞれについて, 人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において, どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード: 成人期, 高齢期, 受容, 適応	特に高齢期については, 成人期までを含めた, 人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また, 心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
4	加齢に伴うからだの変化の特徴①老化と加齢に伴う生理的变化(教科書1)第2章)	「加齢」と「老化」の違い, 及び老化に関する主要な仮説について理解する。その上で, 加齢に伴って生じる生理的变化の概要を学ぶ。 キーワード: 加齢, 老化, 生理的变化	生涯発達の観点をを持った上で, 「老化」がどのようにとらえられるか考えてみましょう。また, 加齢に伴って生じやすい変化を概要として総体的に理解しましょう。
5	加齢に伴うからだの変化の特徴②身体に生じやすい変化(教科書1)第2章)	身体の部位や器官(骨・関節, 筋力, 循環器, 呼吸器, 内分泌系, 消化器, 泌尿器, 神経系, 感覚器)ごとに, 具体的な加齢変化や生じやすい疾患, 生活への影響について理解する。 キーワード: 加齢変化, 疾患, 生活への影響	加齢に伴って身体に生じやすくなる変化について, なるべく具体的に理解していきましょう。また, 個々の生活行為から高齢期全体の過ごし方まで含めて, 生活(人生)への影響についても考えましょう。
6	加齢に伴うこころの変化の特徴①感覚・知覚, 注意・反応(教科書1)第3章)	感覚・知覚, 及び注意・反応における加齢変化の実際を学ぶ。またそれらの変化が高齢期の生活にどのような影響を与えるか理解する。 キーワード: 感覚, 知覚, 注意, 反応	人間の生活行為を支える感覚・知覚, 及び注意・反応について, 具体的にどのような変化が生じ, 日常生活に影響を与えるかについて考えましょう。高齢期的に理解し, 必要な配慮を行うにはどうしたらよいか, という視点を持つとよいでしょう。
7	加齢に伴うこころの変化の特徴②記憶, 知能(教科書1)第3章)	記憶機能, 及び知的機能の概要について学ぶ。その上で, これらの機能の加齢変化がどのように生じているか理解する。 キーワード: 記憶, 知能	まず, 記憶機能や知的機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で, 加齢変化の実際を, 従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	加齢に伴う こころの 変化の特徴③ 感情、パーソ ナリティ、適 応(教科書1) 第3章)	高齢期における感情や人格(パーソナリティ)の変化について概要を理解する。また、こころの健康・心理的適応の観点から、変化や影響を与える要因について学ぶ。 キーワード：感情、性格、人格(パーソナリティ)、葛藤、適応	高齢期におけるこころの変化について、個人差を踏まえて理解しましょう。また、適応(心理的な意味での健康)に影響を与える要因について、具体的な内容と影響のしかたを考えましょう。
9	高齢期の発 達と成熟① 生涯発達と 高齢者をとり まく環境 (教科書1) 第4章)	生涯発達の視点による高齢期の理解について、より詳しく学ぶ。また高齢期に生じる社会的な関係の変化やそれらに関する喪失体験等について学ぶ。 キーワード：生涯発達、役割、関係、喪失体験	高齢期に生じやすい家庭・職業生活、あるいは地域生活における変化、殊に対人関係やその中での役割の変化について考えていきましょう。またそれらが高齢者の心理にどのように影響しうるか、具体的に想定してみましょう。
10	高齢期の発 達と成熟② 高齢期にお ける適応 (教科書1) 第1・4章)	老いの受容、サクセスフルエイジング、生活史、セクシャリティなどの観点から、高齢期の適応について総合的に学ぶ。 キーワード：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	「発達と老化の理解」のまとめとして、高齢期の適応について総合的に理解するよう努めましょう。適応が困難な場合やセクシャリティなど、普段触れにくい視点を含めて考えられるとよいでしょう。
11	認知症の基 礎知識① (教科書2) 第1章)	認知症、及び認知症の人を取り巻く現状について、概要を理解する。また、認知症の定義や原因疾患、症状理解の枠組み等の基本的な事項について学ぶ。 キーワード：認知症、定義、原因疾患、症状	わが国における高齢者ケア・認知症ケアの歴史を踏まえて、現状を理解していきましょう。また、認知症とはどのような病気であるか、自分のこれまでのイメージと照らし合わせながら整理していきましょう。
12	認知症の基 礎知識② (教科書2) 第1章)	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ。 キーワード：病態、発症機序、危険因子(予防因子)、軽度認知障害	発症機序や危険因子(予防因子)等について理解した上で、予防や治療として現在どのような対応が行われているか考えていきましょう。薬物療法以外の治療的対応、発症以前の予防という視点も含められるとよいでしょう。
13	認知症ケア の基本 (教科書2) 第2章)	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、及び基本的なケアの方向性を学ぶ。またその実現のために必要な、認知症の人や症状の理解のしかたについても学ぶ。 キーワード：認知症ケア、アセスメント、生活援助	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と基本的なケアについて、枠組みを把握しましょう。また、具体的な声掛けや配慮等の対応場面を想定しながら考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	施策 / コミュニケーション / 地域ケア (教科書 2) 第 3 章～第 5 章)	わが国において現在示されている、認知症ケア施策について理解し、地域における支援の進め方について学ぶ。また支援の基盤となるコミュニケーションやチームケアについても学ぶ。 キーワード：施策、地域包括ケア、コミュニケーション、チームケア	わが国において示されている、生活圏域を基盤とした認知症ケアの考え方や具体的な施策、それを進めるチームケア等について理解しましょう。施策についてはテキスト出版時流動的であったものも含まれるため、可能であれば最新の情報を検索してみましょう。
15	権利擁護・リスクマネジメントと家族支援 (教科書 2) 第 6 章・第 7 章 (第 5 章の一部を含む))	認知症の人の権利擁護について、制度の概要を学ぶとともに、高齢者虐待等の権利侵害の実態、及びリスクマネジメント等の取り組みを理解する。また、認知症の人を介護する家族への支援について学ぶ。 キーワード：権利擁護、リスクマネジメント、家族支援	権利侵害の実態やリスクマネジメント考え方を理解した上で、権利擁護を行うための制度について理解していきましょう。家族支援については、家族のおかれている環境や心理に注目した上で、どのような支援が必要かを考えていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのようにとらえられるかについて、「生涯発達」および「老化」という観点から、これまで示されてきた考え方や知見を整理した上であなたの考えを述べなさい。
2 単位め	高齢期における、加齢に伴う記憶および知能の変化についてまとめた上で、それらの変化を理解する上で必要な留意点をまとめなさい。
3 単位め	高齢期におけるパーソナリティ（≒人格・性格）の変化と心理的な適応がどのように生じるかについて、変化や適応に影響する具体的な要因を示しながら説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
4 単位め	認知症の症状について、中核症状と周辺症状（認知症に伴う行動・心理学的症候：BPSD）という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート課題をまとめるにあたって考えて欲しいことは、単にテキストを見てそれを要約するのではないということです。高齢期に見られるさまざまな心理学的変化が、これまでにいわれてきた通説とどのように異なるのか、あるいはこれまで心理学という学問が高齢者のさまざまな問題をどのように明らかにしてきたのかについて理解を深めていかなければなりません。

以下に各レポート課題のまとめ方についてのアドバイスを行います。すべてのレポート課題について、各レポートの前半の部分はさまざまな研究成果などをまとめる形にしてください。後半部分ではそれらのテーマについて自分なりの意見や具体的な例を取り入れながら結論を出していきましょう。

レポートは、ただ単にテキストや参考文献をまとめただけでは評価の対象にはなりません。また自分な

りの意見を述べただけでも評価の対象にはなりません。必ず課題に対する心理学的な研究成果等を踏まえ、かつ自分なりの意見や具体的な例を取り入れた形でまとめてください。またレポートの最後に参考にした文献も一覧にして載せ、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

1単位め アドバイス

テキスト『発達と老化の理解』を主に参照してください。同書第1章第1節・第6節、第2章第1節、第4章第1節を中心によく読み、他の文献なども参考にしながら、高齢期という時期がどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」および「老化」という観点からテキスト等で紹介されている考え方を整理した上で、自分の考えを主張するようにしてください。

2単位め アドバイス

高齢期における記憶および知能について、テキスト『発達と老化の理解』の第3章第3節・第4節を中心によく読み、加齢に伴う変化がどのように生じているのかについて整理してください。また、それらの変化を理解する上で留意すべき点についてまとめてください。なお、ここでいう留意点とは、単に機能の衰退や減少という側面からのみではない理解のしかたや高齢者への対応に必要な、考慮すべき事項という意味です。

3単位め アドバイス

テキスト『発達と老化の理解』の第3章第5節・第6節、第4章第2節～第4節を中心によく読み、高齢期におけるパーソナリティ（≒人格・性格）の変化と心理的な適応がどのように生じるかについてまとめていきます。その際、変化や適応に影響しうる要因について、特に高齢期に生じやすい事象を具体的な例を示しながら論述してください。その意味では、影響要因については網羅的である必要はなく、特に重要と思われたもののみ取り上げて論じて構いません。

4単位め アドバイス

テキスト『認知症の理解』の第1章第2節・第3節・第6節を中心によく読み、同書第2章や他の文献なども参考にしながらまとめてください。課題に示したように、単に症状や影響要因を羅列するのではなく、中核症状と周辺症状という区分を理解した上で、症状に影響しうる要因が具体的にどのように作用し、どのように症状があらわれるのかを示してください。なお、かつてそのようにみなされていた、あるいは誤った考え方、という意味で用いる場合以外に、周辺症状について「問題行動」という表現を用いた場合は、評価を減じることがありますので留意してください。

■科目修了試験 評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかを求めており、これらが記述されているかどうかの評価の基準となる。

また、レポート25%＋科目修了試験75%の按分で評価を行う。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 内田伸子編著『誕生から死までのウェルビーイング 老いと死から人間の発達を考える』金子書房, 2006年
- 2) 谷口幸一・佐藤眞一編著『エイジング心理学 老いについての理解と支援』培風館, 2007年
- 3) 日本認知症ケア学会編『認知症ケアの基礎知識』ワールドプランニング, 2008年
- 4) 加藤伸司著『認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか (増補新版)』河出書房新社, 2016年
- 5) 下仲順子編『高齢期の心理と臨床心理学』培風館, 2007年
- 6) 原千恵子・中島智子著『老年心理学 (心理学の世界 専門編2)』培風館, 2012年

■履修上の注意

(高等学校福祉科免許状取得希望の方へ)「老年心理学」を高等学校教諭一種免許状(福祉科)取得に必要な科目として使用するためには、2011年度以降の入学者で、2011年度以降に履修登録をして上記の課題に取り組み、2011年度以降に単位修得をする必要があります。2010年度までに履修登録した「老年心理学」は高等学校教諭一種免許状(福祉)取得に必要な科目として使用できません。

また、2015年度以降の入学者も、高等学校教諭一種免許状(福祉科)取得に必要な科目として使用することはできません。

教育心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード	FE2513	担当教員	白井 秀明
-------	--------	------	-------

■科目の内容

「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「ひとはなぜ忘れるのか？」という記憶や忘却のメカニズムをはじめ科学的に研究したからです。一方、その「心理学」の一分野である「教育心理学」では、同じ記憶や忘却を研究するのに、「どうしたら忘れなくなるか？」という発想をします。この発想の違いが、教育心理学とはどういう考え方をする学問か、ということを考える際の手がかりになると思います。えっ、まだよくわからないって……。

では、ズバリ言いましょう。教育心理学的に考えるとは、“学ぶ人の味方になって考える”ことなのです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきっと彼ら彼女らなりの理由があるにちがいない、その“言い分”にじっくり耳を傾けて、その対策を考えてみようじゃないか、というわけです。ですから、子どもに何かをわかりやすく教えたいと思っている先生、いやなにも学校教育に限らず、人と楽しく教育的なかわりを持ちたいと思っている人にとって、少しでも役に立つ知識や技術や考え方、そういうものを提供するのが教育心理学だと考えています（かなり私の希望が入っていますが）。

本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方はほとんど書かれてありません。でも、“学ぶ人の味方になりたい！”と考えている人にとっては、大切な考え方や研究が数多く紹介されています。「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人に味方になっているな」などと読み進めていただければ、と思います。もちろん、ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考え方とつきあわせて読むということも大切なことです。教科書に書いてある心理学者の名前や考え方をただ記憶するだけでは、教育心理学って面白いな！とは感じてもらえないと思うからです。

■到達目標

- 1) 人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。
- 2) 「教育と発達の関係」について、2つの大きく異なる考え方を学び、どちらが“学ぶ人（子ども）の味方”になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。
- 3) 「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。
- 4) 学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	教育心理学とは何か (第1章)	教育心理学は、考えることだけに頼りがちな哲学とは異なる方法で人間にアプローチする学問であることを知る。また、誕生当初の主立った研究の概要から、教育や社会に役に立つ体系的な知識を求めて教育心理学がスタートしたことを知る。	教育心理学は、一般心理学とは異なり“2つの応用”という側面を持った心理学だと書いてあります。その意味について、誕生当初の諸研究を、社会や教育に役立つ知識を得るためにどのような方法で研究し、実際そういう知識が得られたのか、という視点から再検討してください。
2	心理学者の考え方のスタイルと教育観 (第2章)	クロンバック (L. J. Cronbach) が提唱した心理学についての3つの考え方の違いを知る。また、エルカインド (D. Elkind) の2つの教育観の違いを知る。それらにより、教育心理学は「よい教育とは」という価値から離れることはできないことについて考える。	人間観 (人間とはどういう存在か)、研究観 (研究にとって何が大切か) によって、心理学を大きく3つにわけています。大きく2つにわけた教育観は、それらの3つのどの考えに強く影響されているのかについて整理してください。さらに、ご自分の考え方がどれに近いのか考えてみると楽しくなります。
3	行動主義の学習心理学とその応用 (第3章)	2種の条件付けの違いについて具体例を挙げて説明する。また、行動主義の技法の応用の実際を知り、メリットとデメリットについて考える。特に、プログラム学習と「応答的な環境」の相違点について説明できる。	2種類の条件付けの違いは、もとなる反応が「受動的か、積極的か」です。さらに、「できる」を少しずつ積み重ねていくことがプログラム学習の特徴ですが、「応答的な環境」は、賞を期待したり罰を避けることによって行動を形成する学習ではありません。大切なことですので、両者の異同についてじっくりと考察してください。
4	学習の認知理論 (第4章)	「認知主義の学習」は、第3章の「少しずつ行動を変化させる」という「行動主義の学習」とは何が異なるのか説明できる。人間や人間に近い動物は、部分をみる、機械的に記憶する、試行錯誤 (行き当たりばったり) するなどよりも、心のなかにある仕組みを使ってうまく行動できることを知る。	「見る」という感覚から情報を入力するだけで捉えがちなことが、心の仕組みを使って「考える」とそれほど明確に区別がつかないことに気がついて欲しいです。今まで出会ったことのない「問題」を解決するのも同じことですね。
5	発達の心理学①発達の考え方の変遷 (第5章)	ピアジェ (Piaget. J) が想定している「認知構造の発達段階」について、普遍性の高い理論をつくらうとしたことからくる特色や問題点を説明できる。また、さまざまな観点から検討課題が残されていることについて知る。	子供は大人とは違った見方、考え方をすることを示したことが、ピアジェの最大の貢献です。しかし、人間の発達を考える上で検討課題も多々残したことも事実です。それぞれ具体的に説明できるようになって欲しいです。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	発達心理学②新しい発達の考え方 (第6章)	ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) が想定した人間の発達についての考え方について知り、人間が作り出してきた文化、社会そして教育と人間の子供が発達する過程が、どういう関係にあるのか説明できる。特に、ピアジェの考え方とどこが異なるのか自分なりに説明できる。	ヴィゴツキーの発達理論は、教育（文化、言語、等の獲得）が発達をつくるという考えです。発達段階に合わせて（丁度いい段階に来るまで待って）教育をする、というピアジェの考え方とは大きく異なりますね。
7	動機づけの心理学 (第7章)	動機づけの考えの基になった「ホメオスタシス」という生理的なメカニズムについて知る。また、そこから考え出された「社会的強化」という動機づけによって説明できる行動もあるが、「好奇心」や「達成動機」など他の心の働きによっておきる行動の方が多いいことを、それら用語の意味と共に具体的に説明できる。	「ホメオスタシス」という生理的な平衡状態を保つメカニズムを手本にした「社会的強化」では、人間の心の中にある「やってみよう」「おもしろい」「楽しい」を説明しようとしても、上手くいかないことに気づいてください。どうしても、「好奇心」や「達成動機」等の他の心の働きに言及しないと説明できない行動があるのです。
8	自主性と意欲 (第8章)	「自己原因性」という言葉の意味について理解を深める。その上で、達成行動における2種類の目標と行動の特徴と2種類の知能観について、対比的かつ具体的に説明できる。	人間は誰かに言われてする（やめる）ことが生来的に嫌いなのであり、本来は自分の行動の原因主体であることを望んでいる、という考えに対する理解を深めてください。他者に対する自分の行動の振り返りの視点になります。
9	人間観と教育① (第9章)	3つの人間観があることを知り、その上で時代や社会の構造の変化と、その時代に求められた人間観の変化に対応関係があることについて説明できる。	「いくつもの教育心理学がある」というのがこの教科書の立場です。それら「いくつも」の違いが出てくる根本にあるのが「人間観の違い」です。①では行動主義的な人間観について注目して、教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
10	人間観と教育② (第10章)	3つの人間観があることを知り、各自が持つ人間観が異なることによって、知識、学習、動機づけ、学習環境、教育評価、教師といった教育に登場するキーワードに対する意味づけが異なっていることについて意識でき、その違いを対比的に説明できる。	②では、認知主義、状況主義の人間観から見た場合の教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
11	教育評価とは何か (第11章)	教育評価には大きな2つの目的があることを知る。また、手段としての教育測定について測定結果を表現する2つの準拠方法の違いについて説明できる。	形成的評価、総括的評価、あるいは相対的評価、絶対的評価など、意味の曖昧な用語が教育の中で使われているのが現状です。ここで言う2つの準拠方法の違いや評価の利用計画、評価方法、評価主体、評価結果を利用する人等の違いによって、それらを整理できるようになって欲しいです。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	記憶の心理学と教育 (第12章)	無意味綴りを用いた記憶のメカニズム(第1章pp. 16-18参照)や記憶過程のモデルを「研究」しただけでは、私たちが日常使っている言葉や経験したことを使って考えるための記憶研究にはならないことを知る。	教育に役立つ記憶の研究には、普段私たちがする「考える」「推論する」「創造する」などの心の働きと切り離れた「記憶のみ」の研究では不十分であることに気づいて欲しいです。
13	知能と創造性 (第13章)	「知能」は多面的、多角的に捉える必要があることを知る。知能テストについて実施目的や結果の使われ方が歴史的に変わってきたことを知る。創造性についても、さまざまなとらえ方があることを知る。	「知能」や「創造性」という言葉で表そうとしている心の働きは、まだまだ心理学の中で共通した考え方はありません。両者を区別することも賛否両論です。対象となる課題分野やその人が育ってきた文化などに影響を受けない「知的な能力」を測るテストなどそう簡単にはつくれないことに気づいて欲しいです。
14	道徳性の心理学と教育 (第14章)	「道徳性」という心の働きの質的な変化としての発達や変化を起こすための経験や環境の与え方(広い意味での教育)などについて、どのような研究がなされてきたかを知る。	「道徳性」を、きまりにしたがう、先生や親のいうことにしたがうなど、広い意味で「考える」という心の働きと切り離して捉えることはできないことに気づいて欲しいです。
15	教育方法の分析 (第15章)	発見学習をめぐる議論から、2つの異なる「方法」による「学習」の成果を比べるという研究だけでは、教え方の善し悪しを判断するのは難しいことを知る。学習に影響を与える4つの要因について知る。	教育について議論するには「学習の方法」だけでは十分でなく、何を学習したのか、どんな学習をしたのか、といった「学習の内容」についても考えていく必要があるということに気づいて欲しいです。

■レポート課題

※2017年よりワープロ・パソコン印字での提出も可能とします。みなさんとのレポートのやりとりは「授業」に相当すると考えています。みなさんの「表情」を読み取ることが少しでも可能な「手書きレポート」を読むことができなくなるのはとても残念なので、できる限り手書きにて作成していただくことを強く希望します。

1 単位め	「知識観」「学習観」「動機づけ観」「学習環境観」「教育評価観」「教師観」からひとつ選んで、「行動主義」と「認知主義」の考え方の違いを、具体例を挙げながら説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
2 単位め	ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」は、どんなところが“学ぶ人の味方”になっている考え方か。ピアジェの「発達段階説」と対比させて説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書くにあたって、教科書だけに頼るのではなく、教科書や文末に紹介されている参考文献などからの“輸入”は大歓迎です(“輸入元”はレポートに明記してください)。“わかること”と“わからなく

なること”が交互に繰り返される、それが何かを学ぶ筋道だと考えるからです。

1単位め アドバイス

「～観」というのは、ものごとに対する見方、考え方のことです。「行動主義」と「認知主義」では、学習についてだけでなく、さまざまなことに関する考え方が異なります。教科書の3章、4章だけでなく、9章や10章にも、両者の違いが書かれてあります。まず、これらを読んで両者の違いについて整理してください。

それから、課題に書いてある「知識観」～「教師観」の中からひとつ選んで、ご自分が読んだり、見たり、聞いたりしたこと、特に、今までのご自分の教育体験の中で、「行動主義」と「認知主義」の考え方のそれぞれに当てはまる具体例をさがしてください。なにもかたく考える必要はありません。「こんな先生がいたけど、これは行動主義的な考え方をもった先生だったのではないか」とか、「生徒のやる気を出すためにこんなことをした先生がいたけど、これは認知主義が主張する内発的動機づけになっていたのではないか」とか「今まで自分は勉強するってこう考えてやってきたけど、そういう考えって行動主義的な学習観になっていたのではないか」とか「こういう問題を解いているときに、こういう“ああーわかった！体験”をしたけど、認知主義の先駆であるゲンタルト心理学が主張した洞察のことだったのか」などなど、自由にそして大胆(!?)に、具体例探しをしていただきたいと思います。面白いエピソード、お待ちしています。

2単位め アドバイス

ポイントは、「発達」に対する「教育」の役割を、両者がどう考えているかです。もちろん、ここでいう教育とは、学校教育だけでなく、社会的・文化的経験などを含めたもっと広い意味での教育活動のことです。間違いやつまずきを示す、いいかえると、発達が滞っている人に対して教育活動を受動的・消極的にとらえているのはどちらでしょうか。能動的・積極的にとらえているのはどちらでしょうか。まず、「教育」と「発達」の関係に対する両者の考え方の違いを対比的に示して欲しいのです。そして、両者の「教育」と「発達」の関係に対する考え方とご自分の考えとつきあわせた結果、自分は「教育」「発達」についてどう考えるか（考えられるようになったか）も、ぜひお書きいただきたいと思います。

■科目修了試験 評価基準

- ・問題によって設定されたこと（異同点を延べよ、違いを明確にせよ等）について、的確な言葉を使って論理的に説明されているか。
- ・具体例を挙げて、となっている設問には、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

以上の観点によって、科目修了試験100%で評価を行う。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

園田富雄監修・著 山崎史郎編著『新版教育心理学ルック・アラウンド——わかりたいあなたのための教育心理学』ブレーン出版, 1992年

教育心理学の主な領域の内容が網羅されています。初学者が、教育心理学の全体的な骨格を知るには適書だと思います。

宇野忍編『授業に学び授業を創る教育心理学 第2版』中央法規出版, 2002年

題名からわかるように、授業実践の実例を豊富に取り上げながら教育心理学の諸問題について書かれています。と同時に、学習者の味方になって授業を創っていこうという姿勢が貫かれている、とも言えるでしょう。教員志望の方にはぜひともお読みいただきたい一冊です。

永野重史著『教育心理学通論——人間の本性と教育』放送大学教育振興会, 2001年

教育心理学の再入門のために書かれた本です。「教育」「学習」「発達」などに関するご自分の考えをさらに整理する目的でお読みいただけたら、と思います。

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教職に関する科目」として使用することはできません。

また、2017年度以降は、2014年度以前入学者でも「教職に関する科目」としての履修は原則としてできません。何らかの事情で希望する方は書面で通信教育部事務室に連絡し、指示を受けてください。



障害児の心理			単位数	履修方法	配当年次
			4	R or SR	2年以上
科目コード	FE3518	担当教員	木村 進		

※この科目は、2018年度まで開講します。スクーリング受講、レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

※この科目の会場スクーリング、オンデマンド・スクーリングは、2017・2018年度開講予定です。

■科目の内容

「障害」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象や感想を持つのでしょうか。「心身障害児」とか「障害者」とよぶ以上、そこには何か意味があるはずです。保育や教育の場面に例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということを意味していると思われる。障害をもった子どもの保育・教育が的確に行われるためには、「障害」についてきちんと理解し、「障害をもつ人」の心理について基本的な認識を深める必要があります。

ここでは、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもや大人がどのような心理状態に陥りやすいかということ进行学习します。

■到達目標

- 1) 「障害」の意味をさまざまな角度から考察し、特に、その社会的な意味について自分の考えを述べることができる。
- 2) さまざまな種類の障害について理解し、学習前に抱いていた障害についての知識や考えとの異同を具体的に明らかにすることができる。
- 3) 特に、「発達障害」についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ（育児・保育・教育）のあり方について具体的に考えることができる。
- 4) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。
- 5) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮（条件）が必要であるかについての考えを述べるができる。

■教科書

田中農夫男・木村 進編著『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009年
 (最近の教科書変更時期) 2010年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害とは (序章2)	障害という言葉の意味の理解 キーワード：障害、統計基準、生活基準、WHO、ICIDH、ICF、ノーマライゼーション、行動の障害、発達の障害	①教育場面を想定した定義を理解する。 ②WHOの障害の捉え方を理解する。③障害に関する発達心理的視点を理解する。
2	知的障害の理解① (6章)	①知的障害の定義の理解 ②心理的特徴の理解 ③知的障害児の支援のあり方の理解 キーワード：知的機能、適応行動、知能検査、ダウン症候群、知覚、注意、記憶、インリアルアプローチ	①A AMRの定義を理解する。②知的障害の原因を理解する。③知的障害児の知覚・認知記憶および言語の特徴を理解する。④生涯発達の視点から、知的障害者への支援について総合的に理解する。
3	知的障害の理解②：老年期の知的障害 (20・21章)	①老年期の知的機能の特徴についての理解 ②認知症の理解 キーワード：言語性IQ、動作性IQ、認知能力、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、見当識、実行機能、妄想、パーソンセンタードケア	①老年期における記憶を含む認知機能の変化について理解する。②認知症について理解しその行動特徴を知る。③認知症高齢者の介護のあり方について考察する。
4	運動障害・肢体不自由の理解① (5章)	①運動障害の定義の理解（原因疾患も含めて） ②運動障害児の心理的困難についての理解 ③運動障害児への支援についての理解 キーワード：肢体不自由、脳性まひ、骨関節疾患、図と地、摂食・嚥下障害、器官劣等感、身体像、AAC	①運動障害とは何かを理解した上で、主な原因疾患である脳性まひと骨関節疾患について調べて理解する。②コミュニケーション・運動・認知・学習面における困難さを理解する。③それぞれの困難さに対する支援について理解する。
5	運動障害とは②：動作法 (15章)	①動作法(心理学リハビリテーション)の考え方の理解 ②動作法による援助の視点の理解 ③動作法のプログラムの理解 キーワード：動作法、意図-努力、課題動作、とけあい動作法、コミュニケーション・ループ	①動作法の歴史を理解し、基本となる考え方を理解する。②いろいろな障害を対象とした動作法の支援の視点を理解する。③動作法の基本的なプログラムを理解する。
6	言語障害とは (3章)	①言語障害の定義の理解 ②コミュニケーションの手段としての言語の特徴の理解 ③言語障害の種類を踏まえて、援助のあり方の考察 キーワード：言語障害、ことばの鎖、言語と話しことば、失語症、音声障害、吃音	①コミュニケーションの過程を踏まえて言語障害の意味について理解する。②言語障害の3つの特徴を理解する。③言語障害者への支援について、周囲の人への働きかけを含めて考察する。
7	学習障害とは (7章)	①学習障害の具体的理解（類型を含む） ②学習障害の随伴症状の理解 ③学習障害の判定の理解 ④学習障害児への教育的取り組みの理解 キーワード：学習障害、LD、中枢神経系、協応運動、社会的知覚、スクリーニングテスト、除外条項、LDサスペクト、通級学級	①類型を踏まえて、学習障害を具体的に理解する。②学習障害の主症状と随伴症状の両方を理解する。③早期発見から判定への流れとして理解する。④通級学級について調べた上で、学習障害児への教育的取り組みについて考察する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	注意欠陥多動性障害とは (8章)	①ADHDの診断基準の理解 ②ADHD児の行動特徴の理解 ③ADHD児の保育・教育のあり方についての理解 キーワード：ADHD, 不注意, 多動性, 衝動性, 自尊感情, ペアレントトレーニング, PDSC, 自己効力感, 二次的障害	①診断基準の理解を踏まえて, ADHDの症状について具体的に理解する。二次的障害についても理解する。②ADHD児の保育・教育について理解する。その際, 接し方と働きかけ方に分けて理解するように努める。
9	自閉症スペクトラム障害とは (9章)	①自閉症の診断基準の理解 ②自閉症の症状の理解 ③スペクトラムということの理解 キーワード：自閉症スペクトラム障害, アスペルガー障害, 心の理論, 高機能自閉症カナー, アスペルガー, ウィング	①診断基準については, DSM-5において大幅な改定が行われているが, 自閉症を理解する上ではテキストに載っている古い基準でも大丈夫だと思われる。診断基準を通して主な症状について理解する。②スペクトラムという捉え方について, ウィングの考えを理解する。
10	幼年期の障害 (18章)	①幼年期における障害の捉え方の理解 ②「気になる子」という捉え方の理解 ③発達アセスメントと保護者支援の理解 キーワード：代謝性障害, 発達障害, 確定診断, 状態像の変化, 気になる子, 虐待, 注目欲求, 記憶範囲, 発達アセスメント, 行動観察, 心理検査, 保護者支援	①幼年期に特有の障害はないので, 幼年期における障害をどのように捉えるかという視点での理解を図る。②なぜ「気になる子」という表現をするのかを理解した上で, 支援について考察する。③発達アセスメントを具体的に理解するとともに, 移行支援, 保護者支援のあり方について考察する。
11	視覚障害／聴覚障害とは (1・2章)	①視覚障害の基礎的理解 (判定を含む) ②視覚障害者の職業の理解 ③視覚障害についての基礎的理解 (判定を含む) ④手話と口話についての理解 キーワード：視覚障害者, 正眼者, 点字, 墨字, 鍼灸, 難聴, 聾, 健聴者, 九歳の壁, 手話, 口話	①生活を通して視覚障害者の特徴を理解する。②歴史的視点から視覚障害者のする職業を理解する。③日常行動を通して聴覚障害を理解する。④手話と口話を土台にして, 聴覚障害者のコミュニケーションについて考察する。
12	特別支援教育 (19章)	①特別支援教育とは何かの理解 (対象も含む) ②特別支援学校・特別支援学級／通級指導教室における教育の理解 ③通常学級における教育についての考察 キーワード：特別支援教育, 特殊教育, 発達障害, 病弱・身体虚弱, ソーシャルスキルトレーニング, 個別の指導計画	①特殊教育から特別支援教育の流れを踏まえて理解する。②それぞれの特別支援教育の場における教育の特徴を理解する。③通常学級に在籍する特別支援教育対象者の教育について具体的に考えてみる。
13	障害児をもつ家族 (11章)	①家族および家族の機能についての一般的理解 ②障害児をもつ家族の問題の理解 キーワード：家族, 家族機能, 社会化モデル, 情緒安定, 核家族化, 母性行動, 性別役割分業, 養育態度, ライフステージ, 危機, ライフイベント, エンパワメント	①家庭の機能について一般的に理解するとともに, 現代における家庭の特徴を母子関係の変容を中心に理解する。②障害児を持つ家庭の問題点について, それぞれの時期 (ライフステージ) を前提にして理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	障害児をもつ家庭支援 (12章)	①障害のある子どもを持つ家庭における情動的反応の理解 ②障害のある子どもの存在に関連する家庭内の問題の理解 ③障害のある子どもを持つ家庭への支援に関する考察 キーワード：情動的反応、慢性的悲嘆、放任、強制、過保護、葛藤、対立、孤立、複雑化、多様化、長期化、共感、傾聴、養育	①家庭支援を考える前提として11章4節をまず理解する。②具体例を参考にしながら、情動的反応の変化について理解する。③家庭内に起こり得るさまざまな問題について、支援を意識しながら理解する。④支援のあり方について、対象者を中心にした理解を図る。
15	まとめ：障害児の理解 (序章1・16章)	①障害の意味についての再考 ②障害者の心理的特徴の総合的理解 障害者の生活の質という視点から、支援のあり方の再考 キーワード：新しい呼び方、五感、バリアフリー、介護保険、ADL、IADL、QOL、EMB、メンタルヘルス、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己評価、自己決定能力	①1回目の学習(序章2)を振り返りながら改めて障害の意味について考える。②障害が与える心理的影響について総合的に考える。③障害のある人のQOLについて考察し、それを踏まえて支援のあり方を考える。

■レポート課題

1 単位め	「心身障害児」などという場合の「障害」の意味について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)
2 単位め	「知的障害児」の心理的特徴と学童期の指導について説明しなさい。
3 単位め	「発達障害」とは何かについて説明しなさい。
4 単位め	障害のある子どもをもつ家庭への支援についてまとめなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、この課題集と教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくことが第一に重要です。該当する箇所は1カ所とは限りませんから、課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。

2016年度以前入学者は『学習の手引き』序章に「レポートの書き方」を載せてありますので、もう一度読んで、作業手順を確認してから、レポート作成にとりかかってください。

課題はすべて、基本的には教科書に書いてあることについてまとめ、それに参考文献等で肉付けをするという形で書けるはずですが、教科書をまとめるだけでは不十分ですので、必ず教科書以外の参考文献の内容も加えて書いてください。

1単位め
アドバイス

最初のレポートは、「障害」ということの定義を書きなさいという課題です。これは「序章2」の内容をまとめることが中心になりますが、「序章1」の内容や他の研究者の定義なども含めて内容を充実させることが望まれます。定義について考察することにより、「障害とは何か」ということについての理解を確立することが目標です。そして、それらを総合して、できれば、自分なりの定義としてまとめてください。他の課題も同様ですが、教科書を含めて、参考文献を明記することを忘れないでください。

2単位め
アドバイス

2単位めは「知的障害」がテーマです。教科書の内容を踏まえて、足りない分は他の文献で調べてください。内容としては、①知的障害とは何か（定義）、②知的障害をもたらす原因についてコンパクトにまとめてから、③心理的特徴について説明し、さらに、④学童期における指導について論じてください。①～③は、教科書をまとめることで書けますが、④は、教科書だけでは内容が不十分ですので、他の文献を捜してください。なお、④は、「学童期」に限定していることに留意してください。また、④の内容は、「支援」ではなくて「指導」となっています。この指導という意味は、「学習指導」と解釈してください。

「知的障害」はもっとも数の多い障害といえると思います。もし将来障害児・者関係の仕事をするとしたら、知的障害の子どもや大人を相手にする可能性が高いので、このレポートでしっかり学習してください。長い間「精神薄弱」とよばれ、その後「精神遅滞」とよばれるようになり、最近は「知的障害」が使われることが多くなりましたが、この呼称の変遷は、「障害」ということを理解する上でも興味深いことだと思われまます。

このレポートの中心はあくまで③と④であることに注意してください。

3単位め
アドバイス

この課題は、「発達障害」というものについての理解を深めるために設定したものです。障害児教育の歴史を見てみると、障害児（特に知的障害児）が「教育可能」「訓練可能」などと分類された時代があり、ある程度以上重い障害児は教育の対象になっていなかった時期がありました。その後、1979（昭和54）年に「障害児の全員就学」が実現し、重い障害の子どもにも教育の光が当たるようになりました。そして、現在は、通常学級に在籍するLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害などの発達障害をもつ子どもたちの教育をどうするかということが課題になってきています。こういう状況を受けて、ここでは、そういう「発達障害児」についての学習を進めることが課題です。

具体的には、上記のLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害のそれぞれについて、①定義、②そのような障害が起きる原因、③主な特徴（症状）、④基本的な教育（指導）のあり方の4点をレポートしてください。この課題は、「第7章」「第8章」「第9章」を読んでまとめるという作業になります。大体的内容は教科書で間に合はずですが、教科書以外にも手を広げて、充実した内容にしてください。

他のレポートについても同じですが、あなたがたは、レポートを書くことによってそのことについての理解を深めるということが目標なので、自分で書いたレポートの中に専門用語など、言葉としては知っていても意味の理解が不十分な単語や言い回しが出てきたら、それについて[注]をつけて解説するというをやってみてください。そうすれば、何よりも自分にとってわかりやすいレポートになります。

●参考——発達障害の定義・診断基準の1つ = DSM-5の変更

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」（ディーエスエム）と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）として発表されました。教科書には掲載されていないので、ここで補足しておきます。

DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム（障害）」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

また、「自閉症スペクトラム（障害）」の診断は「社会的コミュニケーション」と「限定した興味と反復行動」の2つから判定され、「アスペルガー障害」「小児崩壊性障害」などの下位分類がDSM-5からはなくなっています。

もちろん「広汎性発達障害」や「アスペルガー障害」の呼び方がなくなるわけではありません。また、このような変更が今後、教育分野でも採用されていくのか現状ではわかりませんが、今後、発達障害の診断とそれにとまなうかわり方について、引き続き学習を深めていってください。

4単位め アドバイス

この課題では、障害のある子どもをもつ家庭への支援のあり方について学習します。テーマの中心は「支援のあり方」ですが、適切な支援をおこなうためには、そのような家庭についての確に理解しておく必要があります。したがって、まず、「11章」の内容から「家族関係」というものについての基本的な理解をして、それに基づいて「12章」前半の「家族の心理」を論じ、最後に「支援のあり方」を考えるという内容になると思われます。

受講生の中には、さまざまな立場で、障害児をもつ家庭への支援に携わっている方もいると思われます。的確な支援を行うためには、障害の理解、発達の理解と並んで、この支援のあり方について考えおよび支援のスキルが問題になります。この課題は、支援についての考えを問うものですが、他の文献も参考にして、支援スキルにまで言及することが望まれます。「支援」という言葉に含まれる意味はかなり広いと思われるのですが、ここでは、家庭あるいは家族に直接支援するということを前提に内容を考えてください。つまり、あなたが、直接相談を受けるとか親を指導する立場であるとか、あるいは、育児カウンセラー的な立場であるとか、そういうことを想定してレポートをまとめてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 応用問題はありません。教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。
- 3) 教科書に書いてあることの中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）がしっかりと書けているかどうか採点のポイントになります。キーワードを覚えましょう。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 中司利一著『障害者心理——その理解と研究法』ミネルヴァ書房, 1988年
- 2) 小池敏英・北島善夫著『知的障害の心理学——発達支援からの理解』北大路書房, 2001年
- 3) 熊谷公明著『発達障害の基礎』日本文化科学社, 1999年
- 4) 栗田広編著『広汎性発達障害』全国心身障害児福祉財団, 1998年
- 5) 池田勝昭・目黒達哉編著『障害者の心理・「こころ」』学術図書, 2007年

※その他「発達障害」関係の文献はたくさん出ています。図書館や書店でさがしてみてください。

人格心理学

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上

科目コード **FF2511** 担当教員 **皆川 州正**



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。今年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。
※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。

■科目の内容

ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別なときの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特徴的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときは、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面の特徴を指します。

人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理（葛藤と欲求不満、防衛機制を含む）、⑦人格と健康の関連、⑧人格と文化・性差の関連、⑨人格の理解の方法などについて学びます。このうち、⑥⑧については、補足資料を参照ください。

■到達目標

類型論（タイプ論）的見方、特性論的見方、力動論的見方、ロジャーズの自己理論の特徴を説明でき、仕事の現場や日常生活の中で活用できるようになる。

■教科書（教科書2）は「福祉心理学」と共通）

- 1) 岡田斉編『心理学理論と心理的支援 第2版』（社会福祉士シリーズ2）（第3・10・11・12章）弘文堂、2014年
- 2) 小松紘・木村進編『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』（第3部第2章など）八千代出版、2009年

さらに、以下の補足資料（B4判・1枚）を配付します。

- ・皆川州正 2004 問題行動の一般的経過：どのように見通しを持つのか 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.198～199
- ・今城周造 2004 情動・欲求の否定的側面：悩んだり、迷ったり 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.63～64（皆川により補足）
- ・皆川州正 人格と文化・性差の関連

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書2）は「福祉心理学」で配本のため、この科目では教科書1）と追加資料のみ配本いたします。

■履修登録条件

この科目は「福祉心理学」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	人格の定義と研究の課題 (教科書1)の第3章1, 教科書2)の第3部第2章第1節1・2)	心理学における人格の定義, 人格と性格と気質の違い, 研究の課題と臨床における応用について学ぶ。	学びを深めるコツとして, ①どういう意味か, ②どういうことか, ③どういうわけか, ④(自分や社会に)どういう関わりか, という4つの問いがあります(武田忠, 2001による)。これを本講義にあてはめると, ①人格とはどういう意味か, ②心理学でいう人格とはどういうことか, ③どういうわけで人格の研究が必要なのか, ④人格についての学びは自分にどう関係するのか, ということになるでしょう。 福祉心理学の福祉はすべての人の幸せ・生きがい・自己実現をめざすwell-beingを意味しています。また, 心理学は心の理学(科学)を意味しています。そこで, 人格について学ぶことで, その人の心と行動を理解し予測するとともに, 適用の援助, 自己実現の支援に役立てます。 日常生活で用いている「人格」の意味と心理学で用いている「人格」の意味の違いについて考えてみましょう。
2	類型論 (教科書1)の第3章2B, 教科書2)の第3部第2章第1節3)	類型論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, クレッチマーの類型論とシェルドンによる研究, ユングの類型論, その他の類型論について学ぶ。	「全体は部分の総和以上のものである」といわれ, 全体と部分の問題は心理学の大きなテーマになっています。類型論は全体を重視する立場になり, 特性論は部分を重視する立場になります。心理学の歴史も踏まえながら, とらえていくとよいでしょう。 クレッチマーの着想は臨床経験から, ユングの着想はフロイトとアドラーの見方の違いがどこからくるのかと考える中で生まれました。理論が生まれた背景のエピソードにも目を向けるとよいでしょう。 自分自身の類型について考えてみましょう。
3	特性論 (教科書1)の第3章2C, 教科書2)の第3部第2章第2節2)	特性論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, キャッテルとアイゼンクの研究, 特性5因子モデルについて学ぶ。	人格特性はオルポートによって提唱されました。オルポートはフロイトのもとを訪れ, 失望したことから, 新たな理論が作られました。特性論は因子分析という統計的手法によって発展し, 今日盛んになっている質問紙法の人格検査をもたらしました。また, 特性の因子数については研究者によって異なりましたが, 今日ではおおよそ5つになることが明らかになりました。 自分自身の特性について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	状況論と相互作用論 (教科書1)の第3章2C(4))	ミッセルによる状況論と「人-状況論争(一貫性論争)」と、その後の展開、特に相互作用論について理解する。	ミッセルは、平和部隊としてナイジェリアに派遣される若者達の派遣後の適応などをロールシャッハ・テストや特性質問紙人格検査によって予測しましたが、結果は思わしくありませんでした。そのことから、人格の定義そのものに疑問を投げかけました。そこから、大論争が巻き起こり、人格についての精錬された見方へと発展しました。 状況によって人格が変わってしまう例を考えてみましょう。
5	力動的構造論 (教科書1)の第3章2D, 第11章1A, 教科書2)の第3部第2章第2節1, 第4部第3章第3節4)	力動的構造論の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, レヴィンの場の理論, フロイトの精神分析理論とその後の展開(自我心理学, 新フロイト派, 対象関係論など), ユング心理学, アドラー心理学, ロータッカーによる成層説, アサジョーリによる精神統合理論について学ぶ。また, その応用としての精神分析, ユング心理学, アドラー心理学, 精神統合の心理療法について学ぶ。	フロイトは、事例を一般化して精神分析理論を構築・発展させていきました。また、フロイト自身が神経症を抱えており、父の死をきっかけとして神経症が悪化、友人の助けを借りながら自己分析を通してエディプスコンプレックスを発見します。フロイトの人生と事例をたどりながら学ぶことをお勧めします。 なお、力動とは、2つの力のぶつかり合いを意味します。そこで、まず、心の中の葛藤を考えてみましょう。 アドラー、ユング、アサジョーリはフロイトのもとで学びますが、やがて袂を分かって、無意識についての新たな見方をしていきます。フロイトの見方との違いを考えてみましょう。
6	交流分析理論 (教科書1)の第3章2D(5)(4), 第11章1E, 教科書2)の第3部第2章第2節1)	交流分析における自我状態の構造分析, 脚本分析(禁止令とドライバー), 交流パターン分析, ゲーム分析, ストローク理論, 基本的構え, 時間の構造化などについて学ぶ。また, その応用としての交流分析の心理療法について学ぶ。	交流分析は、「精神分析の口語版」ともいわれ、バーンによって、精神分析理論を基にし、人間性心理学の視点を取り入れて創始されました。 交流分析では、自律的な人間をめざし、そのためには「気づき」「自発性」「親密性」の要素を高めることが必要と考えています。交流分析によって、気づき、自発性、親密性がどのように高められるのかを考えてみましょう。
7	人間性心理学 (教科書1)の第3章2F, 第11章1B, 教科書2)の第3部第2章第2節6, 第4部第3章第3節4)	人間性心理学の考え方, 利点と欠点について理解する。代表的な理論として, マズローの欲求階層説と自己実現論, ロジャーズの自己理論について学ぶ。また, その応用としての来談者中心療法について学ぶ。	マズローは、精神分析と行動主義心理学に対して、第三勢力として、人間の心の健康的な側面に注目し、研究を行いました。ロジャーズは、児童相談センターで、ある母親の話す夫婦の問題に耳を傾けて聞くうちに、母親が夫婦の問題や子どもの問題を解決していくという経験を、非指示的療法を提唱し、さらに来談者中心療法、人間中心療法へと発展させました。人間性心理学が生まれた背景にも目を向けながら学ぶとよいでしょう。 自分自身の欲求の段階、経験と自己概念の不一致について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	学習論, 認知論 (教科書1)の第3章2E・G, 第11章1C, 教科書2)の第3部第2章第2節4・5, 第4部第3章第3節4)	学習理論・認知論の考え方, 利点と欠点について理解する。恐怖症, 攻撃行動, 無気力, 社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。認知の個人差が課題解決や社会的感受性, 不安や抑うつと関連していることを学ぶ。また, その応用としての認知行動療法について学ぶ。	認知や行動は再学習することが可能であり, 医療領域や健康領域では認知行動療法あるいは行動変容アプローチとして盛んに応用されてもいます。 自らの認知や行動について自己観察し, 認知や行動の変容が生じやすいような工夫を考えてみましょう。
9	文化の影響 (教科書1)の第3章3A(3), 第11章1B, 教科書2)の第4部第1章第3節, 補足資料)	文化人類学における研究, 文化的自己観について学ぶ。	グローバル化が進み, 多文化共生共創社会が課題となっています。文化が人格形成に影響していることを知って, 自分の所属する文化の人たちの行動や異なる文化の人たちの行動について考えてみましょう。同時に, ステレオタイプの異文化理解に陥らないように留意することも必要です。
10	自我・自己 (教科書2)の第3部第2章第3節, 教科書1)の第11章1D)	自我・自己の概念と分類, 自我・自己の形成, 自我・自己の機能, 自我の強さ(成熟度)について学ぶ。解決志向療法による生きる力の成長についても学ぶ。	自分という意識が行動にどのように影響しているか, 自己観察してみましょう。 吉田松陰は「私心さえ除き去るならば, 進むもよし退くもよし, 出るもよし出ざるもよし」といいました。夏目漱石はエゴイズムの問題に向き合い, 晩年は「則天去私」を理想としました。京セラの創業者稲盛和夫は何かをしようとするときに「動機善なりや, 私心なかりしか」と自問自答したといえます。私心について考えてみましょう。 解決志向療法の考え方は, エンパワーメントをもたらす, 自己評価・自己概念の変容を生じることもあります。応用してみましょう。
11	自己実現 (教科書2)の第3部第2章第4節, 教科書1)の第3章ジェネリックポイント)	自己実現・自己超越のとらえ方, 自己実現の成長過程, 自己実現の留意点について学ぶ。	歴史上の人物や有名人の自己実現について考えてみましょう。 自分がどの程度自己実現に向かっているのか, 考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	人格の形成・発達と変化 (教科書1)の第3章3, 第11章1A(2)・(4), 第4章1, 教科書2)の第5部第1章第4節, 教科書1)の第11章1D(5)・2E1, 第4部第3章第3節5)	人格の形成における遺伝的要因, 個体内要因, 環境的要因, 主体的要因について学ぶ。人格の変化と役割性格の変化について学ぶ。フロイトによる心理-性的発達論, エリクソンによる心理・社会的発達論, 分離-個体化理論, 対象関係論, 道徳性の発達, ナラティブセラピーや遊戯療法による人格変化についても学ぶ。	リンカーンは「40歳を過ぎたら, 自分の顔に責任を持たなくてはならない」といいましたが, 人格も生涯発達することが可能です。自らの人格形成について考えてみましょう。
13	人格理解の方法 (教科書1)の第10章2・3, 第5章1B(1), 教科書2)の第4部第3章第2節)	質問紙法, 投影法, 作業検査法の人格検査及び人格検査の実施の際の留意点について学ぶ。心理検査, 面接法や観察法による心理査定について学ぶ。帰属や印象形成におけるバイアスが人格理解を歪めることについても学ぶ。	強迫神経症とヒステリーが連続したものかどうか論じられ, アイゼンクは, 人格検査により, とともに神経症的傾向が高いが, 前者は内向性が高く, 後者は外向性が高いことを示し, 連続したものでないことを明らかにしました。これにより, 心理検査の有用性が示されました。 心理検査にもさまざまな種類があり, その違いを理解して用いることが必要です。また, 検査者の態度によって心理検査の結果も変わってくるので, 実施の際に留意する必要があります。 帰属や印象形成におけるバイアスについて, 自分自身の経験を振り返って考えてみましょう。
14	人格の障害・病理 (教科書1)の第3章2E, 第11章1A(4)(1), 教科書2)の第4部第2章第1節, 第4部第3章第1節, 補足資料)	葛藤と欲求不満, 防衛機制について学ぶ。パーソナリティ障害について, 症状やタイプの違いについて学ぶ。	問題行動の背後にある葛藤や欲求不満について考えてみましょう。 病態水準(神経症, パーソナリティ障害, 精神病)ごとの自我状態(現実検討力, 自我境界, 防衛機制)について考えてみましょう。 パーソナリティ障害はパーソナリティの偏りを意味します。タイプごとに歴史上の人物や有名人を考えてみましょう。
15	人格と健康との関連 (教科書1)の第12章1B・C・コラム, 第3章ジェネリックポイント)	タイプAとタイプC, H因子とD因子, うつ病親和性性格, ハーディネスとレジリエンシーについて学ぶ。	人格とストレスが相まって健康に影響を及ぼすことが知られています。心疾患になりやすい人, 癌になりやすい人, うつ病になりやすい人, ストレスに強い人, ストレスに打ちひしがれても回復する人について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	<p>【説明型レポート】 災害時または対象喪失時にみられる無気力状態について、下記の観点から各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。</p> <ol style="list-style-type: none">① ミッシェルの状況論② 学習性無力感③ 自己理論④ 認知の歪み <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>
2 単位め	<p>【説明型レポート】 下記について各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。</p> <ol style="list-style-type: none">①ユングの類型論からみた次の人物（A～Cから一つの人物群を選択）について A 日本神話のアマテラスとスサノオ B 『ちびまる子ちゃん』のまる子とお姉ちゃん C 『となりのトトロ』のサツキとメイ②ビッグ・ファイブからみた①で選んだ人物について③自己実現的な人物について④タイプAとタイプCの人物について <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>
3 単位め	<p>力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。</p>
4 単位め	<p>人格諸理論の視点から自己分析を試みて、その感想とコメントを述べなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

人格の研究方法として、伝記・日誌法、フィールドワーク、実験法、自然観察法、面接法、観察法（客観的評価法）、尺度・質問紙法、投影法などがあります。人格について理解を深める際も、単に知識として学ぶだけでなく、人格の研究法を参考に実際の日常生活場面での人格にアプローチして考えていくことが望まれます。その際、他人の性格に対する私たちのとらえ方の癖や歪み（寛大化傾向、中心化傾向、近接誤差、対比誤差、年功誤差、ハロー効果、論理的誤謬、傾性帰属傾向など）についてよく知っておくことが大切です。テキスト1)の第5章の1のBの[1]の(1)帰属と(2)印象形成も参照してください。また、あいまいな状況では、評価者の善悪の価値・期待・願い・恐れ・不安なども無意識に投影されて理解されがちです。

テキスト1)の第3章の2では、人格のさまざまなとらえ方について述べてありますので、よく読んで、その背後にある人間観の違いについても考えてみてください。

レポートの作成にあたっては、テキストをよく読んで、その内容をよく理解してください。その際、①知識の理解、②具体的な場面での理解、③テキストの執筆者の見方や意図の理解、④家庭・仕事・教育・臨床などの場面での応用を心がけるとよいでしょう。また、知識の理解に際しても、心理学的な見方や考

え方に目を向け、理論や学説が生まれた経緯や背景も考えながら読み進めるとよいでしょう。さらに、テキストだけでなく、各自でいろいろ調べて深めてください（1単位め～3単位めの課題については、テキスト以外に少なくとも2冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください）。

※以下、このアドバイス欄であげたテキストの章立てで指示のないものは教科書1)のもので。

1単位め アドバイス

まず、対象喪失について調べてください（通常の悲嘆反応〔正常な悲嘆反応ともいわれる〕、複雑性悲嘆反応〔病的な悲嘆反応ともいわれる〕、悲嘆・悲哀の過程など）。その上で、①～④の観点から考えてみるとよいでしょう。また、援助についても調べ、①～④の観点から考えてみるとよいでしょう。

- ①テキストの第3章の2のC〔4〕（状況論と相互作用論）を参考に取り組んでください。ミッシェルが特性論に疑問を抱くようになった経緯や状況論がその後のパーソナリティ研究に与えた影響も調べるとよいでしょう（特に、戸田・サトウ・伊藤（2005）に詳しく紹介されています）。
- ②テキストの第3章の2のE〔2〕（不適応行動の学習）を参考に取り組んでください。学習性無力感とはセリグマン・Mによって発見された心理学的知見です。発見の経緯やその後の研究の知見、展開（ポジティブ心理学など）も調べるとよいでしょう。克服のための援助についても、調べてみてください。動機づけの側面、認知的側面、情動的側面、選択的側面について考えてみるとよいでしょう。その際、第3章の2のE〔3〕（社会的学習理論と自己効力感）や第3章の2のD〔5〕(1)（個人心理学）、第9章の3のC（動機づけの理論）も参考になります。なお、セリグマンの著書は日本でも翻訳されていますので、一読をお勧めします。
- ③テキストの第3章の2のF〔3〕（ロジャーズの自己理論）を参考に行動への影響、適応への影響について具体例をあげて取り組んでください。また、第4章の1のB〔2〕（青年期の発達課題）および第11章の1のD〔5〕（ナラティブ・セラピー）、小松・木村編（2009）＝テキスト2）の第3部第2章第3節（自我と自己）も参考になります。
- ④テキストの第3章の2のG〔3〕（認知の個人差）を参考に取り組んでください。代表的な認知の歪みについては、第11章の1のC〔2〕認知療法に詳しくのっていますので、参考にしてください。

なお、本課題は、温暖化にともなう災害の多発と東日本大震災をふまえてこれからの一助となればと思い、出題しております。

2単位め アドバイス

- ①テキストの第3章の2のB〔3〕（ユングの類型論）を参考に取り組んでください。3人の特徴をあげ、それをもとに類型を考えるとよいでしょう。また、お互いの関係や達成・挫折についてもユングの類型の観点から考察してみてください。なお、類型論から人物をとらえる作業を通して、類型論の利点・欠点についても確認してください。
- ②テキストの第3章の2のC〔3〕（ビッグ・ファイブ）を参考に取り組んでください。特性は誰でも持っており、その程度の違いによってとらえます。そこで、それぞれの特性が高い、中くらい、低いというような記述になります。3人の5因子の特性の程度を考え、表にし、それを裏付ける行動的な特徴をあげるとよいでしょう。また、特性論から人物をとらえる作業を通して、特性論の利点・欠点についても確認してください。

- ③テキストの第3章の2のF [2] (マズローの欲求階層説と自己実現論) およびジェネリックポイントの自己実現・自己超越を参考に取り組んでください。マズローは、最初は自己実現を果たしている人(自己実現的な人)について調べましたが、その後、自己実現的な人でなくても、至高経験をしていることに着目しました。また、晩年は、自己実現の上位にある自己超越を強調しました。マズローの研究の歩みについても調べてみるとよいでしょう。なお、小松・木村(2009) = テキスト2)の第3部第2章第4節(自己実現)も参考になります。
- ④テキストの第12章のコラムを参考に取り組んでください。タイプAとタイプCは健康と関連する人格として有名です。具体例をあげながら考えてみてください。なお、課題およびテキストにはありませんが、健康と関連する人格として、アイゼンクによる6つのタイプ(タイプ1はタイプCに、タイプ2はタイプAに相当)、うつ病になりやすい性格として、下田光三による執着気質やテレンバツハによるメランコリー親和型があります。

3単位め アドバイス

テキストの第3章の2のD(力動的構造からみる)と第11章の1のA(精神分析と分析心理学)あるいは第11章の1のE(交流分析)をよく読んで取り組んでください。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもあります。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などをとりあげて理解を試みてください。そして、テキストを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

4単位め アドバイス

人間の目は前について外を向いています。ある人は、このことから、自分を振り返り、自分の内に目を向ける人は少ないといえます。また、ソクラテスは「汝自身を知れ」といって、己の無知さをまず知ることを説きました。他方、インドには、ソクラテスを訪ねた修行者が「あなたの哲学は何か」と問うたところ、ソクラテスは「自分自身を知ること」と答えたので、その修行者は「人間の本質を知らずして自分自身を知るなんて不可能」と思い、早々に帰ってきたという話が伝わっているそうです。それほど自分自身を知ることが難しいものです。

自分自身を知ることが難しい理由を心理学的にみた場合に、防衛機制と自我関与の働きがあります(加藤, 2001)。自己分析に際して、防衛機制が働くと、知的に理解することで無意識に自分の感情に直面することを避けたり、〇〇だから仕方がないとあきらめたりするようになります。また、自我関与が働くと、自分のことだけを考えて、相手がどんな気持ちでいるかをなかなか考えられなくなったり、考えても自分の都合のいいように考えてしまったりします。そうすると、自分の感情(葛藤する感情や隠れた動機など)を見つめること、相手の気持ちに目を向け、相手の気持ちにそって考えることで自己分析の幅も広がるでしょう。

自己分析を行う際には、まずテーマをしぼります。最近イヤなこと、恥ずかしかったこと、癢に障ったこと、ガックリきたこと、あわてたことなどを思い出し、焦点をしぼって、そのときの自分の気持ちや動機について分析を行います(加藤, 2001)。また、相手や周囲がどんな気持ちでいたか、自分の言動によってどんな気持ちになったかを考えます。

次に人格諸理論の視点から自己分析を行います。テキストの第3章だけでなく、第11章も読むと役立つ

と思います。以下に要点を述べますので、参考にしてください。

- (1) 類型論：自分の類型について知るとともに、相手の類型の良さを生かせる状況作りを図ったかどうか、相手の類型の短所を補うように助けたかどうかを振り返ります。
- (2) 特性論：自分の特性や相手の特性の病理的特徴を一般的特徴に言いかえてみます（たとえば、「臆病な人」は「とても控えめな人」というと印象が変わる）。そして、その特性を認め、その特性を十分にさせる状況や新たな行動の付加を考えてみます（たとえば、立食パーティでは大いに控えめにしているので、周囲をよく観察してコップや料理の皿が空になっている人にはそっとビールをついだり料理を届けたりするなど）。
- (3) 力動的構造論：精神分析理論によれば、現実生活での外傷的体験やストレスを振り返るとともにそれ以前（主に子どもの頃）に性的（愛情・依存）欲求や攻撃欲求などで葛藤し、抑圧してこなかったかどうかを振り返り、抑圧してきた欲求を社会的に認められる形で満たす方法を考えます。ユング心理学によれば、症状や問題行動を無意識の補償作用や個性化の過程としてとらえ直し、生き方を変えていきます。個人心理学によれば、問題行動を通して自分は本当には何を望んでいるのか（行動の目的）を振り返り、問題行動以外で目的を達するやり方を考えます。交流分析理論（p. 40, p. 186~189）によれば、自我状態をとらえ、高い自我状態での行動に偏っていないかどうかを振り返り、低い自我状態を高めるようにします。また、自分が繰り返しやすいゲームのパターンや人生脚本に気づき、ゲームからの脱却や再決断を行います。
- (4) 学習理論：自分の問題行動について先行する手がかり刺激や強化について振り返ります。そして、段階的に目標行動に向かうことや目標行動の誘導の工夫（マークをつける、自己会話（「落ち着け」など）をするなど）、社会的スキルの訓練、役割遂行や自己選択による自己効力感の向上、セルフ・モニタリング（自ら毎日測定記録をつける）などを図ります。
- (5) 人間性心理学：自己概念を振り返り、経験していること（自分の感情や欲求など）に目を向けるようにします。
- (6) 認知論：認知スタイルや認知の歪みについて振り返り、別の考え方や取り組みを図ります。

なお、第3章のジェネリックポイントの人生の意味の探究や自分についての物語、第11章の1のDの[3]のソリューション・トークも、新たな視点や問題行動と偽解決の悪循環パターンから抜け出すヒントを与えてくれるので、参照してください。

レポートでは、複数的人格理論の視点を取りあげて考察してください。

■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントになる。また、キーワードの記載、記述の分量（1問あたり400~1,200字程度）も評価の対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」を身につけてほしい。

■参考図書

加藤孝義著『パーソナリティ心理学——自分を知る・他者を知る』新曜社、2001年

河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館、1967年（※ユングの類型論について詳しい）

前田重治著『図説 臨床精神分析学』誠信書房、1985年

諸富祥彦著『カール・ロジャーズ入門——自分が“自分”になるということ』コスモスライブラリー、1997年

諸富祥彦『自己成長の心理学——人間性/トランスパーソナル心理学入門』コスモスライブラリー、2009年

A. H. マズロー著 小口忠彦訳『人間性の心理学——モチベーションとパーソナリティ』（改訂新版）産能大出版部、1987年

A. H. マズロー著 上田吉一訳『完全なる人間——魂のめざすもの』（第2版）誠信書房、1998年

本明寛他編『性格心理学新講座』全6巻、金子書房、1989～1990年（「性格の理論」「性格形成」「適応と不適応」「性格の理解」「カウンセリングと心理治療」「ケース研究」）

大淵憲一・堀毛一也著『パーソナリティと対人行動』誠信書房、1996年

小川捷之・詫摩武俊・三好暁光編『パーソナリティ』（臨床心理学大系第2巻）金子書房、1990年（※自我・自己、人格の障害について詳しい）

小野直広編『生徒指導』（新教育心理学体系3）中央法規出版、1993年
（※人格の理解の方法について詳しい）

M. セリグマン著 山村宜子訳『オプティミストはなぜ成功するか』講談社、1994年

島井哲志編『健康心理学』（現代心理学シリーズ15）培風館、1997年

清水弘司著『はじめてふれる性格心理学』（ライブラリ心の世界を学ぶ3）サイエンス社、1998年

杉山憲司・堀毛一也編『性格研究の技法』福村出版、1999年

瀧本孝雄著『性格のタイプ——自己と他者を知るための11のタイプ論』サイエンス社、2000年

詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版、1988年

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊編『性格心理学への招待（改訂版）——自分を知り他者を理解するために』サイエンス社、2003年

詫摩武俊・鈴木乙史・清水弘司・松井豊編『人間と性格』シリーズ全8巻、ブレン出版、1999～2001年（「性格の理論」「性格の発達」「性格と対人関係」「性格の変容と文化」「性格研究の拡がり」「性格の測定と評価」「性格の不適応」「性格の病理」）

丹野義彦著『性格の心理——ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』サイエンス社、2003年

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子著『グラフィック性格心理学』サイエンス社、2005年

心理アセスメント

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	1年以上



科目コード **FF2519** 担当教員 **渡部 純夫**

※この科目の仙台会場スクーリングは隔年開講予定です。2017年度の開講後は、2019年度開講予定です。
※オンデマンド・スクーリングは2017・2018年度開講予定です。

■科目の内容

悩みを抱えているクライアントに心理的援助を行おうとするとき、クライアントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライアントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライアントへの接近を試みることになります。そのとき大事なことは、クライアントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うことになります。

■到達目標

- 1) 心理面における正常・異常の違いについて説明できる。
- 2) 心理アセスメントの3本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。

■教科書

日本健康心理学会編『健康心理アセスメント概論』実務教育出版、2002年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	アセスメントの意義と役割 (第1章)	健康心理アセスメントとは、アセスメントの意義と役割 キーワード：情報性、弁別性、刺激性・治療性、科学性・客観性 など	アセスメントのもっとも重要なポイントとアセスメントとは何かを理解する。その上で、4つの意義と役割について学ぶ。
2	アセスメントのターゲット① (第2章)	健康心理学の目標と活動分野・活動領域とアセスメント キーワード：健康科学、心理学、生物心理社会的視点、生涯発達心理学的視点	アセスメントを行うための視点について、領域ごとに必要な条件を理解し、深く洞察する。
3	アセスメントのターゲット② (第2章)	医療・職場場面におけるアセスメントターゲットの概略、女性の健康心理学 キーワード：医療、職場、女性	実際の場面におけるアセスメントの事例を踏まえ、社会生活における他の場面への応用についても考えてみる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	アセスメントの方法 (第3章)	面接法, 観察法, 質問紙法, 検査法, 心理生理学的測定, 調査 キーワード: 構造化面接, 行動観察, 知能検査・適性検査, 人格検査	アセスメントの方法で重要な「面接法」「観察法」「検査法」等について理解する。
5	アセスメント法の必要条件 (第4章)	信頼性, 妥当性, 基準(標準化), 実用性(費用対効果) キーワード: 内容的妥当性, 構成概念妥当性	アセスメントを行うにあたって「信頼性」「妥当性」の必要な条件を理解し, 深く洞察する。
6	アセスメントの留意点 (第5章)	心理アセスメントの展開と健康心理学, 選択およびバッテリー構成上の留意点, 実施上の留意点, 採点上の留意点, 解釈・評価・診断上の留意点 キーワード: 生活習慣の健康, 一般性など	「アセスメント」を行うにあたって, 実際的な留意点について深く理解する。
7	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用① (第6章)	パーソナリティ, 健康度・健康観 キーワード: 直接的アセスメント, 間接的アセスメント など	「アセスメント」において, 人間の全体性を意味する「パーソナリティ」とのつながりについて深く理解する。
8	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用② (第6章)	QOL, タイプA キーワード: QOL, タイプA行動パターン, 虚血性心疾患	「生活の質」や「人生の質」について, 「アセスメント」をどのように活用するか学び, 日本人の性格特性である「タイプA」との関係も考える。
9	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用① (第7章)	ストレッサー, ストレスコーピング, バーンアウト キーワード: セリエ, ラザルス, ストレッサーなど	「ストレス」に伴う関連要素について, その意味や使い方について考える。
10	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用② (第7章)	不安・怒り・神経症傾向, 気分(抑うつ, など) 「痛み」の測定 キーワード: 神経症, 気分障害, 痛み	「ストレス」と連動して問題化する, 「不安や怒り」「抑うつ」「痛み」などについて理解する。
11	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用① (第8章)	ライフスタイル, 食行動 キーワード: 生活習慣, 食行動	人間の「ライフスタイル」や「食行動」をどのようにアセスメントするか考える。
12	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用② (第8章)	リスク行動 キーワード: リスク要因, リスク行動	日常生活を営むにあたって「リスク」をどのように考え, どうかかわるかについて, 「アセスメント」するための方法について考える。
13	「社会関係」のアセスメントの種類と活用① (第9章)	ソーシャル・サポート, 人間関係 キーワード: ソーシャル・サポート, 介入, 愛情	「ストレス」軽減のために有効である, 「ソーシャル・サポート」「人間関係」の「アセスメント」について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	「社会関係」のアセスメントの種類と活用② (第9章)	社会的スキル キーワード：不適合, 社会性, 自我	「社会適応」するためのスキルをどのように見つけることができるかについて「アセスメント」のあり方について学ぶ。
15	アセスメントにおける倫理的諸問題(第10章)	問題と課題 キーワード：倫理違反, 問題点	「アセスメント」を行うにあたって、「倫理的配慮」が必要になる。「アセスメント」と「倫理」の関係について深く学ぶ。

■レポート課題

1 単位め	クライアントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」をどのように活用していけばよいのか考察しなさい。
2 単位め	パーソナリティの定義を文献と自分の考えから考察し、さらにアセスメントを行うための心理テストを一つ取り上げて、調べたことをまとめなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

クライアントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の3つの方法について学習を深めていき、総合的なクライアント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント（＝検査法）も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせさせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライアントのパーソナリティの問題をあげることができます。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることで、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

1 単位め アドバイス

- (1) テキスト『健康心理アセスメント概論』の第1章・第2章・第3章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性和意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができたら、アセスメントの方法に進んでください。
- (2) アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を

深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせて学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。

- (3) それらを、実際の場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

2単位め アドバイス

(1) テキスト『健康心理アセスメント概論』の第5章から第10章までをよく読んで、パーソナリティのアセスメントに関係する事柄について広く学んでください。倫理の問題についても考えを深めてください。

- (2) 次に、第6章を中心にパーソナリティとは何なのかを自分なりに考えてみてください。いろいろな文献にあたり、いくつかの理論・考え方を比較しながらまとめてください。そのとき自分の考えを必ず入れてください。

- (3) 最後に、パーソナリティをみるための心理テストを一つ選んで、それについて文献にあたり調べたことを自分なりに整理しまとめてください。まとめていて湧いてきた感想や疑問についても書いてみてください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

- 1) アセスメントの意義を体系的に理解しているか。
- 2) 心理テストの内容を学習しているか。
- 3) アセスメントの応用ができるか。
- 4) 現代社会の心理的問題の背景に対し自分の考えを持っているか。
- 5) 対象としてのクライアントが見えているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 鈴木睦夫著『TATの世界』誠信書房、1997年
鈴木睦夫著『TATパーソナリティ』誠信書房、2000年
成瀬悟策著『動作療法』誠信書房、2000年
村瀬嘉代子著『心理療法のかんどころ』金剛出版、1998年
片口安史著『改訂 新・心理診断法』金子書房、1987年
河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店、1992年
岡堂哲雄著『心理テスト』講談社現代新書、1994年
藤掛明著『描画テスト・描画療法入門』金剛出版、1999年

岡堂哲雄編集『心理査定プラクティス』（現代のエスプリ別冊）至文堂，1998年

C・コッホ著『バウム・テスト』日本文化科学社，1970年

野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房，1995年

下山晴彦・松澤広和編『実践心理アセスメント』日本評論社，2008年

村上宣寛・村上千恵子著『臨床心理アセスメントハンドブック [改訂版]』北大路書房，2008年



ライフサイクルと福祉心理学			単位数	履修方法	配当年次
			1	S	1年以上
科目コード	FF2522	担当教員	渡部 純夫		

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。今年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。
 ※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き方や家族のことを考えながら学んでいただきたいと思います。

■到達目標

- 1) エリクソン心理社会的発達 の 8 段階が正確に説明できる。
- 2) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。
- 3) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	家族における発達の視点からの人格形成を理解する	エリクソンの心理社会的発達の8段階の特徴と意味について発達プロセスの時間軸をもとに学ぶ。
2	家族と福祉を結ぶもの	家族の中で起こる問題のメカニズムと、なぜ福祉的援助が必要かについて学ぶ。
3	親子関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	親子関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
4	夫婦関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	夫婦関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
5	兄弟姉妹関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	兄弟姉妹関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
6	乳幼児の問題と福祉心理学的アプローチ	虐待や児童の福祉について学ぶ
7	児童の問題と福祉心理学的アプローチ	いじめ・不登校などの問題について学ぶ。
8	思春期・青年期の問題と福祉心理学的アプローチ	自立と大人になることなどの問題について学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

重要な点は板書しますが、口頭にて説明を行っていきます。
自分で大事だと思われる点はノートにまとめてください。
可能であればロールプレイを入れます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（ノートのみ持込可）。試験では、特に到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書第3章、第4章、第5章、第10章を読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版

今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい

石隅利紀・藤生英行・田中輝美編『生涯発達の中のカウンセリングⅡ 子どもと学校を援助するカウンセリング』サイエンス社

小俣和義編著『こころのケアの基本』北樹出版

■スクーリング受講にあたっての留意事項

事前に「福祉心理学」のスクーリングを受講するか、またはレポートを提出してから受講されることをお奨めします。

臨床心理学	単位数	履修方法	配当年次
	4	R or SR	2年以上
科目コード	FF3503	担当教員	清水めぐみ



※会場によりスクーリングを別教員（横山知行先生・小山智子先生）が担当いたします。

■科目の内容

臨床心理学（clinical psychology）の「臨床」は、ギリシャ語の「寝台」（クリネー）から生じた語といわれています。僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手をさしのべ、魂の世話をしたことに臨床の起源があるのです。現代では、魂の世話（卑近なことばでいえば心のケア）が必要なのは、死を目前にしている人たちだけではありません。だれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときにその人が自分らしい道を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。

心理学的な援助を提供するためには、まず相手について理解しようとするのが不可欠です。そして人をわかろうとするということは、自分の心を通じて行われるので、まず、自分をわかろうとすることが大前提になります。

また、援助は、援助を提供する側からの一方通行では成り立ちません。援助を提供する側と援助を受ける側がお互いに参加する関係があって援助は成り立ちます。臨床心理学では、相互性や関係性についても学んでいきます。

■到達目標

- 1) 臨床心理学の目的と方法論について、説明することができる。
- 2) 自分の心の動きについて、臨床心理学の理論を用いて記述することができる。
- 3) 心理アセスメントの概要を把握し、心理臨床活動における位置づけを説明できる。
- 4) 臨床心理学的援助における職業倫理について説明できる。

■教科書

杉江 征・青木佐奈枝編 『スタンダード 臨床心理学』サイエンス社、2015年
 （最近の教科書変更時期）2017年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	臨床心理学とは (第1章 1・1、 1・2)	臨床心理学とは何であるのか。成り立ちと展開から概観し、理解する。	臨床心理学とはどのような学問であるのかを理解する。
2	臨床心理学の研究法 (第1章 1・3、 1・4)	臨床心理学の研究法・方法論と臨床心理学に包含される心理学について知り、理解する。	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。
3	臨床心理アセスメント (第2章)	臨床心理アセスメントの方法と視点を概観し、理解する。	臨床心理アセスメントとはどのような営為であるのかを理解する。
4	心理検査法 (第3章)	臨床心理アセスメントのうち特に心理検査法について概観し、その使用に際しての留意点も含めて理解する。	心理検査法の成り立ち、種類、使用に際しての注意点を把握する。
5	精神分析・力動論 (フロイト) (第4章)	力動的な観点から心を理解するための概念について概観し、理解する。	フロイトに先んじる思想、フロイトの理論、フロイト後の展開を把握する。
6	行動論・認知論 (第5章)	いわゆる心理学的な理論から展開した、行動の変容のための理論と方法を概観し、理解する。	学習理論から認知療法への展開を理解し、さまざまな方法の背景にある理論を把握する。
7	人間性心理療法・ 来談者中心療法 (第6章)	来談者中心療法の成り立ちとその人間観と理論を概観し、その後の展開も含めて理解する。	来談者中心療法について知り、その方法を学ぶ。
8	催眠とそこから生まれた療法 (第7章)	心理療法の源流としての催眠について概観し、催眠から発展した方法を知り、理解する。	催眠の歴史と展開について、歴史的な視点から学ぶ。
9	多様な心理療法 (第8章)	第5回から第8回までで触れられなかった心理療法のいくつかについて学び、理解する。	対人関係をキーワードとして、多様な心理療法について知る。
10	教育・子育て領域における心理支援 (第9章)	教育・子育ての領域における心理支援について、その領域の特徴を踏まえた方法を知り、理解する。	心理支援における周辺環境との関わりの方角を持ち、支援の特徴を知る。
11	医療領域における心理支援 (第10章)	医療領域における心理支援の実際について知り、その活動内容を概観し理解する。	チームにおける専門家としての位置づけと技能、チームワークについて知る。
12	産業・司法領域における心理支援 (第11章)	産業領域、司法領域それぞれの心理支援の実際について知り、この領域における臨床心理学の役割について理解する。	他職種との連携における心理支援の課題について考え、心理支援活動の倫理について理解する。
13	臨床心理領域の知識と活用 (第12章)	臨床心理学に関連する学際領域のいくつかを知る。特に、倫理について考え、理解する。	臨床心理学に関わる法律のいくつかの事項を知り、特に倫理面について把握する。
14	まとめ① 臨床心理学とライフサイクル	臨床心理アセスメントと心理療法のつながりを知り、理解する。	臨床心理アセスメントと心理療法の基盤をなす人間理解の理論とのつながりを理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	まとめ② 心理臨床の実践領域	各実践領域に共通する課題と問題点を挙げ、心理臨床における留意点を理解する。	実際の心理支援における姿勢を理解する。

■レポート課題

1 単位め	「臨床心理学」とは何であるかについて、「臨床」の意味について説明し、臨床心理学に寄与した2つの大きな流れを踏まえて歴史を概観して、述べよ。加えて、臨床心理学の研究法のうち事例研究とは何であるのかを説明せよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
2 単位め	フロイトによる第一局所論について「無意識」「意識」の二語を含めて、第二局所論（構造論）について「自我」「超自我」「エス」の三語を含めて説明し、それぞれの身近な例について、自分の体験を踏まえて記述せよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
3 単位め	医療領域におけるアセスメントについて、「アセスメント」の意味を述べたうえで、アセスメントの3つの主な方法を挙げ、それぞれについて説明せよ。また、心理検査が使われる状況をひとつ想定し、その際に使用する心理検査をその特徴を踏まえて選択し、それを選択した理由を述べよ。
4 単位め	臨床心理学に関連する職業倫理のうち「秘密を守る」ことの意義と「秘密を守る」ことの限界および留意点について述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が一部変更になりました。『レポート課題集 2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

まず、テキストを通読してください。その上で、テキスト以外に臨床心理学を概観している文献や課題に関連する文献の複数にあたりながら、課題に取り組むようにしましょう。テキストだけでは、いずれの課題にも取り組むことができません。

また、レポート作成にあたっては、形式が重視されます。日本語の文章を書く上で必要な、原稿用紙の使い方や段落の作成などが不適切である場合には、内容が適切であっても評価されません。特に、文献やウェブサイトからの引用については、出典を明示して剽窃・盗用を避けてください。『学習の手引き』などで示されている引用の方法、文献の挙げ方の形式が整っていない場合には、内容は優れていても再提出となります。十分に注意を払ってレポートを作成してください。

1 単位め アドバイス

臨床心理学の歴史を踏まえて、学問の全体像をつかみましょう。「臨床」とはどのような意味を持ち、臨床心理学はどのような特色を持っているのかをまとめましょう。その際には、2つの大きな流れを踏まえてまとめることで整理しやすくなるでしょう。また、事例研究とは何であるのか、その特徴を理解して記述しましょう。

2単位め アドバイス

精神分析・力動論を概観し、こころのなかの場所ともいえる「無意識」と「意識」という考え方と、こころのなかのある役割を担う部分としての「自我」「超自我」「エス」について、把握し、日常の身近なできごとからこれらの動きを仮定できる例を挙げ、説明しましょう。

3単位め アドバイス

医療領域における心理支援の実際のうち、特にアセスメントを中心にその意義と流れを把握しましょう。また、臨床心理アセスメントの流れを理解し、各心理検査の特徴を踏まえて、目的に合う心理検査の選択をします。

4単位め アドバイス

職業倫理の7原則を踏まえ、その中の「秘密を守る」ことについて、当然のことであり意義深いことである反面、危険が伴うことを理解し、「秘密を守る」ことの限界とよりよい実践のために留意しておく点をまとめましょう。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。具体的には、試験で解答を求められている点について、教科書で学んだ内容のうち該当する事項を中心に、教科書に記載されている学術用語を適宜用いて論述できているかという観点から評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■参考文献

- 伊藤良子編著『臨床心理学——全体的存在として人間を理解する』ミネルヴァ書房、2009年
鈴木 晶『図解雑学 フロイトの精神分析』ナツメ社、2009年
山中康裕編著『心理学対決！フロイトvsユング』ナツメ社、2010年
沼 初枝『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2010年
森谷寛之『臨床心理学 心の理解と援助のために』サイエンス社、2005年

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「臨床心理学」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「福祉心理学」「心理学概論」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからの受講をお奨めいたします。そのため、4月新生が入学後すぐの5月のスクーリングを受講することはご遠慮ください。

心理療法	単位数	履修方法	配当年次
	4	R or SR	2年以上
科目コード	FF3520	担当教員	秋田 恭子



■科目の内容

心理療法は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域ではありますが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。

人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のまとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。

そこでここでは、心理療法の基本的枠組みと各種心理療法の特徴等を学習することを目的とします。

■到達目標

- 1) 様々な心理療法をそれを創始した人物の名前、その背景となる理論と共に述べるができること。
- 2) 各心理療法についての特徴について述べるができること。
- 3) 各心理療法についての具体的なやり方について述べるができること。

■教科書

水島恵一・岡堂哲雄・田畑治編著『カウンセリングを学ぶ（新版）』有斐閣、1987年

※この教科書は名著ですが、発行から年数がたっているため、たとえばp.59～「大学での養成の問題点」についての記述は、臨床心理士をはじめとした課程ができている現在にはあてはまりません。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリングの現代的・人間的課題 なぜカウンセリングが求められるのか (第1章)	カウンセリングとはどういうものか、なぜ人はカウンセリングを求めるとのかについての基本的な知識を歴史を踏まえながら学ぶ。	これから学ぶカウンセリングの概要を身につける。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	カウンセリングの理論的視点 (第2章)	力動的立場、ロジャースを代表とする人間性心理学の立場と学習理論の3つの立場の違いを学ぶ。	人間の心をどうとらえるか、症状についてどう理解するかによってカウンセリングのアプローチ方法が異なるのでそれぞれの理論的視点を理解する。
3	クライアント カウンセリングを求める人 (第3章)	カウンセリングを求めてくるクライアントとはどのような状況にあるかについて学ぶ。	クライアントが置かれている発達上、状況的な危機について一般的なことを理解するとクライアントの抱えている問題を理解しやすくなる。
4	カウンセラー カウンセリングを受け持つ人 (第4章)	カウンセラーの基本的な資質、研修方法について学ぶ。	カウンセラーに求められるものはなにか、さらによりよいカウンセラーになるにはどのような研修が求められるのかを理解する。
5	クライアント中心のカウンセリング (第5章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここではロジャースの創始したクライアント中心療法について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
6	分析的カウンセリング (第6章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここではフロイトの創始した精神分析療法について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
7	行動カウンセリング (第7章)	第2章で学んだ理論をどう実践するかを学ぶ。ここでは、行動分析について学ぶ。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
8	グループ・アプローチ (第8章)	個人に対するカウンセリングのほかに、グループに対してカウンセリングを行うこともある。	理論がどのような方法で実践に結びつくのかについて具体的な事例を基に理解する。
9	クライシス・インターベンション (第9章)	クライシス・インターベンションの概念を学ぶ。	クライシス・インターベンションの歴史とその基本的な考え方と方法について理解する。
10	交流分析 (第10章)	交流分析について学ぶ。	交流分析の基本的な考え方およびその方法について理解する。
11	家庭生活とカウンセリング (第11章)	家族の危機、夫婦の危機について理解し、夫婦カウンセリング、家族療法について学ぶ。	個人療法のほかに、夫婦や家族単位でカウンセリングを受けることもあるがその方法について理解する。
12	学園生活とカウンセリング (第12章)	幼稚園、小学校、中学校、高校、大学とその年代ごとにある悩みについて学ぶ。	それぞれの年代の悩みを学んだうえでどのようなカウンセリングの進め方がよいのか理解する。また具体的にどんな相談機関があるのか理解する。
13	職業生活とカウンセリング (第13章)	職場での悩みについて学ぶ。	企業内カウンセリングについて具体的な事例を基に理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	病気とカウンセリング (第14章)	肉体的な病気を持ったクライアントとのカウンセリングについて学ぶ。	肉体的な病気を抱えている人に対してどのようなカウンセリングが適切かについてビネットを通して理解する。
15	カウンセリングをより深く理解するために	上記までの章では取り上げられなかったがカウンセリングに必要な知識を学ぶ。	遊戯療法、心理劇、芸術療法、ゲシュタルト療法、内観法、森田療法、ソーシャルワークなどの心理療法に加えて、異常心理学についての基本的なことについて理解する。

■レポート課題

1 単位め	<p>第1章より第4章まで——次の4つの課題から1つを選び、レポートしなさい。その場合、どの課題を選んだのか、課題欄に明示しなさい。</p> <p>(1) フロイト、アドラー、ユングの3人が理論化した「心の構造」の共通点と相違点について論述しなさい。</p> <p>(2) クライアント中心療法とジェンドリンの体験過程の共通点と相違点について論述しなさい。</p> <p>(3) エリクソンは、フロイトの発達理論をどのように修正し、自分の発達理論を発展させていったのか、論述しなさい。</p> <p>(4) クライアントと呼ばれる人とはどのような人なのか、またカウンセラーに求められていることについて論述しなさい。</p>
2 単位め	<p>第5章より第7章まで——フロイトによる精神分析と行動分析カウンセリング（行動療法）とクライアント中心療法の中から1つ選んでください。あなたが選んだ療法について明記した上で以下のことを必ず盛り込んでまとめてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> その心理療法が確立された背景 その心理療法を創始した人 その心理療法の心や症状の捉え方などその心理療法の特徴 その心理療法の方法、特にカウンセラー（あるいはセラピスト）のあり方 現在、その心理療法はどのように発展し、どのような症状や場面などで主につかわれているのか あなたのその心理療法についての見解
3 単位め	<p>第8章より第10章まで——次の2つの課題から1つを選び、レポートしなさい。その場合、どの課題を選んだか、課題欄に明示しなさい。</p> <p>(1) 第8章のグループアプローチの事例を「グループ体験が個人にどのような影響を与えるか」について、クライアント中心療法を発展させたエンカウンター・グループの視点から論述しなさい。</p> <p>(2) クライシス・インターベンションとPTSD（外傷後ストレス障害）の関連を論述しなさい。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>

第11章より第14章まで——次の文章は、ある事例の要約です。この文章を読み、下記の課題をレポートしなさい。

(※レポート用紙の課題記載欄は、下2行の課題の記載のみでよい。)

ある両親が、中2の子どもの不登校のことで来談された。家族は、祖父母、両親、長女、長男、次女、次男(本人)である。父親は、一流企業の役員をしているが、祖父に頭が上がらず、家計は祖父母が管理している。そのためか、嫁姑の関係は悪い。本人は、末っ子のこともあり、家族から溺愛されて育ってきた。不登校になるまでひとりで留守番することができなかった。また、2階の自分の部屋にひとりで行かれなかったので、家族の誰かがその都度ついて行った。祖父母も両親も社会的地位や名誉には敏感で、上の兄弟は一流の学校を卒業し、一流の企業に就職をしている。本人は、小学校の時も不登校気味であったが、家庭教師をつけたこともあり、一流の中学校に入学したが、不登校に陥った。現在の本人は、テレビゲームを中心に昼夜逆転した生活をしており、家族とのかかわりを回避している。時々気に入らないことがあると両親に暴力を振るい始めているが、風呂にも入らず、無気力な生活を送っている。祖父母は、こうなったのも両親の育て方が悪いからだと言っているが、夫婦でそのことについての話し合いはない。他の兄弟も本人のことに触れないようにしている。祖父母と両親の共通点は、本人が今の中学校を卒業して、有名高校に入学することを願っていることだ。

課題 発達のカウンセリングの視点も考慮に入れて、どのようにファミリー・カウンセリングをおこなっていったらよいか、論述しなさい。

4 単位め

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ここで使用している教科書は、「心理療法」を初めて学ぶ人を前提に選択しました。本書では、代表的な心理療法を取り扱っていますが、各心理療法を創始した創始者の生育歴や時代背景をとりあげ、読む側にとっては、それぞれの心理療法の形成過程と特徴について理解を深めることを容易にしています。教科書は、レポートを書く前提としての基礎的知識を習得する本として位置づけています。入門的で平易な文章ではありますが、それぞれの文章には深い意味が込められています。この点を学んでもらいたくレポート課題を課しています。したがって、教科書のみでは、各レポート課題をまとめていく点が多々あります。教科書の基礎的知識をもとに各レポート課題の中から興味ある課題を選択し、下記にとりあげた参考書等を読み砕き、レポートを作成してください。また、心理療法に興味をもったなら各参考書に載っている本・文献や各自が見つけた本等を読み進めてください。

引用・参考文献が、テキストだけのものは、必ず再提出にしています。テキスト以外に利用した本を最低1冊以上はあげてください。

なお、レポートは、教科書、参考書、インターネット情報等の「抜粋」や「切り張り」や「内容の要約」、「あらすじの説明」ではなく、教科書と参考書等を熟読し、それを学習者自身の創意にもとづいて理論的に組み立て、作成してください。また、心理療法という科目の性質上、個人的体験談等を書きたくありません。あくまでも心理療法という学問についてレポートをしてください。

1単位め アドバイス

(1) フロイト、アドラー、ユングの3人は、それぞれの独自の心理療法を創始しました。心理療法の目的は、クライアントの人格の変容です。そこでまずそれぞれの心理療法は、人格（心の構造）をどうとらえているのかを理解する必要があります。独自の心理療法の理論と技法を創始した3人は、人格をどのようにとらえているのかを理解した上で、3人の「共通点」と「相違点」を中心にレポートしてください。

なお、それぞれの理論を中心にレポートを作成すると課題である「共通点と相違点」が、書ききれなく恐れがあります。3人の理論を理解した上で、「共通点と相違点」を中心にレポートしてください。

(2) ロジャースは、クライアント中心療法を創始しました。ロジャースの弟子であるジェンドリンは、クライアント中心療法を基礎にフォーカシング（体験過程）技法を創始しました。この2人のカウンセリングの「共通点」と「相違点」を中心にレポートを作成してください。

なお、クライアント中心療法と体験過程の説明を中心としたレポートは、2人の「共通点と相違点」の課題が希薄になります。2人の理論を理解した上で、両者の「共通点と相違点」を中心にレポートを作成してください。

(3) 精神分析を創始したフロイトは、独自の発達理論を構築しました。まず、精神分析の発達理論の理解が必要です。その発達理論をもとにしながらエリクソンは、フロイトの発達理論をどの点を批判し、どのように修正を加え、そして独自の発達理論を構築していったかを中心にまとめてください。

フロイトとエリクソンのそれぞれの発達理論の記述がレポート課題ではなく、エリクソンがフロイトの発達理論をどのような点を批判し、それをどのように修正をして、彼独自の発達理論を構築したかがレポート課題です。

(4) クライアントと呼ばれる人は、どのような精神・身体の症状や問題行動等に悩み、苦しんでいるのか、を理解する必要があります。そのためには、発達の危機と精神医学的診断名の理解が必要です。また、このようなクライアントにカウンセリングをおこなうカウンセラーは、どのような資質や条件が求められるのか（または、どのような人は不向きなのかも含めて）、またどのような責任性や倫理性等が求められているのか、どのような研修方法がもてられているのか、をレポートしてください。

クライアントとカウンセラーの記述は、同等の分量でまとめてください。

2単位め アドバイス

フロイトによる精神分析、クライアント中心療法、行動分析カウンセリング（行動療法）は、代表的な心理療法です。

現在たくさんある心理療法はこの3つの心理療法から発展していきましたので、これらの心理療法を深く知ることは心理療法を理解する上で大切です。1から6の項目を必ずいれて論述してください。項目ごとの記述ではなく、6項目に必ず触れてください。1つでも欠けた場合には再提出とします。

3単位め アドバイス

(1) グループ体験が個人の成長にどのように影響を与えるか、クライアント中心療法を基礎としたエンカウンター・グループの視点から、グループ体験を考察してください。そのためには、クライアント中心療法の理解も必要となるし、エンカウンター・グループの特徴の理解も必要となります。「個人の成長」に「エンカウンター・グループ体験」が相互にどのように影響を

及ぼしているかという視点を取り入れてレポートしてください。

(2) 日本では、阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件等からPTSD（外傷後ストレス障害）が注目されるようになりました。心理療法の学問領域は、これらの事件・事故の被害者への危機介入（こころのケア）が求められています。そのためには、まずPTSDの心理的特徴の理解が必要です。そして、そのような心理状態の人にどのように危機介入したらよいのか、留意点も含めて考察してください。

「クライシス・インターベンション」と「PTSD」のそれぞれの一般的説明ではなく、両者を「関連性」を中心にレポートしてください。

4単位め アドバイス

ひとつの事例を今まで学習してきた心理療法の知識をもとに考察してもらう課題です。

「発達のカウンセリング」についてですが、この事例は、中学2年の男子です。中学2年という年代は一般的には、どんな年代でしょうか？ 心の状態、親との問題、人との関係など、子どもから大人になる時期です。このことは、すでに様々な研究者が指摘しているので、それを参考にして、具体的な研究者の理論をあげながら（理論をくわしく紹介する必要はない）、まずはその年代の発達の特徴を捉えてください。その上で、その特徴と比較して、この事例の中学生はどうでしょうか？ 例えば、「ひとりで留守番できない」「ひとりでは自分の部屋に行けない」など他にもこの中学生の状況について書かれた部分がありますが、そのことと一般の中学生の状態と比較してこの事例の中学生はどんな成長を遂げており、あるいは遂げていないのでしょうか？ その視点を織り交ぜてこの事例を考察してください。これが、発達的カウンセリングの視点ということになります。

また、このような家族に心理的援助をしていく場合、ファミリー・カウンセリングの視点がカウンセラーに求められます。なお、ファミリー・カウンセリングは、その名称からただ「家族」に行うカウンセリングと理解しがちですが、今日では「家族療法」の名称が一般的です。家族療法にもいろいろな立場があります。その中で興味ある家族療法（ファミリー・カウンセリング）の視点から、この面接のあとの面接でこの家族にどのようにアプローチしていくか論述してください。なお、今回は両親が来談したが、この後の面接に関してはどの家族メンバーを面接に呼ぶかなども考察してみてください。

上記の2つの視点を織り交ぜて、この事例を考察してください。

なお、発達心理学の一般的説明とファミリー・カウンセリングの一般的説明で事例を考察するのは、事例に則した考察というより「一般的説明」の要約に陥ります。たとえばエリクソン理論の内容を細々と要約して紹介する必要はないので、あくまでこの事例に即して考えてください。

現段階で得られている情報をもとに、①中学2年の男の子の発達心理学の視点からのアセスメント、②この家族のかかえていると思われる問題、③ ①と②をふまえた上でこの家族に適切とおもわれる家族療法の選択を行い、その家族療法の具体的な技法をあげながら、どのようなアプローチが良いかを記述する、④そのアプローチを行う上での留意点や問題点を最後にまとめる、という流れで論じてください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントである。記述の分量が1問あたり、800字以上であることも評価の対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

[第1章から第4章]

- 1) E. H. エリクソン著 西平直・中島由恵訳『アイデンティティとライフサイクル』誠信書房, 2011年
- 2) 妙木浩之著『フロイト入門』ちくま新書, 2000年
- 3) 河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館, 1967年
- 4) 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房, 1970年
- 5) 河合隼雄著『コンプレックス』岩波書店, 1971年
- 6) 神田久男編 飽田典子・宇田川一夫ほか著『心理臨床の基礎と実践』樹村房, 1998年
- 7) 前田重治編『カウンセリング入門』有斐閣選書, 1986年
- 8) 鑪幹八郎著『アイデンティティの心理学』講談社, 1990年
- 9) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『カウンセリングと心理療法』(ロジャース主要著作①巻) 岩崎学術出版社, 2005年
- 10) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『ロジャースが語る自己実現の道』(ロジャース主要著作③巻) 岩崎学術出版社, 2005年
- 11) 村瀬孝雄著『フォーカシング事始め——こころとからだにきく方法』金子書房, 1996年
- 12) 村瀬孝雄・阿世賀浩一郎「体験過程とフォーカシング」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編著『臨床心理学大系8 心理療法2』金子書房, 1999年
- 13) 鑪幹八郎著『心理臨床と倫理・スーパーヴィジョン』ナカニシヤ書店, 2004年
- 14) 鈴木晶著『フロイトからユング』日本放送出版協会, 1999年

[第5章から第7章]

- 15) 氏原寛・成田義弘共編『臨床心理学①カウンセリングと精神療法』[心理治療] 培風館, 1999年
- 16) 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房, 1970年
- 17) 瀧本孝雄著『カウンセリングへの招待』サイエンス社, 2006年
- 18) 窪内節子・吉武光世共著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館, 2003年
- 19) 佐治守夫・飯喜一郎編『ロジャースクライアント中心療法』有斐閣, 1988年
- 20) 末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『クライアント中心療法』(ロジャース主要著作②巻) 岩崎学術出版社, 2005年
- 21) 上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編『臨床心理学大系7 心理療法1』金子書房, 1990年
- 22) 山上敏子著『方法としての行動療法入門』金剛出版, 2007年

23) 土居健郎著『新訂 方法としての面接』医学書院, 1992年

24) 妙木浩之著『初回面接入門』岩崎学術出版社, 2010年

[第8章から第10章]

25) こころのケアセンター編『災害とトラウマ』みすず書房, 1998年

26) 西澤哲著『子どものトラウマ』講談社, 2003年

27) 村山正治著「エンカウンター グループ」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治著『臨床心理学大系 8 心理療法 2』金子書房, 1999年

28) 島瀬稔著『エンカウンター グループと心理的成長』創元社, 1990年

29) ロジャース, C. R. 著 島瀬稔・島瀬直子訳『エンカウンター・グループ』創元社, 1982年

30) 近藤喬一・鈴木純一編著『集団精神療法ハンドブック』金剛出版, 2000年

31) ドナ・C. アギュララ著 小松源助・荒川義子翻訳『危機介入の理論と実際——医療・看護・福祉のために』川島書店, 1997年

[第11章から第14章]

32) 笠原嘉著『青年期』中央公論社, 1977年

33) 乾吉佑著『思春期・青年期の精神分析的アプローチ 出会いと心理臨床』遠見書房, 2009年

34) 鍋田恭孝編『思春期臨床の考え方・すすめ方』金剛出版, 2007年

35) 河合隼雄・岩井寛・福島章著『家族精神療法』金剛出版, 1984年

36) 団士郎著『不登校の解法 家族のシステムとは何か』文春新書, 2000年

37) 村山正治・山本和郎編『スクールカウンセラー——その理論と展望』ミネルヴァ書房, 1995年

38) 栗原和彦著『心理臨床家の個人開業』遠見書房, 2011年

39) 亀口憲治著『家族療法 (心理療法プリマーズ)』ミネルヴァ書房, 2006年

(サブテーマ)

40) 鈴木龍監訳『まんがサイコセラピーのお話』金剛出版, 2013年

41) 秋田恭子他訳『サポートィブ・サイコセラピー入門』岩崎学術出版社, 1997年

42) 河合隼雄著『箱庭療法入門』誠信書房, 1969年

43) 吉田弘道・伊藤研一著『遊戯療法——二つのアプローチ』福村出版, 2010年

44) 森谷寛之著『コラージュ療法実践の手引き その起源からアセスメントまで』金剛出版, 2012年

45) 岩井寛著『森田療法』講談社現代新書, 1986年

46) 三木善彦著『内観療法入門』創之社, 1976年

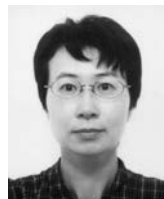
47) 吉田弘道著『心理相談と子育て支援に役立つ 親面接入門』福村出版, 2013年

48) 福本修監訳『フロイトを読む—年代順に紐解くフロイト著作』岩崎学術出版社, 2013年

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「心理療法」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「心理学概論」「人格心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「カウンセリングⅠ・Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」のなかから4科目程度以上学習を終えていない方は申込みをご遠慮ください(学習を終えているとは、たとえばSR履修ならば、スクーリング受講済+レポート提出済、R履修ならばレポート提出済+科目修了試験受験済にしておくことが望ましい)。

心理療法各論		単位数	履修方法	配当年次
		1	R	2年以上
科目コード	FF3521	担当教員	日笠真理子	



履修方法：R レポート提出後、科目修了試験の申込み・受験を忘れずに行ってください。

■科目の内容

カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当な数があり、それぞれに異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、知っている必要があります。一つの理論では、到底理解・対応しきれないのが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の背骨となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。

この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではくわしくとりあげられなかった「特性因子理論」、「認知行動療法」、「精神分析療法（交流分析、ゲシュタルト療法）」、「人間学的アプローチ」、「家族療法」、その他の療法を学んでいただこうと思います（精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます）。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。

■到達目標

- 1) 心理療法の主要な諸理論（特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法、その他の療法）について解説することができる。
- 2) 心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。
- 3) 産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べるができる。

■教科書（「カウンセリングⅠ」などと共通）

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）』日本産業カウンセラー協会、2013年 第5章「カウンセリングの諸理論」

※「カウンセリングⅠ」で配本のため、この科目での教科書配本はありませんが、専用レポートを配付します。

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングⅠ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

「心理療法」「臨床心理学」の単位修得後、学習することが望ましいものです。

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリング理論の歴史的な位置づけ (第5章 5-1)	カウンセリング理論の5系統と、その歴史的な位置づけについて理解する。	数多くあるカウンセリング理論は大きく5系統に分類されます。指示的なものから人間学的なものに順番に並べ、年代順に整理し、カウンセリング理論の全体像を理解しましょう。
2	特性因子理論—カウンセリングの夜明け (第5章 5-2)	カウンセリングの始まりが20世紀初頭の心理アセスメントを活用した職業指導運動であったことを理解する。	特性因子理論では、パーソナリティは人間の特徴を表すいくつかの特性と因子の組合せによって成り立っていると考えられています。心理検査により職業適性を調べ職業指導を行うという指示的な面接がカウンセリングの始まりでした。
3	認知行動療法① (第5章 5-3-1~5)	行動療法の基礎となっている2つの学習理論(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)と社会的学習理論について理解する。	行動療法では、学習理論を応用させた技法が用いられています。古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論を応用した技法とその具体例を考えてみましょう。
4	認知行動療法② (第5章 5-3-6~8)	論理療法と認知療法について理解する。これらが行動療法と理論統合し、認知行動療法へ発展したことを理解する。	論理療法や認知療法で、どのように「起きている事実の受け止め方」の歪みを修正するのか具体的に考えてみましょう。
5	交流分析・ゲシュタルト療法 (第5章 5-4-2~3)	交流分析とゲシュタルト療法について理解する。	交流分析の中の4つの分析方法とゲシュタルト療法の技法について、自分の例を実際に当てはめながら考えてみると理解しやすいでしょう。
6	人間学的アプローチ (第5章 5-5)	実存主義的カウンセリングや実存分析(ロゴセラピー)について理解する。	実存主義的カウンセリングや実存分析の考え方を自分が真に持つことができるとどのような気持ちになるか、逆に持てないどのような気持ちになるのかイメージしてみましょう。
7	家族療法 (第5章 5-6)	家族療法、短期療法、ナラティブセラピーについて理解する。	個人に注目する療法と家族システムに注目する療法の違いを具体例を思い浮かべて考えてみると理解しやすいでしょう。
8	その他のカウンセリング理論 (第5章 5-7)	現実療法、森田療法、内観療法について理解する。	森田療法と内観療法は日本で創始された独自の心理療法です。それぞれの考え方と実施方法について知りましょう。森田療法の「あるがまま」を大切にすることはどういうことか自分の例をあてはめて考えてみましょう。

■レポート課題

別紙（専用レポート用紙）の問題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書以外の参考文献を併せて読むと、教科書の内容が感覚的にもっと理解しやすくなります。「急がば回れ」で是非読んでみてください。

その際、自分自身のこと（悩み・ストレス・家族関係・学校や職場の人間関係・性格・ものの考え方・過去の経験など）を当てはめ、実際にその療法を受けるところを想像してみてください。そうすることで、血の通った理解になります。それぞれの理論は、カウンセラーと来談者という生身の人間同士の出会いの中から生まれ、育ち、そして、それに共感する大勢の人たちによって今日まで引き継がれているのだということを忘れないでください。

下記以外にも多くの文献が出版されています。またワークショップなどで実際に体験できるものもあります。将来の実践のために、興味を惹かれたものから、どんどん学習を深めていってください。

■科目修了試験 評価基準

内容を正しく理解していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全般的な説明の両方が的確に記述されていることが、評価されます。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

《辞典・事典》

国分康孝編『カウンセリング辞典』誠信書房、1990年

※具体的な例が添えてあり、説明が分かりやすいです。最初に目次つきの領域別項目一覧が載っていて、辞典でありながら、体系的に学習するのにも役立ちます。

氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕編『心理臨床大事典』培風館、1992年

※各項目がかなり詳しく説明されています。また、それぞれの項目の最後に参考文献が載せてあるため、更に知識を深めたいときにも役立ちます。

日本産業カウンセリング学会監修『産業カウンセリング辞典』金子書房、2008年

※各項目に参考文献が載せてあります。

《書籍》

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005年

犯罪非行心理学

単位数	履修方法	配当年次
2	SR	2年以上



科目コード **FF3524** 担当教員 **半澤 利一**

※この科目は2017年度に新設された科目で、履修方法：SR（会場スクーリング受講＋レポート1課題）により単位修得します。

■科目の内容

犯罪非行心理学は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も、捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問領域であると言えます。「犯罪」と「非行」を合わせた名称は、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階が異なるため、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざまに異なる側面を持つことから、それらの相違を踏まえながら併せて考察することを意図しています。

■到達目標

- 1) 犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。
- 2) 再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べることができる。

■教科書

河野荘子・岡本英夫 編著『コンパクト犯罪心理学―初歩から卒論・修論作成のヒントまで―』北大路書房、2013年

■スクーリング時の教科書

上記教科書を参考程度に使用します。

スクーリング

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	犯罪非行心理学とは何か	犯罪とは何か、学問としてどう扱うのか
2	現代型非行のいまとむかし	少年非行の動向とその原因

3	犯罪の原因と法	犯罪社会学と法律学における捉え方
4	非行臨床について	少年事件の審理, 司法的機能と福祉・教育的機能
5	社会内処遇と施設内処遇	保護観察や少年院について
6	非行少年と家族を理解する	非行少年の心性と家族の特徴
7	被害者の心理と支援	トラウマティック・ストレスとその対応
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に板書をしながら、動画教材も利用して講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（教科書・配布資料・ノート可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の2章・4章・5章を復習し、レポート学習に取り組んでください。

教科書・レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	犯罪心理学とは① (第1章第1節, 第2節)	犯罪非行心理学の研究対象は「犯罪」と「非行」であり、それぞれをどう定義して考える学問なのか、またどういう研究領域があるのかを理解する。	犯罪心理学とは何をどのように研究して行くのかを理解します。特殊な事件を解明するスリリングな活動ではなく、事実や現象についてデータを元にして分析し、法律学や社会学などの知見をも参照して、改善策を考える学問であることが分かります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	犯罪心理学とは② (第1章第3節)	犯罪心理学のさまざまな調査法の一つに犯罪データを利用する方法がある。教科書では限定的な意味での「犯罪データ」(公的記録)について説明されるが、国の機関が毎年発表する「白書」はインターネット上での閲覧も可能である。実際の犯罪データを見てその読み方を体験する。	一般の立場で犯罪者や非行少年を直接研究対象とすることはできませんが、公表されている「犯罪統計」を使えば、その推移や動向などが分かります。ここでは、インターネットで閲覧できる「平成27年版犯罪白書」(参考サイト①)の「少年による刑法犯・1検挙人員」を利用します。参考図書などを手がかりに、その変動の原因を探ってみましょう。
3	犯罪の原因① (第2章第1節, 第2節)	犯罪の原因を解明する理論を学ぶ。社会的要因と生物的要因のレベルで犯罪の形成を見る。	自分の体験や過去の事件報道についての知識を手がかりに、個人を取り巻く社会が反社会的行動の形成にどう影響するかについて考えましょう。また生物学的要因は、教科書に記載されているものの他、先天的な心身の特徴や障害、疾患が影響することもあります。参考文献などで調べてみましょう。
4	犯罪の原因② (第2章第3節, 第4節)	セルフコントロール、敵意帰属バイアスなどが心理的要因であることを知る。	狭義の犯罪心理学の中心的なテーマで、犯罪者や非行少年のパーソナリティ特性を知る部分です。それぞれが犯罪に至った要因は様々でも、ある程度共通する特性や傾向が窺えることもあります。参考文献などを手がかりにして、他にどんな心理的要因があるかを調べましょう。
5	犯罪の原因③ (第2章第5節, 第6節)	犯罪や非行の形成には、家庭環境や学校適応、友人関係などが関わることを理解する。	性格形成や生活態度に大きな影響を与える、一番身近な社会的要因を捉えます。いずれも犯罪や非行の一因となると同時に、更生に向かう時にも影響を及ぼします。
6	犯罪の捜査① (第3章第1節)	社会的な視点で犯罪を見いだすプロファイリングには、FBI方式、リバプール方式、地理的プロファイリングなどの手法があることを理解する。	犯罪捜査に寄与する心理学的な方法を学びます。犯罪行動の痕跡から、いかに犯罪者を効率的・効果的に探り当てるかを心理学的に捉えます。
7	犯罪の捜査② (第3章第2節, 第3節)	虚偽検出や目撃証言の吟味は、犯罪を構成する事実を個人から見出すことであることを理解する。	捜査段階では、犯罪者の生理的反応や言語的反応をどう捉え、どう扱うのかを理解しましょう。
8	非行・犯罪者の心理アセスメント① (第3章第4節1. ~ 3.)	非行や犯罪は、単一の要因だけで説明がつくことはなく、それぞれに生物的次元・心理的次元・社会的次元の各次元の特徴とその特徴間の関係や影響が生み出す特徴が本人の反社会的態度や犯罪行動につながっていることを理解し、各機関ではどのようにアセスメント(査定)するのかを理解する。	「非行・犯罪臨床」とは、初めて目にする言葉だと思います。既に学習したとおり、いずれも法的に定義された反社会的行動を対象とし、一般の心理臨床の対象となる精神疾患や生活上の問題とはさまざまな点で異なる特徴を持つことから、対応も特殊なものとなります。その具体的な方法を概観します。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	非行・犯罪者の心理アセスメント② (第3章第4節4.~6.)	少年鑑別所は、非行少年の資質鑑別(資質面の精査)を行う専門機関であり、法務技官(矯正心理職)が主に面接や心理検査を行い、法務教官が観護しながら行動観察を行うことを理解する。	少年鑑別所は、家庭裁判所が受理した少年事件の審理中に少年を収容して心身の鑑別をする機関です。ここでは資質鑑別と呼ばれる、専門的な心理アセスメントについて、その視点や方法を学びましょう。また、非行少年の心理特性についても具体的に理解し、それらがどう非行につながるのかを考えてみましょう。
10	犯罪からの立ち直り① (第4章第1節)	「立ち直り」とはどのような状態を指すのか、何が必要で、どうしたら良いのか、周囲は何をしたら良いのかを考える。	前項で学んだ心理アセスメントは、それのみで終結するのではなく、立ち直りを援助するための情報として活用されます。立ち直りの考え方や方法について、過去の研究や理論から探りましょう。
11	犯罪からの立ち直り② (第4章第2節1.)	非行・犯罪臨床の特徴の一つである施設内処遇について学ぶ。他の臨床領域では見られない、強制力を伴う、長い期間身柄を拘束する処遇となるが、ここでさまざまな教育プログラムや方法を執ることで、非行性や犯罪性の進んだ人々には有効な処遇となることを知る。	成人向けの刑事施設や非行少年を収容する少年院は、刑事裁判中に被疑者を収容する拘留所や家裁の審理中に少年を収容する少年鑑別所とは異なる、処遇の専門機関です。ここでどのような処遇が行われるのか、具体的に学びましょう。
12	犯罪からの立ち直り③ (第4章第2節2.)	非行・犯罪臨床は、これまでに挙げられた各機関が単独で行うものではなく、アセスメントや処遇が一つの機関で完結することはない。施設での処遇が行われた後も、社会内処遇(対象者を住居に住ませ、学校や職場に復帰させて指導をすること。)が続くが、その中心となるのが保護観察所で行う保護観察である。	教科書に記載された内容をより詳しく知るために、YouTubeの「法務省チャンネル」から紹介ビデオを2つ取り上げます(参考サイト②, ③)。保護観察官は具体的にどのような仕事をしている立場の人なのか、また地域はどのように支援できるのかを紹介されています。
13	被害者の心理① (第5章第1節1.~3.)	2005年に「犯罪被害者等基本法」が施行された。犯罪者に対する刑事手続の中での被害者への対応や支援の詳細は参考サイト④を参照する。教科書には被害者が事件直後に呈する特徴的な心理状態や深刻化した状態などについて解説されているが、それがどのようなものなのかを理解する。	事件や事故が毎日のように報道されますが、その陰には痛ましい心を抱えた被害者やその家族がいます。取り返しのつかない事態に遭った被害者や遺族は特別な心理状態からなかなか回復できないものです。その心理を理解し、支援の基本を学びましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	被害者の心理② (第5章第1節4.～6.)	被害者の心理的ケアの基本は「まずは被害者に寄り添うこと」に尽きる。他に薬物療法や長時間曝露療法について紹介されているが、被害者は過敏な状態にあるのであくまで基本を守る。被害者の心理と支援について参考図書などから詳しく理解する。	各都道府県に開設されている「被害者支援センター」は参考サイト⑤で一覧できます。センターが他にどのような業務を行うのかも調べましょう。また「全国被害者支援ネットワーク」のホームページでは、被害者支援の歴史やさまざまな関係機関による取り組みが紹介されていますので参考にしましょう。
15	防犯について (第5章第2節)	環境犯罪学の主な理論である、割れ窓理論、犯罪パターン理論を理解し、防犯意識を高める。	犯罪者の行動傾向や犯罪を誘発しやすい状況などについて知ることで、防犯対策についての知識を得ましょう。

■レポート課題

1 単位め	非行少年とされる未成年者はどのような性質を持った若者なのかについてまとめ、また再び非行や犯罪を起こすことなく正業に就いて自活させるために、周囲はどのような働きかけをすれば良いのかについてあなたの考えを述べなさい。
-------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

さまざまな角度から非行を捉え直して考えるためには、まず課題を読み解くための手がかりとなる理論や概念を教科書などから探しましょう。それを読み込んであなたの言葉に翻訳して枠組みを自分のものとし、自分なりに情報を整理して自分の言葉で表現してください。参考図書やホームページなどを積極的に参照することを推奨しますが、それらを丸写ししたり、コピー＆ペーストした情報の切り貼りでは学習効果は望めません。理解した内容をあくまで自分の言葉で論理的に構成するように心がけてください。

一般に、非行少年には反抗的な態度や感情統制の悪さ、気まぐれで継続性のない態度などが認められることから、周囲が偏見を強めたり対人的な距離を置いたりします。本人なりに、まじめにやろう、周囲の人々とうまくやっっていこうと実は思っている、なかなかうまくいかない「生きづらさ」を抱えているものです。そういう本人のつらさや努力を、偏りのないまなざしで肯定的に見守るのが非行臨床の第一歩と言えるでしょう。どんな人間でも、自分を理解してくれて温かい言葉を掛けてくれる人には敵意を向けないものです。しかし、対人的な不信感や劣等感が強い人間はなかなか心を開こうとせず、不信の目や怒りを向けてくるかも知れません。それを受け止めながら、なおも肯定的な関心を向け続け、問い掛けます。そして、生きづらさを抱え続けた結果である反社会的行動に至った本人なりの道筋を聴いていくことが大切です。そこから非行少年の理解が始まるのです。教科書に書かれた非行少年の性格的な特徴やそれと関わる社会的要因（家庭環境、交友関係、学校等）の特徴などを手がかりにして、自分なりにモデルケースを想定し、更生のための社会的な支援のポイントなども含めてまとめてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発

見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

1) 犯罪非行心理学概論

細江達郎著 『図解雑学 犯罪心理学』 ナツメ社, 2001年 (図解入りで分かりやすい。初心者向け。)

原田隆之著 『入門 犯罪心理学』 (ちくま新書) 筑摩書房, 2015年 (包括的な内容がコンパクトにまとめられており読みやすい。)

大淵憲一著 『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』 (心理学の世界 専門編) 培風館, 2006年 (さまざまな概念や理論について広く詳しく紹介されているが、やや難解で読み応えがある。)

2) 犯罪非行心理学各論

越智啓太著 『Progress & Application 犯罪心理学』 サイエンス社, 2012年 (捜査心理学, 防犯心理学, 犯罪種別ごとの心理などが紹介されている。)

生島浩・村松励編著 『非行臨床の実践』 金剛出版, 1998年 (非行臨床についての実務家のノウハウが満載。)

生島浩著 『悩みを抱えられない少年たち』 日本評論社, 1999年 (非行少年の心理について洞察が鋭い。)

藤岡淳子著 『非行少年の加害と被害—非行心理臨床の現場から』, 2001年 (非行臨床についての考察が深い。)

小西聖子著 『犯罪被害者の心の傷』 白水社, 2006年 (被害者の理解と支援についての名著。)

■参考サイト

① 「平成27年版犯罪白書」の第3編/第1章/第1節 (下のURL参照) 「少年による刑法犯」「1 検挙人員」 http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/62/nfm/n62_2_3_1_1_1.html

その他、公的機関による犯罪関連の統計には「矯正統計」「少年矯正統計」「保護統計」「警察白書」などがあります。また、青少年をめぐる問題について「子供・若者白書 (旧：青少年白書)」なども参照されます。

② YouTube 「法務省チャンネル」心のリレー・第2部『保護観察官の仕事』

<https://www.youtube.com/watch?v=tizdroA7rW8>

③ YouTube 「法務省チャンネル」更生保護紹介動画「更生保護～立ち直りを支える地域のチカラ～」

<https://www.youtube.com/watch?v=3LihVMdoOzQ>

④ 「犯罪被害者の方々へ」(「法務省」HP>「各組織の説明」>「特別の機関」)

http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji_keiji11.html

⑤ 全国の「被害者支援センター」一覧 (「公益社団法人全国被害者支援ネットワーク」HPから)

<http://nnvs.org/shien/list/#04>

※ 「公益社団法人みやぎ被害者支援センター」

<http://www1a.biglobe.ne.jp/zzm66262/>

カウンセリング I	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FG2682	担当教員	渡部 純夫 未富 美貴

※「カウンセリングⅠ・Ⅱ」の履修の順序の指定はありません。Ⅰ・Ⅱのいずれを先に受けていただいても大丈夫です。

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な援助活動があり、昨今「カウンセリング」という言葉自体が様々な使われ方をしている。心理学を基盤としたカウンセリングの専門的な理論と方法について学んでいく基礎として、カウンセリングの意味や特質などを学び、自分自身の人間観を理解することにより、援助者としての心構えを理論的理解から自分自身を振り返ることを目指してもらいたい。

■到達目標

- 1) カウンセリングの定義や特質を理解し、カウンセリングのベースになるものを説明できる。
- 2) カウンセリングの効果を理解し、援助する際の留意事項を説明できる。
- 3) 来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの基本①	傾聴の意義と技法
2	カウンセリングの基本②	カウンセリングの意義
3	カウンセリングの基本③	カウンセリングのプロセス
4	カウンセリングの基本④	カウンセリングの効果
5	来談者中心療法と人間性心理学①	来談者中心療法の理論
6	来談者中心療法と人間性心理学②	来談者中心療法の方法
7	来談者中心療法と人間性心理学③	人間性心理学
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。途中、グループワークを行い理解を深めていただきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度 20% + スクーリング試験 80% (指定テキスト・配付物・自筆ノート持込可)

■スクーリング時の教科書（「産業カウンセリングⅠ」などと共通）

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）』日本産業カウンセラー協会，2013年 第3章 第4章

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト第3章 傾聴の意義と技法 p. 39～p. 64

テキスト第4章 カウンセリングの基本 p. 65～p. 96 を一読してくること。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義のポイントである「傾聴」の意義と技法を理解してください。

自己理解を深めていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、を身につけてほしい。

■参考図書

小松 紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版，2009年

カウンセリングⅡ	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FG2683	担当教員	中村 恵子

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの目的は、問題解決にあります。カウンセラーは、質問とあいづちによって面接の流れをコントロールし、問題解決をマネジメントします。本講義では、基本的なあいづち技法と問題の本質にフォーカスする問題焦点化技法を学び、面接援助の土台づくりを目指します。

■到達目標

- 1) 基本的あいづち技法を会話に活用できる。
- 2) 問題焦点化技法を説明できる。
- 3) 問題焦点化技法を使うことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの意義と役割	方法論開発の歴史と背景
2	基本的傾聴技法	あいづち技法の解説と演習
3	基本的介入技法	問題解決技法の解説と演習
4	集団援助技法	対人関係ゲーム理論
5	心理的侵入度の調整	対人関係ゲーム演習
6	問題焦点化技法の理論と方法	基礎技法の解説
7	問題焦点化技法の演習	基礎技法の演習
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義と演習を中心にグループで学習を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度30% + スクーリング試験70% (持込可, 論述式)

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で提示される参考図書を学習してください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」「自己理解に基づくセルフコントロール力」「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

カウンセリング演習 I	単位数	履修方法	配当年次
	1	S (演習)	2 年以上
科目コード	FG3695	担当教員	末富 美貴ほか

※2017年4月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になります。

※上記にともない、科目コードを「FG3695」に変更します。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3685」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

自分自身が人を援助する際に自分はどのような人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないかに気づき素直に認める自分があるかを認識してほしい所です。そのうえでカウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現できることができるよう練習を課します。

■到達目標

- 1) カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。
- 2) 傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。
- 3) 自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	体験過程学習①	自己理解ワーク
2	体験過程学習②	グループワーク
3	体験過程学習③	傾聴基本的技法の演習
4	体験過程学習④	グループワーク
5	体験過程学習⑤	基本的態度と技法の応用演習
6	体験過程学習⑥	グループワーク
7	カウンセリングプロセスの理解	DVD視聴等
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

ロールプレイを行いながら、グループでの体験過程学習を行います。またグループメンバーでフィード

バックを行いカウンセリングの基本的な学習を行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度 20% + スクーリング試験 80% (指定テキスト・配布物・自筆ノート持込可)

■スクーリング時の教科書(「カウンセリングⅠ」などと共通)

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング(産業カウンセラー養成講座テキスト)』日本産業
カウンセラー協会, 2013年 第3章

※「カウンセリングⅠ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングⅠ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録で
きます。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安: 5~10時間)

テキスト第3章 傾聴の意義と技法 p. 39~p. 64 を一読してくること。

※「カウンセリングⅠ」スクーリングを受講していることが望ましい。

■スクーリング事後学習(学習時間の目安: 20~25時間)

傾聴の基本的態度を理解し技法に頼らず他者とのコミュニケーションで活かして行ってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけ
てほしい。

■参考図書

小松 紘・木村 進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版, 2009年

カウンセリング演習Ⅱ	単位数	履修方法	配当年次
	1	S (演習)	2 年以上
科目コード	FG3696	担当教員	菊住 彰

※2017年4月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になります。

※上記にともない、科目コードを「FG3696」に変更します。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3686」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワーキング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。

■到達目標

- 1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。
- 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。
- 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。
- 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らす環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	カウンセリングの姿勢①	クライアントに向き合う心構えの再考
2	カウンセリングの姿勢②	クライアントに向き合う態度の再考
3	カウンセリング技術の応用	さらに心を開いてもらうために
4	事例場面から学ぶ	映像教材と逐語録から検討
5	ロールプレイ①	基本的なやりとりを駆使する演習
6	ロールプレイ②	実際の場面設定での演習
7	カウンセリングの視点	何を目標に取り組むか
8	まとめと質疑応答	

■講義の進め方

座学だけではなく、実際の面接の場面を映像で見ながら検討したり、参加者どうしでロールプレイを行ったりして、実践的な内容となります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式。持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

福島脩美著『カウンセリング演習』金子書房, 1997年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は読んでください。授業ではそれを前提に、実際のクライアントとかかわる場面を想定した練習に比重をおきます。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活に少しずつでも取り入れる努力を続けてください。繰り返し行って、意識せずに実行できるくらいになれば、本来の免許皆伝です。

■スクーリング推奨受講条件

本講義は原則的に「カウンセリングⅠ」または「カウンセリングⅡ」のスクーリングを受講されるなど、カウンセリングの基礎知識をお持ちの方を対象としています。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授



認知心理学

		単位数	履修方法	配当年次
		4	R or SR	2年以上
科目コード	FH3510	担当教員	西林 克彦	

※2018年度より担当教員、教科書、レポート課題が変更になる予定です。本冊子記載のレポート課題での提出は2018年2月までになります。

それ以降の学習には、2018年度の教科書の所持が必要になります。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2017年度は開講しません。2018年度は新担当教員によるスクーリングが開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。2018年度以降の開講は未定です。

■科目の内容

日常用語としての「認知」という言葉は、「認める」とか「知る」といった意味です。心理学では、それにくわえて推理・思考などの高次精神機能をへて「知る」ということも入ってきます。とにかく「認知」とは広い意味で「知る」ことだと思ってください。

ですから、「認知心理学」は「どのようにして知るのか」の学問とっていいでしょう。ただ、「認知心理学」には著しい特徴があります。それは、人は（動物も基本的に同じですが）その時々において、すでに枠組みを持っているのを認めることです。意識することは少ないのですが、私たちは自分の持っている枠組みで外の世界に注意を向けます。ですから、その枠組みに関係する情報は引っかかりやすく簡単に取り入れられるのです。それに対して枠組み・知識のない分野の情報は、取り込むのに大変苦労したりします。偏った考えを持った人が、そのアンテナに掛かる情報ばかり取り入れ、ますます偏ってしまうことにもなったりするわけです。旧来の条件づきの心理学ではこのような事態は説明できませんが、認知心理学では可能になります。

さて、この講座では、広範囲にわたる認知心理学領域全体を浅くカバーするのではなく、学習、理解、学習指導、文章の理解といったことを中心に、この学問ならではのアプローチの面白さを実感していただくと思います。そこで獲得した見方・考え方は、認知心理学の広範な他領域の学習や、日常的な場面への適用をも容易にしてくれるでしょう。

■到達目標

- 1) 認知心理学のタームを用いて知覚・文章理解・理解・情報探索などについて述べるができる。
- 2) 認知心理学的に教育や日常の問題を考えることができる。

■教科書

- 1) 西林克彦著『間違いだらけの学習論——なぜ勉強が身につかないか』新曜社、1994年
- 2) 西林克彦著『わかったつもり——読解力がつかない本当の原因』光文社、2005年

(最近の教科書変更時期) 2011年 4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	有意味学習 (教科書1) 第1章)	機械的暗記と有意味学習の枠組みで学習論を検討できることを理解する。	現在流布している学習論は条件づけまたは機械的暗記に由来するものが主である。これと著しく異なる認知心理学的な有意味学習の観点で再検討して欲しい。
2	認知構造 (教科書1) 第1章)	有意味学習において認知構造の果たす役割について正確に理解する。	機械的暗記でクリティカルな学習対象の量や繰り返しの多さは、有意味学習においては問題とならないこと、むしろ逆になることに注意して欲しい。
3	有意味学習の特徴①注意 (教科書1) 第2章)	有意味学習はオーバーフローしないこと、仮説演繹法が探究の基本であることを理解する。	機械的暗記は簡単にオーバーフローするが、有意味学習は認知構造との結びつきによって全く逆になることに注意して欲しい。また、仮説演繹法は有意味学習の有効な手法であることを押さえて欲しい。
4	有意味学習の特徴②学習曲線 (教科書1) 第2章)	有意味学習では学習曲線が必ずしも単調増加関数的にならないこと、賞罰が必ずしも学習を促進しないことを理解する。	発達および学習曲線は単調増加関数的であると無批判に考えられているが、有意味学習では成長によるエラー、学習によるエラーによって一度落ち込むのが一般的であることに注意して欲しい。
5	理解 (教科書1) 第3章)	理解を構成する要素とその構造を明確に把握する。	ある事実を理解するとは、それを包摂する法則的知識を用いて事例にすることによってであることを理解する。そのとき理解は三層構造をなすことを充分に押さえて欲しい。
6	応用 (教科書1) 第3章)	理解の構造を用いて応用のメカニズムを理解する。	応用できない知識形態は理解の三層構造が形成されておらず、それには二種あること、および共通の法則的知識に種々の条件を介して個別的知識が包摂される知識形態の優位性に注意して欲しい。
7	知識形態 (教科書1) 第4章)	知識形態とその使用実態は完全な照応関係にあることを理解する。	「知っているけど応用が利かない」とか「できるけれど理解していない」などとよく言われるが、そのような知識とその使用可能性を切り離すことは間違っている点に注意して欲しい。
8	知識の使用と質 (教科書1) 第4章)	知識は思考の道具でありその質が肝要であることを理解し、質の吟味法について理解する。	外界を探索する道具としての知識を、教授者が学習者に提案するのが教授学習過程である。教授者による道具の精査が教材解釈であり、教授内容と教授方法とは不可分であることに注意して欲しい。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	学習の内実 (教科書1) 第5章)	学習の内実は、学習形態が受動的か能動的であるかにかかわらず、形成された知識形態の質によることを理解する。	受容学習は受動的で効果が薄いとみなされ、能動的に見える発見学習や問題解決学習のスタイルが称揚されることが多い。しかし、有意義学習の観点からすればこれらは甚だ怪しいことに注意して欲しい。
10	知識と探索 (教科書1) 第5章)	知識は探索の道具であるが、その質の検討および構築について理解する。	どのような知識が外界を探索するのに有効か、またどのような知識形態が有効か、そして望ましい知識形態の構築にはどのような方法があるのかに注意して欲しい。
11	わかったつもりという現象 (教科書2) 第1章)	文章の読みが深まらないのは、わからないからではなくて読み手がわかったつもりになってそれ以上の探究をしないうためであることを理解する。	「わからない」と「わかる」と「よりわかる」の区別をし、「わかったつもり」が文章理解の過程におけるひとつの安定状態であることを正確に押さえて欲しい。
12	文章理解のメカニズム (教科書2) 第2章)	文章理解における文脈、スキーマの機能について理解する。	文章理解において文脈が既存スキーマを活性化する役割を果たすこと、用いる文脈によってそれぞれの記述から引き出される意味が異なってくることに注意して欲しい。
13	文脈のはたらき (教科書2) 第3章)	大雑把な読みや読み飛ばしや誤読に文脈がどのように関わっているのかを理解する。	文章全体の雰囲気といった大雑把な文脈を用いると、読み取りが雑駁になりやすいこと、書かれていないことまで読み取ってしまうかねないことなどのメカニズムに注意して欲しい。
14	さまざまな「わかったつもり」 (教科書2) 第4章)	わかったつもりを作り出す各種要因について理解する。	結果に合わせた読み取りや、種々雑多な事象の羅列と感ずることによる論理の放棄もある。また、既存の物語スキーマを用いたステレオタイプの読み取りなどがあることに注意して欲しい。
15	「わかったつもり」の壊し方 (教科書2) 第5章)	文章理解における解釈の検証・反証のメカニズムを理解する。	「わかったつもり」を壊すには、部分間に矛盾や無関連を見つけ出さなければならない。それが次の新しい解釈を生み出していくことに注意して欲しい。

■レポート課題

1 単位め	有意義学習と機械的暗記では学習の様態がずいぶん違います。なぜそうなるのか、そのことは学び方や教え方にどんな違いをもたらすのか、について述べてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（論述式）
2 単位め	文脈、スキーマ、活性化などの用語を使いながら、読みのメカニズムについて整理してください。また、それと以前の自分の読みに対する考えと対比させて述べてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（論述式）
3 単位め	理解の構造、応用のためにはなぜ理解が必要なのか、について考えを整理して述べてください。

4 単位め

読みの過程で「わかったつもり」がどのように生じ、それがどのようにより深い読みを妨げるかについて整理してください。また、認識の深まりということからすれば、このようなことは読みに限られるわけではないでしょう。他の分野でどのようなことがあるか考えてみてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書くという作業は、教科書を読んでその内容をまとめることではありません。知識は、自分の頭の中を通過していない限り借り物ですし、自分のものになった言葉で書かない限り人に訴える力を持ちません。認知心理学的に言えば、自分の枠組み・認知構造が情報獲得に関与していなければなりませんし、関与していなければ「わかる」ということにもならないのです。また、自分の枠組み・認知構造が獲得した知識・情報によって、再構成すなわち変化させられていなければ、これまた、「わかって使える」ということにはならないのです。

ですから、レポートを書いている途中でわからないことや調べたいことが出てくれば、情報がだいぶん咀嚼されて自分のものになりつつあると考えてください。「わかったふり」をするのは厳禁です。そもそもそれでは自分の勉強になりません。新しく学んだ知識を整理し、わからない点や不整合な点を見つけ出し、具体的に適用するとどうなるのかといった疑問を抱き、それらに自分なりの回答を考えるといったレポートを期待しています。

1単位め
アドバイス

教科書1)の1, 2, 5章が主として関係するところです。世の中では勉強法というと機械的暗記すなわち無意味材料に関するものがほとんどです。認知心理学で考えた意味学習の有利さについて、またなぜ世の中では意味学習が推奨されることが少ないのかについても考えてみてください。

2単位め
アドバイス

教科書2)の1, 2章が主として関係するところです。私たちは、読むときに意識しませんが、こんなにも積極的に複雑なことを、しかも瞬時に行っているのです。その巧緻なメカニズムを理解すれば、それがうまく働かないとき、うまく読めないときの理由や対応も考えることができるようになります。

3単位め
アドバイス

教科書1)の3, 4, 5章が主として関係するところです。「理解の構造」は、少し歯ごたえがあるかと思いますが、ここが理解できれば、「応用」は比較的楽に了解できると思います。

4単位め
アドバイス

教科書2)の3, 4, 5章が主として関係するところです。「わかったつもり」は、ひとつの「わかった」状態ですから、わからないところがなく、次の行動がとれないので、読みが深まらないのです。「わからない」だけが次に進めない理由だ、とよく思われがちですが、ある程度読める人には「わかったつもり」の方が、じつはよほど問題なのです。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントであるが、テクニカルタームが適切に使われているか、課題に過不足なく答えているかも評価対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原 滋著『認知心理学』 有斐閣, 2010年
- 2) リンゼイ, P. H. ・ノーマン, D. A. 著 中溝幸夫ほか訳『情報処理心理学入門』(1-3巻) サイエンス社, 1985年



学習心理学			単位数	履修方法	配当年次
			2	R or SR	2年以上
科目コード	FH3512	担当教員	柴田 理瑛		

■科目の内容

心の科学である心理学は、近年めざましい発展を遂げ、研究領域も大きく広がってきています。心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶の研究という大きな二つの流れがありました。この二つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。

■到達目標

- 1) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。
- 2) 学習心理学の応用的な研究について内容を説明できる。

■教科書

篠原彰一著『学習心理学への招待—学習・記憶のしくみを探る（改訂版）』サイエンス社、2008年
 （最近の教科書変更時期）2008年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	学習心理学の領域（1章）	学習の定義や学習心理学の起源について学ぶことで、学習心理学の特徴を理解する。 キーワード ：行動主義、認知論、無意味綴り、節約法、再学習法、問題箱、試行錯誤、古典的条件付け、条件反射、無条件反射	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。学習心理学における様々な理論の変遷について理解しておく、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	古典的条件付け（2章）	古典的条件付けに関連する代表的な研究例を学びながら、その特徴と限界を理解する。 キーワード ：中性刺激、消去、自発的回復、条件刺激、無条件刺激、般化、弁別、時間的接近、随伴性、嫌悪療法、系統的脱感作法	生体の刺激に対する反応は経験を通して変化します。この種の反応の変容の基礎にある、古典的条件付けについて説明できるようになりましょう。梅干の写真をただ見て唾液があふれるという日常の体験を古典的条件付けの観点から考察してみましよう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	オペラント条件付け (3章)	オペラント条件付けに関連する代表的な実験例を学びながら、その特徴と限界を理解する。 キーワード：オペラント条件付け、スキナー箱、強化、強化子、学習性無気力、迷信行動	生体はある行動が成功すればその行動をとり続け、失敗すればまた別の行動をとります。3章では、2章で学んだ行動の受動的な変化ではなく、経験による行動の自発的な変化について学びます。公園で人を見ると寄ってくるハトは、どのようにヒトから餌をもらうことを学習したのかについて考えてみましょう。
4	強化と行動① (4章4.1～4.2節)	ある種の行動をとったときの結果に応じて、その行動が強化される仕組みを理解する。 キーワード：正の強化、負の強化、罰、オMISSION、正の強化子、負の強化子、強化スケジュール、連続強化、間欠強化	ある行動に随伴して報酬が与えられると、その行動の頻度は高くなります(強化)。学習された行動を促進あるいは抑制する刺激や、効果的に学習を生じさせる呈示スケジュールについて学びましょう。本章を通し、なぜギャンブルに依存しやすいのかについて考えてみましょう。
5	強化と行動② (4章4.3～4.5節)	強化スケジュールの応用や嫌悪刺激を用いた条件付けにおける強化の特徴、行動強化の背景にある理論を学ぶ。 キーワード：並立スケジュール、回避学習、罰、動因低減説、プレマックの原理	ある行動をとって、不快な刺激を回避できると、その行動の頻度は高くなります(負の強化)。このような回避学習について、代表的な先行研究や理論に触れながら、様々な行動の強化について整理し、説明できるようになりましょう。
6	条件付けの制約 (5章)	条件付けにおいて生得的な要因を考慮する必要性について、代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：刷り込み、臨界期、生物学的制約、味覚嫌悪学習、種に固有の防衛反応	これまでの章では行動は経験によって変化することを学んできました。この章では、学習によって全ての行動が獲得できるわけではなく、学習が生得的な要因によって制限されることについて理解しましょう。
7	一時的な記憶 (6章)	短期記憶やワーキングメモリといった学習心理学の重要な概念について学ぶ。 キーワード：符号化、保持、検索、感覚記憶、両耳分離聴、短期記憶、長期記憶、マジカル・ナンバー7±2、多重貯蔵庫モデル、系列位置曲線、初頭効果、ワーキング・メモリー	記憶は主に一時的な記憶と長期的な記憶に分けられると考えられています。本章では、一時的な情報の保存に関して、短期記憶やワーキングメモリといった概念について説明できるようになりましょう。
8	長期記憶の多様性 (7章)	長期記憶の区分を理解し、長期記憶の多様性について学ぶ。 キーワード：エピソード記憶、意味記憶、手続き記憶、宣言記憶、潜在記憶、顕在記憶、プライミング、展望記憶、表象、メタ記憶	本章では、長期記憶について学びます。長期記憶の様々な下位分類について、整理しながら学習することが学びのポイントです。顕在記憶を潜在記憶の違いはどこにあるのでしょうか？自分なりに考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	長期記憶への取り入れ (8章)	記憶の長期的な保持に関わる要因について学ぶ。 キーワード：集中学習、分散学習、自由再生、分散化効果、チャンク、対連合学習、フラッシュバルブ記憶、スキーマ、処理水準説	記憶の定着を促進する分散化効果、チャンク化、対連合学習といったキーワードについて理解しましょう。さらに、特に努力せずに記憶が定着する場合や、日常目にするものの記憶について学ぶことで、情報が長期的に残って行く要因について自分なりに考察しましょう。
10	保持と忘却① (9章9.1～9.2節)	記憶の忘却の特徴について代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：エビングハウスの忘却曲線、節約率、不使用説、減衰説、干渉説、反応競合	人の記憶とコンピュータの記憶の最も異なる特徴は、ヒトはものを忘れるということです。忘却に関連した代表的な研究例を通して、忘却の過程や要因について説明できるようになりましょう。
11	保持と忘却② (9章9.3～9.4節)	記憶の変容について代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：事後情報効果、偽りの記憶、幼児期健忘	私たちが経験したことを正確に記憶できることは少なく、むしろ記憶の内容が事実と異なる場合も多々あります。このような現象を説明する理論について、記憶の再構成や記憶の分布といった観点から整理して学習することが学びのポイントです。
12	検索 (10章)	過去の記憶を想起すること（検索）についての諸現象を学び、記憶についての理解を深める。 キーワード：再生、手がかり再生、再認、再認の失敗、気分依存効果、気分一致効果	ここでは、過去の経験を思い出すこと（検索）について学びます。再生や再認といった実験手法の確立から、生成再認理論、符号化特定性原理といった代表的な理論について説明できるようになりましょう。
13	学習と思考 (11章)	学習と思考の関係について、推理や類推の観点から学ぶ。 キーワード：演繹推理、帰納推理、推論、概念学習、プロトタイプ、因果関係、類推、問題解決	私たちが自分で経験できる範囲には限りがあるので、私たちは個々の経験・事象から共通の一般性を引き出すことによって知識の幅を広げます。本章では、推理や類推、問題解決といった高度な学習の特徴について理解しましょう。
14	技能① (12章12.1～12.2節)	日常生活における様々な活動においてみられる技能の学習について学ぶ。 キーワード：運動技能、認知技能、知覚技能、連合、認知、自律、離散課題、連続課題、フィードバック、結果の知識、集中学習、分散学習	スポーツや楽器の練習をすると、初めは難しかったことも徐々にできるようになっていきます。技能とはこのように、練習を通して習得される行動様式を指します。ここでは特に、運動技能の習得について理解しましょう。
15	技能② (12章12.3～12.6節)	認知や知覚技能の習熟について学ぶ。 キーワード：認知技能、知覚技能、閉ループ理論、開ループ理論、ベキ関数、転移	暗算などの認知的な側面が重要である認知技能の習得、物体の細部の弁別に関わる知覚技能の習得について学び、前後の学習間で生じる転移について説明できるようになりましょう。

■レポート課題

1 単位め	まず、無条件反応、無条件刺激、条件反応、条件刺激などという条件づけの専門用語の意味をそれぞれ説明しなさい。次に、「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」とは何かを述べなさい。そして、「条件づけ」の「一般原則」とその生物学的制約について例をあげて考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
2 単位め	学習心理学の知識を応用してください。 持込み不可の試験に合格したい時に効果的な記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法とを具体的に述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

特に教科書の第1章から第5章までがレポート課題に関係します。この教科書にはたくさんの図表が使用されています。心理学では図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められることが頻繁にありますので、図表にもきちんと目を通しながら学習を進めてください。

最初に第1章「学習心理学の領域」を読んで「学習とは何か」を学びましょう。その後、第2章「古典的条件づけ」と第3章「オペラント条件づけ」を読みましょう。第2章では、レポート課題に関係する専門用語が登場しますので、注意しながら読み進めてください。第3章まで読み進めたら、一度「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」の相違点についてまとめてみましょう。レポートがまとめやすくなると思います。その後、第4章「強化と行動」と第5章「条件づけの制約」を読んでください。条件づけの生物学的制約に関しては第5章を参照してください。

1 単位めのレポートでは、複数の専門用語解説が求められます。たくさんの情報のある一定量にまとめて、わかりやすく、簡潔に表現することは、心理学を学ぶうえで非常に重要です。そのため、1 単位めのレポートを評価するときは、指定文字数（2000字以内）で、課題内容にそった記述が、わかりやすく、明確になされているかどうか注目して評価したいと思います。

2 単位め アドバイス

特に教科書の第6章から第10章までがレポート課題に関係します。1 単位めと同様、心理学では図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められることが頻繁にありますので、図表にもきちんと目を通しながら学習を進めてください。

最初に第6章「一時的な記憶」を読んで「条件づけと記憶」のつながりを理解しましょう。その後、第7章「長期記憶の多様性」と第8章「長期記憶への取り入れ」を読みましょう。レポートに関係する事柄（特に記憶力を高める方法）は、第8章で中心的に記述されています。その後、第9章「保持と忘却」と第10章「検索」を読んでください。レポートに関係する事柄（特に忘却を防ぐ方法）は、第9章が参考になると思います。

2 単位めのレポートでは、教科書に書かれている学習の原則や現象を自分なりにまとめ、応用するように工夫して頂きます。教科書を読み進めるときには、上述したレポート課題に関係しそうな部分に注意するとレポートが書きやすくなると思います。1 単位めのレポートと同様、指定文字数（2000字以内）で、

課題内容にそった記述が、わかりやすく、明確になされているかどうか注目して評価したいと思います。

※パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。具体的には、試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学 行動と認知』サイエンス社、2001年
森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学（心理学の世界 基礎編2）』培風館、2011年

<h1>卒業研究</h1>	単位数	履修方法	配当年次
	8	卒業研究	4年
科目コード	ZZ5991	担当教員	本学専任教員

■科目の内容

卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。

必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。

■教科書

各自で研究テーマに応じて準備。福祉心理学科の方は『福祉心理学科スタディガイド』VI章は必読。

■卒業研究の流れ

① 研究テーマの決定

(1) 問題意識の具体化・明確化

一般に論文を書く場合、まず第1に、テーマをどのようなものにするかが問題となります。テーマは、かなり漠然とした興味や関心から出発することが多いものです。また、講義や実習・実験の中で、こういうことを研究したいという、ある程度具体的な問題意識を持つ場合もあるでしょう。しかし、いざ自分の研究として進めていこうとすると、どこから手をつけてよいか、方向づけに迷いがちなものです。したがって、研究を進めていく第一歩は、問題をできるだけ明確にし、一定期間内でまとめあげられるように絞り込んでいくことです。そのためにはまず、自分の興味・関心に関連のある文献を読むことが必要です。また、この段階で可能ならば通信教育部事務室を通して然るべき先生に相談し、指導を仰ぐことも、問題意識を深める上で非常に役立つはずですが、はっきりした問題意識の方向がなかなか定まらない場合に、文献を読むことによって、おもしろそうな問題を発見することもあると思われます。

(2) 関連文献を調べること

問題意識がある程度具体化してきたら、関連のある文献を読み始めます。文献とは、単行本だけではなく、オリジナルな論文（専門誌・学会誌や紀要など＝『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』p.210～211参照）も含まれます。文献は、まず、最も新しいものを読み、それからさかのぼって読んでいくのがいいと思いますが、1つの論文を読むと、それに関連した文献が、参考文献（references）の欄に挙げられていますから、その文献を次々に読んでいくのが効率的です。

関連論文が見つかったら、自分なりの文献目録を作ります。そうすると、後で本格的に文献を整理する時に効果的です。

(3) 仮テーマ（仮題）の決定＝卒業研究の受講申込み

＝通信教育部への提出（3月卒業希望者）4月5日必着／（9月卒業希望者）10月5日必着

(1), (2)により、ある程度問題意識が明確になったら、その問題の方向に従って、仮テーマを決定し、本冊子巻末の「卒業研究 申込用紙」に必要な事項を記入して、大学に提出していただきます。各自の提出したテーマを検討し、大学で指導教員を決定します。

この段階でp. 180～181の「卒業研究の受講条件」を満たしていることが必要です。また、テーマや主旨が明確でない方は、卒業研究の受講ができない場合もありますので、ご了承ください。

(4) 指導教員の決定

通信教育部から書面で連絡 5月初旬／11月初旬に発送予定。なお、指導教員が決まったら、できるだけ早く面接指導でも通信指導でもよいので、初回の指導を受けてください。

(5) テーマ（論題）の最終決定

指導教員が決定したら、その指導、助言のもとに、具体的なテーマを決定します。テーマは、研究の具体的な内容が理解できるように、できるだけ具体的かつ簡潔なものであることが望まれます。また、やや抽象的なメインテーマに、具体的なサブテーマをつける方法もよく使われています。

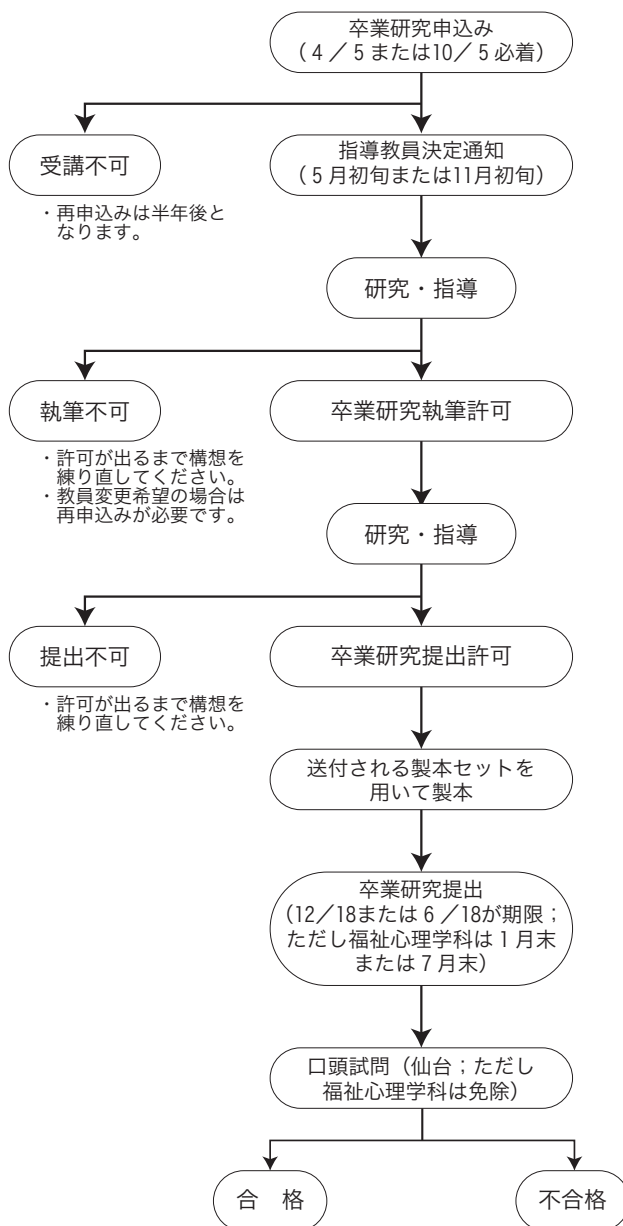
② 研究を進める

研究を進めるプロセスとしては、①文献研究、②データ・資料の収集・分析、③執筆などが考えられますが、指導教員の指導を十分に受けてください。研究・執筆の過程で、最低限2回の面接指導、3回の通信指導を受けることが必要です。ただし面接指導の回数が2回より多くなる場合は、通信指導はその分減らすことができます。

なお、口頭で構いませんので指導教員から、執筆の前には卒業研究執筆許可を、提出の前には卒業研究提出許可をもらうようにしてください。

また、調査やインタビューなどを実施する前には、必ず指導教員の下承を得る必要があります。福祉心理学科の場合は、指導教員の

—— 申込以降の流れ ——



了承を得たうえで、調査に協力をいただく機関ないし個人に「調査依頼状」を提出してください。「調査依頼状」の書式見本は、『福祉心理学科 スタディガイド』第1版p.135, 第2版p.165, 第3版p.194に掲載されています。ご自身で作成した「調査依頼状」に指導教員の署名・捺印をいただいたうえで、ご自身で調査依頼先に提出してもらいます。なお、書式フォーマットを希望される方は通信教育部卒業研究担当までご連絡ください。

(1) 通信指導（3回以上）

通信指導は、卒業研究の進行状況に応じたレジュメ（要旨・要約）などを作成・提出することにより指導教員に指導を受けるものです。指導は、一般的には通信教育部事務室経由で郵送で行っていただきますが、指導教員によっては学生－教員間で直接やりとりを行っていただきます。

(2) 面接指導（2回以上）

面接指導は、担当教員と直接会い、指導を受けるものです。原則として、本学の演習室か教員研究室で行います。面接指導には、事前の申込みが必要です。申込みは、(1)通信教育部事務室経由で行う場合、(2)指導教員と直接相談して決めていただく場合があります。

通信教育部事務室経由で行う場合は、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「面接指導」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお申込みください。同様の内容を記入していただいて、電子メールでの申込みも可能です。

■到達目標

- 1) 卒業研究のテーマを見つけることができる。
- 2) テーマに関連した文献をレビューできる。
- 3) 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。
- 4) 仮説を立てることができる。
- 5) 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。
- 6) 結果について統計処理ができる。
- 7) 考察を行い、論文としてまとめることができる。

■在宅学習30のポイント (通信指導3回以上・面接指導2回以上の受講は必須)

回数	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	関心のあるテーマで、研究として成り立つものを設定する。
2	文献の収集① 先行研究	テーマに沿った先行研究を探す。
3	文献の収集② 文献検索	テーマに沿った文献を、インターネットで検索し収集する。
4	文献の整理① 項目整理	収集した文献の内容を項目ごとにまとめカード化する。
5	文献の整理② 全体把握	カードについてKJ法などを用いて全体性をつかむ。
6	再度文献の収集	不足している文献の収集を行う。

回数	テーマ	内容
7	再度文献の整理	付け加えた文献の整理を行う。
8	文献のレビュー	整理した文献についてのレビューを行う。わかっていることとわからないことを確認する。
9	研究の目的	研究の目的を決定する。
10	独立変数と従属変数	独立変数と従属変数の関係について検討する。
11	仮説の生成	研究で明らかにしたいことを踏まえた仮説を設定する。
12	研究の整合性	研究の整合性が保たれているか、検討を行う。
13	統計の方法	どのようにして統計処理を行うか、具体的に検討する。
14	尺度の設定	どの尺度を使用するかを検討と決定を行う。
15	質問紙作成に向けてのチェック	ここまでの工程を振り返り、不備がないかどうかの確認作業を行う。
16	質問紙の作成	実際に質問紙を作成する。
17	質問紙の最終チェック	調査のための質問紙に不備がないかどうか最終チェックを行う。「調査依頼状」の作成・提出。
18	アンケートの実施	本調査を実施する。調査を依頼するときの配慮や依頼の仕方に十分注意すること。
19	データの入力	調査データを間違えないよう入力する。
20	データの分析	入力したデータを統計分析する。
21	結果の整理	分析の結果を整理する。
22	仮説の検討	結果を元に仮説が妥当かどうか検討する。
23	卒論の執筆前準備	構成として先行研究のレビューを行う。
24	卒論執筆① 目的・仮説	目的、仮説を書く。
25	卒論執筆② 方法	方法として、対象、質問紙の構成、調査の実施の手続きを書く。
26	卒論執筆③ 結果	結果にどのような統計分析を行ったかについても書く。
27	卒論執筆④ 図表	図表を作成する。
28	卒論執筆⑤ 考察	仮説についての考察を行う。予防や援助につながる点からの考察を望む。
29	卒論執筆⑥ 文献	引用文献、要約、資料などについて、書き方にしたがってまとめる。
30	卒論完成	論文をしっかりと通読し、最終の推敲を行ったうえで提出する。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、手順が異なります。

■在宅学習の留意点

- 1) 卒業研究の取り組みは、原則として、自分なりの取り組んだ時間が学習になる。
- 2) 卒業研究の執筆方法のための参考文献をよく読むこと。
- 3) テーマに関連した文献を最低でも30以上読むこと。
- 4) 独立変数と従属変数との関係から、仮説を立てること。
- 5) 研究の流れを考え、どのような統計分析を使うかを見極めること。
- 6) あせらないためにも、早め早めの取り組みを行うこと。
- 7) 図表や引用文献の書き方を習得しておくこと。
- 8) 研究全体を通して倫理には最大限の配慮を行うこと。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、留意事項が若干異なります。

■卒業研究 評価基準

提出された卒業研究をもって行う。

■提出の方法

- (1) 400字詰原稿用紙で50枚以上100枚以内の分量が必要です。もちろん卒業研究としてふさわしい論文の内容でないと合格することはできません。
- (2) パソコンの場合は、下記のスタイルに統一してください。
 - ・ A 4判の用紙ヨコ書 左右40字×天地30行 マージン上下左右各30mm
 - ・ 文字サイズは本文10.5ポイントを原則としてください。見出しは、適宜大きいポイントにしたり、太字にしてください。
- (3) ページ数を頁下部に記入または印字してください。
- (4) 本文以外に、論文のスタイルにそって①目次や②注または引用・参考文献などをつける必要があります。
- (5) 3月卒業希望者の論文提出締切は12月18日（ただし福祉心理学科は1月末）、9月卒業希望者の論文提出締切は6月18日（ただし福祉心理学科は7月末）前後となり、1～2月、7～8月の口頭試問に合格することが必要です（福祉心理学科は口頭試問なし）。提出の際の「製本」仕様については受講者にご案内します。なお、論文は正副あわせて2部提出していただきます。
- (6) 論文は本学通信教育部事務室などで公開されます。プライバシー侵害などのないようし、個人情報の記載は行わないでください。

■卒業研究の受講条件

- (1) 正科生・4年生以上で、受講申込締切日（4/5 or 10/5）までに、卒業見込となる単位数（1年次入学者は90単位以上、2年次編入学者は60単位以上、3年次編入学者は28単位以上）を修得済みであること。
- (2) 自身で研究したいテーマがあり、論文の構想が申込み時に作成できていること。指導教員は、希望する研究テーマにもとづき大学側で決定されます。

- (3) 執筆の過程で、最低2回以上の面接指導、3回以上の通信指導を受けられること。
- (4) 福祉心理学科で「卒業研究」を受講するためには、下記①～③の条件を満たす必要があります。
- ① 受講申込締切日までに「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「統計情報を見る眼」の単位が修得済であること。
 - ② 実験・研究法・特講科目・S科目を除く福祉心理学科 専門必修科目・専門選択科目A群の16科目のうち10科目以上の単位を修得しているか、学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済orスクーリング受講済）していること。
 - ③ 「卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。

■福祉心理学科・卒業研究ガイダンス

福祉心理学科で卒業研究の受講を考えている方を対象に、事前に2回の「卒業研究ガイダンス」を行っています。なお、以下のガイダンスに出席したから必ず「卒業研究」に取り組まなければいけないということはありません。

(1) 卒業研究第1回めガイダンス

卒業研究の概要について説明されるものです。この内容は、「TFUオンデマンド授業」視聴の要領で自宅のパソコンで視聴することができます（科目名「福祉心理学科・卒業研究ガイダンス」）。また、「心理学研究法Ⅱ」スクーリング開講日1日目講義終了後などにビデオ視聴することができます。第1回めガイダンスの受講申込みは不要です。

(2) 卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）

3年生以上の方が、希望するテーマをもとに教員と個別、または少人数のグループで相談するものです。

第2回めガイダンス（事前個別相談）は、毎年3・8・12月ごろに実施します。第2回めガイダンスは、下記の要領で申込みが必要です。

・卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）の申込方法

卒業研究第2回めガイダンスは、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「ガイダンス」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAX（FAXで返信可の場合のみ）または郵送でお申込みください。同様の下記の内容を記入していただき、卒業研究係あての電子メールでの申込みも可能です（電子メールアドレス ua@tfu-mail.tfu.ac.jp）。

メールの件名 卒業研究2回めガイダンス申込み

メール本文 下記①～⑩を箇条書きに記入してください。

- ① 卒業研究2回めガイダンス申込み
- ② 氏名
- ③ 学籍番号
- ④ 住所
- ⑤ 連絡先電話番号・FAX・携帯番号
- ⑥ 電子メール アドレス

- ⑦ 卒業研究で取り組んでみたいテーマ（簡単で可）
- ⑧ 希望日時（期間内でできるだけ多くの候補をあげてください）
- ⑨ 希望教員の有無（ない場合はなしで可。ある場合は第1希望・第2希望）
- ⑩ （あれば）質問

・卒業研究第2回めガイダンス（事前個別相談）の実施期間および申込締切日

申込締切日	連絡予定日	第2回めガイダンス期間
7月第1月曜日必着	7月20日すぎ	8月1～25日ごろ
11月第1月曜日必着	11月20日すぎ	12月1～25日ごろ
2月第1月曜日必着	2月20日すぎ	3月1～25日ごろ

■社会福祉学科 卒業研究ガイダンス

社会福祉学科の方のための全体ガイダンスもTFUオンデマンド授業の方法（名称「卒業研究ガイダンス」）で視聴が可能です。

社会福祉学科の方で、取り組んでみたいテーマはあるが研究方法がわからないなどご質問・ご相談のある方は、(1)学籍番号、(2)氏名、(3)卒業研究テーマ、(4)質問内容を記入し、郵送・FAX・電子メールなどの書面で通信教育部までお問い合わせください（電子メールアドレス ua@tfu-mail.tfu.ac.jp）。

■諸注意

卒業研究を途中で断念する場合は、通信教育部または指導教員まで文書にて（様式自由）ご連絡ください。

卒業研究は1年で終えなくても継続して取り組むことができます。

卒業研究を「科目等履修生」として履修することはできません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

大学での学修の総まとめとして、ディプロマポリシーに示されている力すべてを身につけるように取り組んでほしい。

■参考図書

1) 論文執筆全般に関するもの

吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第2版）』ナカニシヤ出版、2004年

新堀聡著『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』同文館出版、2002年

慶應義塾大学通信教育部編『卒業論文の手引<新版>』慶應義塾大学出版会、2003年

山田剛史・林創著「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房、2011年

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年

奥田統巳ほか著『読みやすく考えて調べて書く（第2版）』学術図書、2003年

2) 社会福祉学関連

- 川村匡由著『福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規出版, 2002年
 久田則夫著『ノリさんの楽々レポート作成術』大揚社, 1995年
 平山尚ほか著『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房, 2003年
 斎藤嘉孝著『社会福祉調査 ワードマップ』新曜社, 2010年
 立石宏昭著『社会福祉調査のすすめ』ミネルヴァ書房, 2005年
 畠中宗一・木村直子著『社会福祉調査入門』ミネルヴァ書房, 2004年
 岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣, 2006年
 鈴木庄亮ほか著『保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方 [改訂第2版]』南江堂, 2006年

3) 歴史学関連

- 歴史科学協議会編『卒業論文を書く』山川出版社, 1997年

4) 心理学関連

「福祉心理学科 卒業研究作成のしおり」の文献欄参照（『福祉心理学科スタディ・ガイド』所収）
 新しいものとしては、下記の書籍がある。

- 松井豊著『心理学論文の書き方（改訂新版）』河出書房新社, 2010年
 都筑学著『心理学論文の書き方』有斐閣アルマ, 2006年
 杉本敏夫著『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社, 2005年

※統計の基礎を学ぶものとしては、下記の書籍がお勧めです。

- 櫻井広幸・神宮英夫著『使える統計 Excelで学ぶ実践心理統計』ナカニシヤ出版, 2003年
 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房, 1998年
 B. フインドレイ著『心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで』北大路書房, 1996年
 岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版, 1997年
 浦上昌則・脇田貴文著『調査系論文の読み方』東京図書, 2008年
 近藤宏ほか著『Excelでかんたん統計分析』オーム社, 2007年

福祉心理学科 卒業研究指導教員一覧（五十音順）

『 』内は過去の指導論文タイトルの一例。

△＝主として大学院の修士論文の指導を行う教員

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
宇田川 一 夫△	心理療法・心理アセスメント
大 関 信 隆	発達障害・認知機能に関する実験心理学的研究 情動・ストレスに関する実験心理学的研究 『通園施設における園内活動が養育者の心理的变化に及ぼす効果に関する研究』、 『音楽を媒介した知的発達障害に伴う自閉症者支援の可能性に関する研究』
菊 池 陽 子	臨床心理学 『言語表記方法変更に伴う視覚的文字イメージの差異－「がん・癌」「かぜ・風邪」の2疾患による文字イメージの考察』
佐 藤 俊 人	主として乳児期から青年期までを対象とし、その発達や心理に及ぼす環境の影響について調査、実験を通して検討します。 『成人のストレス対処についての研究～「癒し」の視点から～』、『「冬のソナタ」と韓流ブームとの社会的な要因・背景を探る』
清 水 めぐみ	臨床心理学、深層心理学、心理療法に関する卒論の指導を行います。 『難聴者における難聴の程度及びアサーティブネスと「健聴者の世界との葛藤」の関係についての研究』
白 井 秀 明	「教えること」「学ぶこと」「動機づけ」に関わる分野 『青年期における父親への抵抗の表出と心理的離乳との関係－父親の態度との関連から－』、『看護教員初年度における小児看護学実習指導に関する一考察～看護実践を学ぶためのよりよい実習過程の実現に向けての取り組み～』、『看護師の自我同一性及び自律性の発達と終末期患者の自己決定に対する援助傾向の認識の関係について』、『看護師が抱く看護肯定感と看護職を続けていくうえでの支えに関する調査』、『学習行動の主体性に及ぼす学習動機と内的矛盾の感性の影響』、『フィンランドの教育について～子どもたちの心の中で何が起きているのか～』
内 藤 裕 子	学校保健、臨床心理学
中 村 修	発達心理学、健康心理学分野 『福祉系大学1年生における福祉職の選択意思に及ぼす福祉体験の影響～大学入学前の福祉体験と入学後の実習体験を中心に～』、『働く人々の生きがい感に影響を与える要因－成人期初期を対象として－』
中 村 恵 子	学校心理学・カウンセリング分野
半 澤 利 一	犯罪心理学・家族心理学分野（非行、家族、思考と感情、心理査定、心理社会的支援）
平 川 昌 宏	生涯発達心理学、発達臨床分野 『保育経験年数が保育観と保育場面における働きかけに及ぼす影響～保育専攻学生及び保育経験の異なる保育者間比較を通じた検討～』

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
皆川 州 正△	青年心理学, 家族心理学, 臨床心理学 (適応やパーソナリティに関する分野を含む) の領域の実証的研究 『非合理的なものへの関心と精神的健康に関する研究』, 『自己受容の要因についての研究—達成動機・ソーシャルサポートとの関連を中心として—』, 『秋田県の自殺率ワースト1 更新の要因を探る』, 『宗教意識と生きがい感の関連—大学生と成人の比較を通して』
山口 奈緒美	社会心理学分野 (寛容性, 対人葛藤, 葛藤解決)
吉田 綾乃	社会心理学分野 (自己, 対人行動, 集団行動など) 『成功体験の意味づけと振り返りが自己及び他者への肯定的感情に及ぼす影響—在米高校生の組織キャンプにおけるリーダー経験に基づく検討—』, 『職場の復職支援のあり方に関する研究: 職場復帰において管理職が考える支援と復職者本人の職場に対する期待感のずれに着目して』, 『社会人の友人関係と社会適応の関連性について: 内面的類似性・対人コンピテンスの観点から』, 『援助者の依存性と共感性および被援助者のライフストーリーの有無が援助行動に及ぼす影響』, 『社会人のナショナル・アイデンティティ, 関係効力感と差別意識の関連性について』ほか
渡部 純夫	臨床心理学 ・病院臨床…病院における心理療法のあり方と効果 カウンセリング技法 ・学校心理学…スクールカウンセリングの枠構造 チームアプローチの効果的技法 ・芸術療法…箱庭療法, 描画療法 『心身の健康に及ぼす主観的健康統制観について』, 『高校生における親に対する信頼感に関する研究—基本的信頼感及び対人的信頼感に関連して』, 『集合同一化と対人ストレスの相関関係について』, 『高校生の風景構成法を通じた不登校傾向』

特講・福祉心理学

2016年度よりスクーリングの申込みが必要となりました。下記の申込締切日までに、履修登録とスクーリングの申込み両方を行ってください。

申込方法と今後の開講予定は下記の通りです。

1) 会場スクーリング

申込方法：『With』巻末のハガキか、「TFUオンデマンド」上で行ってください。受講上のルールは、通常のスクーリングと同じです。

会場開講の科目は、原則として同じ科目は次年度以降開講いたしません（一部隔年開講をしている科目があります）。

2) オンデマンド・スクーリング

申込方法：「TFUオンデマンド」上でのみ可能です。受講上のルールは、オンデマンド・スクーリングと同じです。

オンデマンド開講の科目は、次年度も開講する場合、『With』などでご案内いたします。

科目名	開講日	履修・申込 (取消)締切	受講料 納入期限
特講・福祉心理学 4 (スクール・カウンセリング)	5/27・28	4/30	5/15
	オンデマンド (11/23~2018. 1/5)	11/12	12/3
特講・福祉心理学 8 (ストレスとつきあう心理学)	10/14・15	9/5	9/20
特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)	オンデマンド (10/26~11/17)	10/1	10/15

特講科目と他の科目とで手続きが異なる点は、2016年度より下記2点となります。

●締切日までに取消連絡をすれば特例で履修取消が可能

スクーリングに出席できない方は、上記に定めるスクーリング申込締切日前ならば、履修登録の取消が可能です。取消を希望される方は、書面（メール・FAX・郵送）でご連絡ください。ただし、超過履修費を納入したことがある方は原則として履修取消はできません。

●教科書がある科目はスクーリング受講料納入後に送付

履修登録・スクーリング申込み後、スクーリング受講料を期限までに納入した方に発送いたします。履修登録時には発送いたしません。

特講・福祉心理学 4 (スクール・カウンセリング)	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FT2604	担当教員	中村 恵子

※オンデマンド・スクーリングは別教員（萩原豪人先生）が担当いたします。萩原豪人先生の講義概要は、『試験・スクーリング情報ブック』5部をご参照ください。

※この科目は①5/27・28の仙台の会場スクーリング（履修登録・申込締切：4/30）、②オンデマンド・スクーリング（履修登録・申込締切：11/12）のいずれかの受講が必須です。①②どちらの方法で受講する場合も、履修登録・申込締切日までに、履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム援助が求められる時代になりました。本講義では、子どもの学校適応条件を心理学の基礎理論に学び、実践的な援助技法を紹介します。チーム援助の実際を肌を感じていただけたら幸いです。

■到達目標

- 1) 傾聴技法を会話に活用できる。
- 2) 学校適応条件を説明できる。
- 3) 学校不適応の子ども援助の方法を説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校カウンセリングの意義と役割	日米のスクール・カウンセリング
2	教育臨床に有効なカウンセリング技法	発話を促す基本技法
3	教育臨床に有効な集団援助技法	対人関係ゲームの理論と演習
4	学校適応に求められる要因	学校適応の条件
5	学校適応に求められる発達課題	愛着形成～嫉妬形成～母子分離
6	学校不適応の理解	不登校事例の問題分析
7	学校不適応への援助方法	不登校事例の介入計画作成
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

チーム援助のシミュレーションを兼ねてグループで学習を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度30% + スクーリング試験70%（持込可，論述式）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって，教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて，自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

下記および授業で提示される参考図書を学習してください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため，とくに「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」「自己理解に基づくセルフコントロール力」「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

中村恵子編『学校カウンセリングー問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション』ナカニシヤ出版 2011年

特講・福祉心理学 5 (自分さがしの心理学)	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FT2605	担当教員	菊住 彰

※2017年度は開講しませんが、2018年度に開講する可能性が高いため、掲載いたします。

※履修登録は2018年2月から可能となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

皆さんは自分がどういう人間なのか、よくご存知でしょうか。どんな性格を持ち、他者からもそれを認められているでしょうか。長所を短所と思いついていませんか。この講義では心理テストを多用し、皆さん自身が被験者となって、自己イメージを客観的に明らかにしていきます。自立性、責任感、外向性、対人関係の特性、家族観など、心の様相が浮き彫りになってくることでしょう。思考や行動、人間関係のパターンを確認し、自分らしさを自覚することによって、自己実現のヒントを得る。それがこのスクーリングの目的です。

■到達目標

- 1) 自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。
- 2) 対人関係を築くうえで改善していく目標を、3つあげることができる。
- 3) 自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	主観的自己像と客観的自己像①	他者は自分をどう見ているかを知る
2	主観的自己像と客観的自己像②	自己イメージは本当に正しいかを確認する
3	もの見かたの癖と個人差①	思い込みや決め付けの強さを再認識する
4	もの見かたの癖と個人差②	“常識”は十人十色であることを知る
5	対人関係のパターン①	他者と関わる時の自己流のルールに気付く
6	対人関係のパターン②	快適で安心な交わりかたを考える
7	自分らしさの発見	自分を好きになるヒントを探す
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

心理テストを使った自己分析などは座学で行いますが、身体感覚や使い方の特徴を知るワークや、簡

単なロールプレイを通して第三者の目に自分がどう映るかなどの客観的なイメージを知るワークを行ったりもします。見る・聞く・話すを、それぞれ多用する講義とお考えください。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）

■スクーリング時の教科書

レジュメと心理テストをスクーリング中に配布するので、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

特別な予習は必要ありません。座学だけではなく、グループワークをたくさん行いますので、新しい仲間との対話を楽しむ心のゆとりをもって参加してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で知り得た自分の長所を、実際の生活で生かす努力を続けてください。また、短所が繰り返して表出しないように、これまで常習化していた思考や行動のパターンを崩す工夫を試みてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授

特講・福祉心理学 8 (ストレスとつきあう心理学)		単位数	履修方法	配当年次	
		1	S	1 年以上	
科目コード	FT2608	担当教員	菊住 彰		

※この科目は2017年10/14・15の仙台会場のスクーリング受講が必須です。受講希望者は9/5までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きなくてはいけないのだろうと嘆く方。どうせストレスなんかなくなると耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもったり、燃え尽き（バーンアウト）症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事する方だけでなく、日常の生活ストレスに悩んでいる方にも、気付きと対処スキルを得ていただければと願っています。

■到達目標

- 1) ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。
- 2) 人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも3つあげることができる。
- 3) ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を3つ以上持つ。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	ストレス概論	ストレスと「つきあう」とは
2	リラクゼーション	ストレスを抱えた身体の状態に意識を向ける
3	性格と行動のチェック①	落ち込みや燃え尽きやすさを知る
4	性格と行動のチェック②	認知や行動のパターンを知る
5	人間関係のスキルアップ①	想いを伝えるコツを学ぶ
6	人間関係のスキルアップ②	適切な距離感を保つ
7	五感の活性化	右脳を使って取り越し苦労をやめる
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・ストレスを自己増幅してしまう思考パターンに気づき、その循環に歯止めをかける方法を考えていきます。その際に、座学による講義だけではなく、グループワークやロールプレイを取り入れます。
- ・理論や知識ばかりでなく、身体に働きかける対処法を体験していただきます。座ったり寝転んだりしやすい服装でご参加ください。フロアに寝転ぶこともありますので、ビニールシートをご用意ください。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

『こころもからだもスッキリ！ 一人のできる介護のストレス解消法』（川崎美織・菊住彰著，中央法規出版，2008年）を参考程度に使用します。

※教科書はスクーリング受講料納入者に送付します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書に掲載されているチェックリストを使いながら、授業をします。事前に記入して、自己採点をしたうえで、講義当日にお持ちください。また、それらを含めて、第1章の1～3節と、第3章の1節は読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活で使ってみなければ、参加してくださった意味がありません。少しずつでも取り入れる努力を続けてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■講師紹介

菊住 彰 東京学芸大学 特命教授

特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)	単位数	履修方法	配当年次
	1	S	1 年以上
科目コード	FT2609	担当教員	萩原 豪人

※この科目はオンデマンド・スクーリングによる受講が必須です。受講希望者は10/1までに、履修登録と「TFUオンデマンド」上でのスクーリング申込みが必要です。

※2018年度に会場スクーリングが予定されていますが、担当教員・講義内容・教科書などは変更予定です。会場スクーリングを受講希望の方は2018年度に履修登録をしてください。

■スクーリングで学んでほしいこと

コミュニティ心理学は、1965年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えます。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。例えば、ひきこもりや虐待の問題は、相談室で待ち構えているだけでは、解決が非常に難しい問題です。コミュニティ心理学的アプローチでは、そのような心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか？

心理的・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人々が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。本講座を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けて頂ければと思います。

■到達目標

- 1) コミュニティ心理学の基礎知識について述べるができる。
- 2) コミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢について説明できる。
- 3) 様々な領域において、どのようなコミュニティ・アプローチがなされるか理解し、その上で、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	伝統的個人心理療法との違い	コミュニティ心理学と伝統的個人心理療法との比較
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	コミュニティ心理学の誕生の歴史と特徴
3	危機介入	危機介入の理論と方法
4	予防とサポート・ネットワーキング	予防やサポート・ネットワーキングの方法
5	コンサルテーション	コンサルテーションの理論と方法
6	コミュニティ・アプローチの実際①	スクールカウンセリングの実際
7	コミュニティ・アプローチの実際②	ボランティア活動やNPO活動の実際
8	質疑応答	授業の内容に関する質疑応答

■講義の進め方

空欄穴埋め式の配付資料にそって、板書を中心に講義を進めます。臨床事例を含む一部資料は配付できないので、ご了承ください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加態度 50% + スクーリング試験（持込すべて可：論述式） 50%
スクーリングに対する積極的な姿勢と最後の時限に実施する試験の総合評価とします。
オンデマンドで受講する場合は、スクーリング試験100%で評価します。
試験は論述とし、上記の目標に到達しているかどうかについて評価します。

■スクーリング時の教科書

植村勝彦他編『よくわかるコミュニティ心理学 第2版』ミネルヴァ書房、2012年を参考程度に使用します。

※教科書はスクーリング受講料納入者に送付します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキスト全てに目を通してから受講する必要はありませんが、前半の基本的な説明（特にⅠ～Ⅱ章）と個人的に関心のある分野の実践が書かれている箇所は、読んでから授業に参加されると、より深く理解ができるものと思われます。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書や参考図書、配付資料を確認しながら、理解が不十分な個所やさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

山本和郎著『コミュニティ心理学』東京大学出版会、1986年

専門選択科目B群

この部に記載の科目は、福祉心理学科では専門選択科目B群（社会福祉学科では専門選択科目）の科目となりますが、「統計情報を見る眼」は心理学研究法を理解する上での基礎となる科目のため、ここに掲載されています。

福祉心理学科・その他の専門選択科目B群（『学習の手引き』1章「福祉心理学科・開設授業科目一覧」参照）は、他の『レポート課題集』に掲載されています。

統計情報を見る眼

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	2年以上



科目コード **DA3146** 担当教員 **平川 昌宏**

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。今年度は開講しません（次回開講予定は2018年度）。
※オンデマンド・スクーリングは2017年度開講予定です。

■科目の内容

私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。さらに言えば、それができなければ、統計情報に「騙され」、知らず知らずのうちに真実とは異なる解釈に至ってしまったり、真実とは異なる印象を抱いてしまう危険性すらあると考えられます。

本科目では、まず、統計情報の種類やそれらの特徴について理解することを目的とします。さらに、それを解釈する際の統計的な思考法について学んでいくことを目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。

なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。スクーリングでは、この点を考慮し、数学的な内容は必要最小限にとどめ、統計的な考え方の習得に焦点を当てていくこととします。

■到達目標

- 1) 記述統計と推測統計について説明できる。
- 2) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。
- 3) 相関について、さらには、相関関係と因果関係の違いについて説明できる。
- 4) 統計的検定の思考法について説明できる。
- 5) 示された統計情報、そして、そこでなされている主張について批判的に検討できる。

■教科書

飯田泰之著『考える技術としての統計学』日本放送出版協会、2007年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	統計的思考とは何か① ：統計詐欺の3つのパターン (第1章 第1節)	「統計詐欺の3つのパターン」について理解する。さらに、記述統計と推測統計という2種類の統計についてその内容を理解する。 キーワード：見せ方の嘘、選択の嘘、収集の嘘、記述統計、推測統計	「統計詐欺の3つのパターン」については、身近な具体例を探することで、理解をより豊かなものにしてください。
2	統計的思考とは何か② ：演繹法と帰納法 (第1章 第2節：～p. 28 15行目)	演繹法と帰納法の違いについて理解した上で、帰納法と統計的思考の類似性について理解する。 キーワード：演繹法、帰納法	テキストに「(現実的な帰納法)は統計的な発想といってもよいでしょう」と述べられています。なぜそのように考えられるかを説明できるように学習を進めてください。また、統計情報の中から「ふつう」と「ふつうじゃない」を区別することの意義を考えてみてください。
3	統計的思考とは何か③ ：仮説演繹法 (第1章 第2節：p. 28 15行目～)	仮説演繹法とはどのような思考法か理解し、このような思考法に統計が果たす役割について理解する。 キーワード：仮説演繹法	「理論的に導いた全体(仮説)を確かめる手法として、統計を用いる」という発想は、とても大切になる考え方となります。具体的な内容は以降の学習に含まれますが、その前提として「仮説演繹法」の思考法について説明できるようにしておいてください。また第3節(実践に生かすデータ活用法)は、前回と今回の学習内容をより具体的に説明する内容になっていますので、一読しておいてください。
4	「平均」による情報縮約① ：平均とは (第2章 第1節)	算術平均の算出法とその性質について理解する。 キーワード：算術平均、偏差、やじるべえの支点	「ふつう」を示す値として、平均(特に算術平均)がよく用いられます。その性質についてテキストでは「やじるべえの支点」と表現されていますが、その理由について説明できるように学習を進めてください。
5	「平均」による情報縮約② ：平均が「ふつう」を表さない場合 (第2章 第2節：～p. 54 6行目)	算術平均の留意点(どのような時、算術平均が「ふつう」を表現しないか)を理解すると同時に、度数分布表(ヒストグラム)の重要性について理解する。 キーワード：度数分布表(ヒストグラム)	テキストに「人は(日本人は?)どうも『平均はこれこれです』といわれるのに弱い。」とあります。それゆえに、算術平均の留意点を念頭に置きながらこの値を解釈していくことが大切になると考えられます。算術平均の留意点にあてはまりそうな身近な具体例を探することで、理解をより豊かなものにしてください。
6	「平均」による情報縮約③ ：様々な代表値 (第2章 第2節：p. 54 7行目～)	最頻値、中央値がどのような値か理解する。さらに平均値、最頻値、中央値の3つの値を見比べてデータを解釈することの重要性を理解する。 キーワード：最頻値、中央値、代表値	最頻値、中央値、平均値という3つの値から、ゼータ全体の特徴(ヒストグラムの形)をどのように推測できるのかという点について理解を進めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	「平均」による情報縮約④ ：データの「ばらつき」を理解する (第2章 第3節)	データ全体のばらつきを示す値(四分位範囲, 四分位偏差, 分散, 標準偏差)の算出法, およびその性質について理解する。 キーワード: 四分位点, 四分位範囲, 四分位偏差, 外れ値, 分散, 標準偏差, 偏差値	データ全体のばらつきを示す値として, 特に「分散」や「標準偏差」は多く用いられています。さらに, 以後の学習でも重要となりますので, 理解を確実なものとしておいてください。また, データのばらつきに着目することの意義について説明できるように, 学習を進めてください。
8	「比較」による状況判断① ：比較する数値の単位をそろえる (第3章 第1節)	複数のデータが比較可能か判断する際に, その単位を確認することの重要性を理解する。 キーワード: フロー, ストック	私たちは, 複数のデータを比較する中で, 物事の優劣や変化について判断を行います。だからこそ, 「そもそもそれらのデータが比較可能か」を考慮することが大切だと考えられます。今回の学習ではこの点について考慮する際の観点の1つとして「単位」に着目することの重要性について学びを進めてください。また「単位がそろっていないまま比較がなされている」具体例を考えることで, 理解を豊かにしてください。
9	「比較」による状況判断② ：サイズあたりで比較を行う (第3章 第2節)	複数のデータが比較可能にするための調整法として, サイズあたりの調整を理解する。 キーワード: サイズあたりの調整	前回の学習に引き続き, 複数のデータが比較可能かを考慮する際の観点の1つとして, 「サイズあたりの調整が必要か」という点に着目することの重要性について学びを進めてください。また「サイズあたりの調整がなされていないまま不適切な比較がなされている」具体例を考えることで, 理解を豊かにしてください。
10	変数間の関係性を理解する①: 視覚化する (第5章 第1節: ~ p. 150 15行目)	変数間の関係を視覚化する方法として散布図を理解する。また様々な相関関係について理解する。 キーワード: 散布図, 正の相関関係, 負の相関関係, 無相関, 完全相関, 2次関数状の関係	変数間の関係性を数量化する前に, それを視覚化し, 関係性をおおまかにイメージすることが大切だと考えられます。その方法として散布図の理解を進めてください。また, 様々な相関関係について, 身近な具体例を探すことで理解を豊かにしてください。
11	変数間の関係性を理解する②: 数量化する (第5章 第1節: p. 150 16行目 ~ p. 153 5行目)	相関係数から2つの変数の関係性についてどのような情報が読み取れるかを理解する。さらには, 相関係数を用いた分析を行う際の留意点を理解する。 キーワード: 相関係数	2つの変数の関係性を記述し理解する上で, 相関係数は非常に有用な値となります。その一方でテキストに「変数間関係を見るためにまず初めに散布図作りをやっておかないと, 手痛い見落としをすることがあります」と述べられています。どのような「見落とし」が生じうるのか説明できるように, 学習を進めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	変数間の関係性を理解する②：相関関係を解釈する (第5章 第3節：～p.173)	相関関係と因果関係の違いについて理解した上で、相関関係を解釈する際の留意点について理解する。 キーワード：因果関係	テキストで述べられている「ナマズの動き」と「地震」の関係のように、因果関係はないがデータ上相関関係が見られる現象のことを「擬似相関」と言います。「擬似相関」の身近な具体例を考えることで、理解をより豊かにしてください。
13	部分から全体を解読する①：記述統計から推測統計へ (第4章 第1節)	推測統計の考え方について理解する。さらに、母集団（ユニバーサル、ユニバース）と標本（サンプル）という用語を理解すると同時に、サンプリングの重要性について理解する。 キーワード：推測統計、母集団、標本(サンプル)、中心極限定理、誤差、サンプル平均、母平均、正規分布	今回より学習内容が推測統計というより複雑な内容となります。まずは、推測統計の考え方、さらに推測統計を行う上でのサンプリングの重要性について理解を進めてください。中心極限定理については、複雑な内容ですが記述統計と推測統計をつなぐ重要な定理となりますので、そのイメージをつかんでもらえればと思います。
14	部分から全体を解読する③：検定の思考法1 (第4章 第3節：～p.141 14行目)	統計的な検定の思考法について理解する。 キーワード：検定、帰無仮説、対立仮説	「帰無仮説を否定できるかどうかを確率的に検討する」という検定の思考法は、少々複雑かもしれませんが、しかし、テキストでは幾つかの具体例を用いてこの考え方について解説が試みられていますので、それらを参照しながら理解を進めてください。
15	部分から全体を解読する③：検定の思考法2 (第4章 第3節：p.141 15行目～)	統計的な検定の中で生じうる2つの誤りについて理解する。 キーワード：第一種過誤と第二種過誤	統計的な検定はあくまで、確率的な判断を行うものであり、誤る可能性を含んだものです。また、許容される「誤りの大きさ」は分析者が決めるものであり、その意味で分析者の考え方によって、検定結果も異なってくる可能性もあります。そのような検定の特徴について理解を進めてください。

■レポート課題

1 単位め	テキストの第1章を読み、「統計詐欺の3つのパターン」を具体例を挙げながらまとめてください。
2 単位め	次の2つの課題1・2のうち、 いずれか1つ に回答してください。 課題1 1つの変数の特徴を記述する際に用いられる値として算術平均があります。 i) 算術平均の特徴について述べてください。 ii) 1つの変数の特徴を記述する上で算術平均を用いる際の留意点について述べてください。さらに、算術平均がデータを代表する値として不適切な場合、そのデータの特徴を理解し、記述する際の方法について述べてください。 課題2 2つの変数の関係を述べる際に相関という言葉が用いられます。 i) 相関の種類についてまとめてください。また、相関係数の特徴について述べてください。 ii) 相関関係を解釈する際の留意点について具体例を挙げて説明してください。その際、「因果関係」、「擬似相関」という用語を必ず用いること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

1単位め
アドバイス

テキストの第1章『統計的思考とは何か』では、真実とは異なる印象を抱かせる統計情報のパターンとして、3つのパターン（①見せ方の嘘、②選択の嘘、③収集の嘘）が述べられています。この3つのパターンそれぞれについて、テキストの内容を参考にしながら述べてください。その際、各パターンの具体例をそれぞれ挙げるようにしてください。

具体例については、まず、皆さんのまわりにある統計情報、あるいは、テキスト以外の文献等で紹介されている統計情報を見直し、その中で各パターンに該当するものがないかどうかを検討してください。このような検討を行った上で、それでも各パターンに該当する適切な具体例が見当たらない場合は、テキストで述べられているものについて述べても構いません。

2単位め
課題1
アドバイス

たとえば、「〇〇のテストの平均は△△点だった」など、平均（とりわけ算術平均）は私たちにとって非常になじみ深い統計情報です。それゆえに、その特徴や留意点を理解した上でつきあっていく必要があると考えられます。今回の課題については、テキストの第2章『「平均」による情報縮約』を学習した上で取り組むようにしてください。詳細なアドバイスは以下の通りです。

i) について

- ・テキストでは、4種類の平均について述べられています。レポート課題では、その中で算術平均について述べるようにしてください。
- ・テキストでは算術平均の特徴として「やじるべえの支点」という表現が用いられています。この点について詳しく述べるようにしてください。

ii) について

- ・主にテキスト第2章の第2節『平均の誤解を解く』に書かれている内容を参考にし、レポートを作成するようにしてください。
- ・他のデータに比べて極端に大きな値や小さな値を示すデータのことを「外れ値」と言います。算術平均を用いる際の留意点について述べる際、この用語を用いるようにしてください。

2単位め
課題2
アドバイス

ある事柄について予測を行う、あるいは原因をさぐる上で、2つの変数の関係を理解することは非常に有益だと考えられます。今回の課題については、テキストの第5章『「回帰分析」による関係把握』を学習した上で取り組むようにしてください。詳細なアドバイスは以下の通りです。

i) について

- ・主にテキスト第2章の第1節『関係性を発見する』の中の、『まずは視覚化する』（p. 148～）、『次に数量化する』（p. 150～）に書かれている内容を参考に、レポートを作成するようにしてください。

- ・相関係数の特徴については、この値から2つの変数の関係についてどのような情報を読み取ることが可能なのかについて述べてください。

ii) について

- ・主にテキスト第2章の第3節『回帰分析の有効利用へ』の中の『因果と相関』（p. 171～）の中で、回帰分析の根本的な問題点として述べられている事柄を参考に、レポートを作成するようにしてください。
- ・「疑似相関」とは、実際には直接関係のない変数同士（たとえば、「地震」と「ナマズがさわぐ」）が、両者に共通する別の要因（「地殻変動」）の影響を受けて、見かけ上相関関係が生じる現象のことを言います。
- ・具体例としては、皆さんのまわりにある統計情報や一般的に言われている通説の中で、「疑似相関」であることが考えられるものを1つ挙げるようにしてください。

※この科目は「TFUオンデマンド」上で、担当教員によるレポート・アドバイスの動画を視聴することができます。

■科目修了試験 評価基準

科目修了試験100%。科目修了試験は論述式の試験を行う。在宅学習の15のポイントで記されているキーワードについての理解を問う問題となっている。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

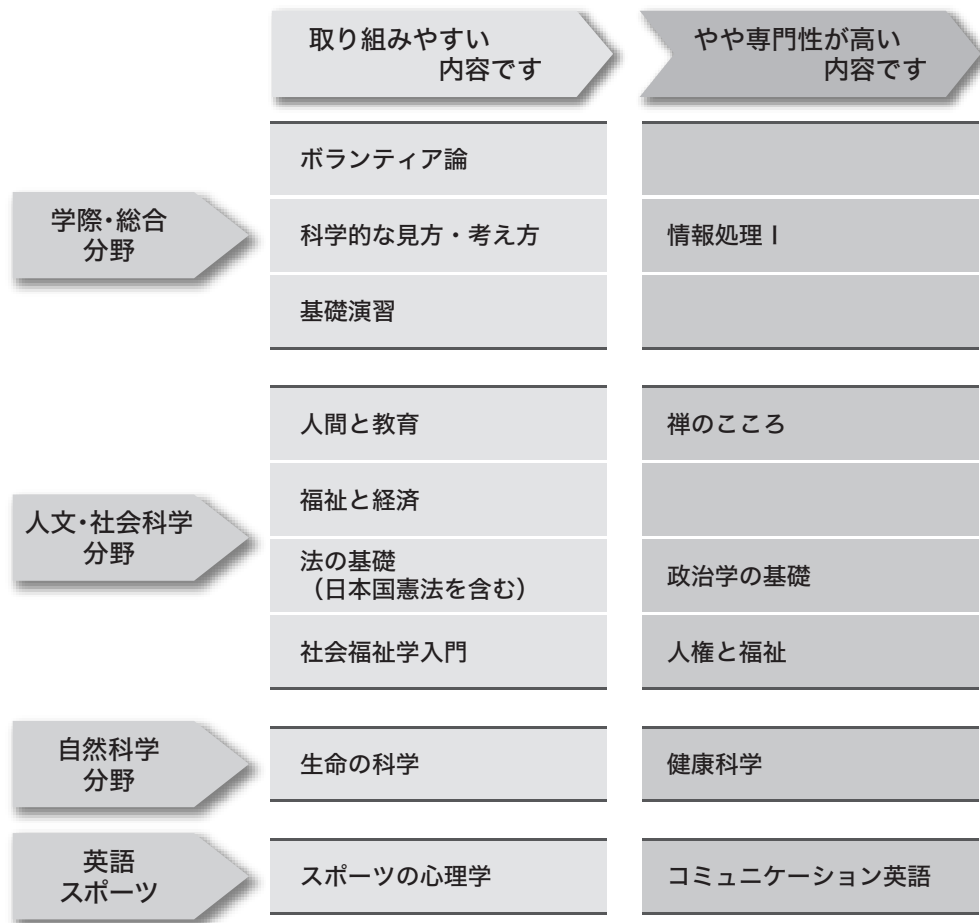
- 青木繁信著 『統計数字を読み解くセンス』化学同人，2009年
- 上田尚一著 『統計グラフの賢い見方・作り方』講談社ブルーバックス，1988年
- 大村 平著 『統計のはなし（改訂版）』日科技連，2002年
- ジョエル ベスト著 『統計はこうしてウソをつく——だまされないための統計学入門』林大訳 白揚社，2002年
- 谷岡一郎著 『データはウソをつく』筑摩書房，2007年
- ダレル ハフ著 高木秀玄訳 『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス，1968年
- 吉田寿夫著 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房，1999年

履修系統図

● 共通基礎科目 履修系統図

【履修上の留意点】

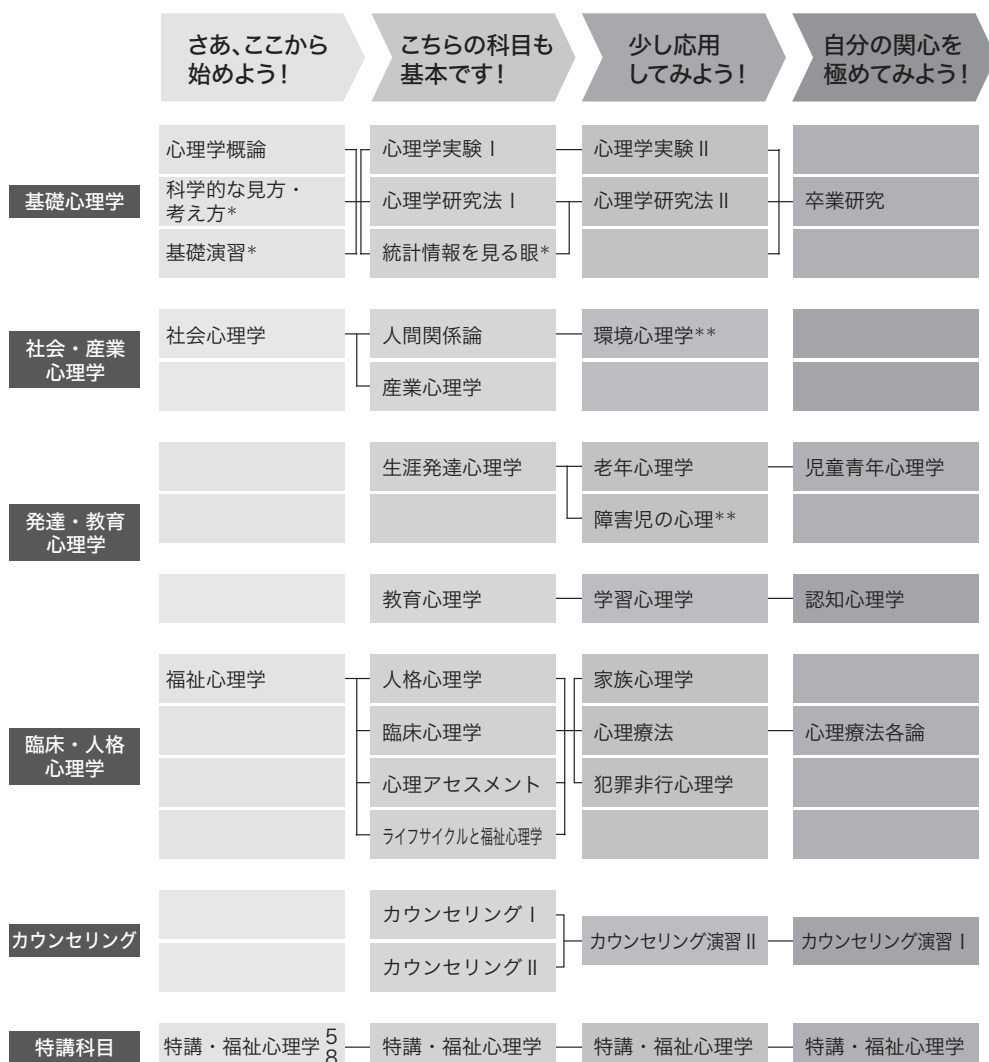
- 1) 1年次入学者は、下記の共通基礎科目から、卒業までに18単位以上修得する必要があります。
- 2) コミュニケーション英語・スポーツの心理学・特講科目はスクーリング受講が必須となります。



●福祉心理学科 専門科目（心理学系科目）履修系統図

【履修上の留意点】

- 1) 「さあ、ここから始めよう」「こちらの科目も基本です」の科目から学習を開始することをお奨めします。ただし、「実験Ⅰ・Ⅱ」「研究法Ⅰ・Ⅱ」の履修順序の指定はありません（Ⅱから履修しても可）。
- 2) * 「科学的な見方・考え方」「基礎演習」は共通基礎科目、「統計情報を見る眼」は専門選択科目B群の科目です。その他の福祉心理学科専門選択科目B群の科目は、「Ⅳ 社会福祉学科 専門科目 履修系統図」を参考にしてください。
- 3) 「特講・福祉心理学5」（2018年度開講予定）、「特講・福祉心理学8」（2017年度開講）は「さあ、ここから始めよう」に相当する入門者にふさわしい科目です。その他の特講科目は自身の興味・関心に応じて、選択ください。
- 4) ** 「環境心理学」「障害児の心理」は2018年度までの開講となります。



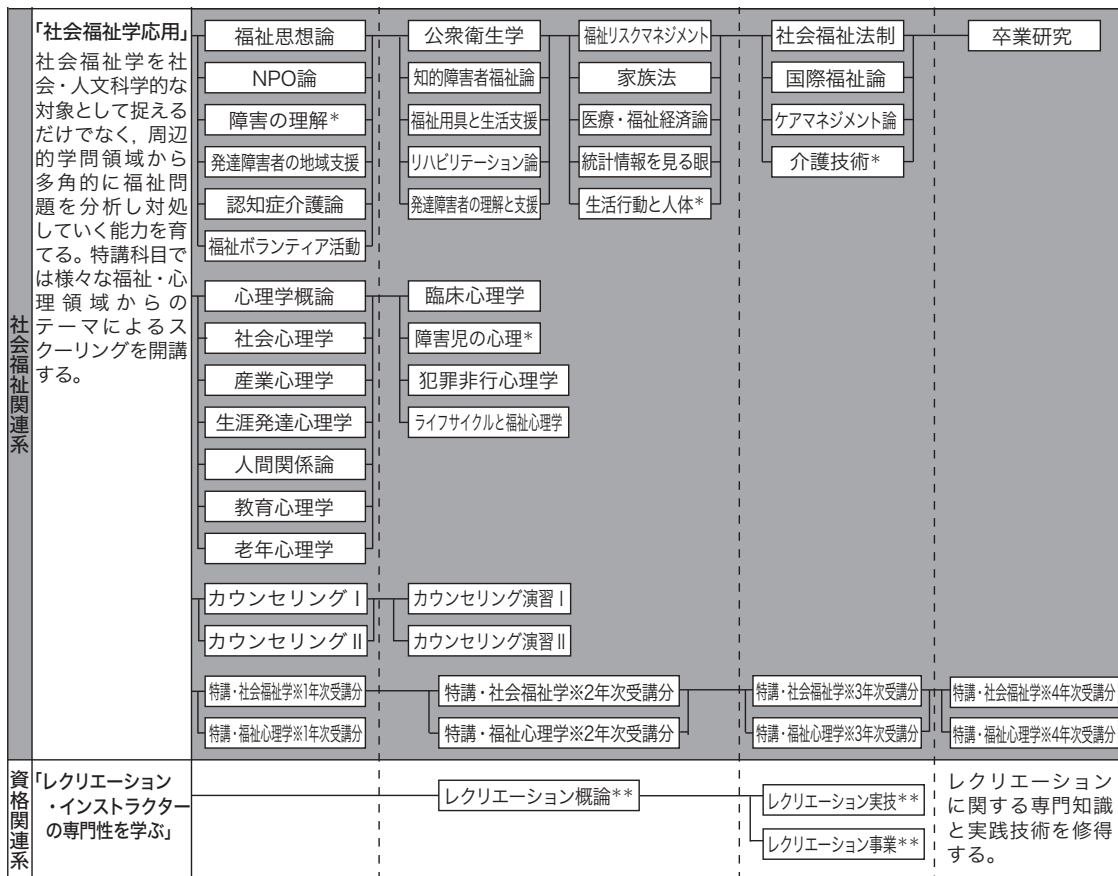
●社会福祉学科 専門科目 履修系統図

【履修上の留意点】

- 1) 配当学年が3・4年の科目は1・2年の科目の理解を基礎にしています。3年次編入学者も1年目は原則として1・2年の科目のなかから履修してください。
- 2) ただし、たとえば、1年の科目の理解がないと、2年の科目に進めないということはありません。受講しやすいスクーリングから受け、取り組みやすいレポートから提出していった方が通信教育部での学習は円滑に進みます。
- 3) * 「障害の理解」「生活行動と人体」「介護技術」「障害児の心理」は2018年度までの開講となります。
- 4) ** 「レクリエーション概論、レクリエーション実技、レクリエーション事業」は2017年度までの開講となります。

通信教育部 社会福祉学科 履修系統図

系統・内容	1年	2年	3年	4年
社会福祉基礎系 「社会福祉基礎系」 社会福祉学に関する基礎的な内容を理解する。 ※社会福祉士・精神保健福祉士共通科目	福祉社会学 福祉心理学 障害者福祉論	社会福祉原論（職業指導を含む） 地域福祉論 福祉法学 医学一般	社会保障論 公的扶助論 福祉行財政と福祉計画 保健医療サービス論	
社会福祉士専門系 「社会福祉士の専門性を学ぶ」 社会福祉士として福祉の現場で活躍できる基本的実践力を育てることを目指し、福祉の変遷と現代社会における福祉の課題を理解し、福祉の現場をより多く体験していく。 ※社会福祉士指定科目	児童・家庭福祉論 高齢者福祉論 介護概論	社会福祉援助技術総論 社会福祉援助技術論A 社会福祉援助技術論B 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習A 社会福祉援助技術実習指導A ※スクーリング受講は3年次以上	社会調査の基礎 福祉経営論 就労支援サービス論 社会福祉援助技術演習B	社会福祉援助技術演習C 社会福祉援助技術実習指導B 社会福祉援助技術実習
精神保健福祉士専門系 「精神保健福祉士の専門性を学ぶ」 精神保健福祉士として医療・福祉の現場で活躍できる基本的実践力を育てることを目指し、福祉の変遷と現代社会における福祉の課題を理解し、福祉の現場をより多く体験していく。 ※精神保健福祉士指定科目		精神保健福祉の理論 精神保健福祉援助技術総論Ⅰ 精神保健福祉のサービス 精神保健福祉援助技術総論Ⅱ 精神保健福祉援助技術各論 精神障害者の生活支援システム 精神保健学 精神保健福祉援助演習A	精神保健福祉の制度 精神医学 精神科リハビリテーション学 精神保健福祉援助演習B 精神保健福祉援助実習指導A 精神保健福祉援助実習A	精神保健福祉援助演習C 精神保健福祉援助実習指導B 精神保健福祉援助実習B



通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかととまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問とは難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずです。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2017 C心理専門編

2017年3月1日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話 022-233-2211 <http://www.tfu.ac.jp>
印刷・製本 今野印刷株式会社

©Tohoku Fukushi University 2017 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

卒業研究ガイダンス・面接指導 申込書

FAX・電子メール可（郵送・FAXの場合はコピーして使用してください）

フリガナ 氏名		学籍 番号	T
現住所	〒	電話	
	—	FAX	
		携帯	
		Eメール	

■事前相談・2回目ガイダンス（指導教員決定前）

取り組んで みたいテーマ （簡単で可）			
第1希望	月	日（ ）	時間 : ~ :
第2希望	月	日（ ）	時間 : ~ :
第3希望	月	日（ ）	時間 : ~ :
指導希望教員（あれば）	先生		

■面接指導（指導教員決定後）

教員指導	先生		
第1希望	月	日（ ）	時間 : ~ :
第2希望	月	日（ ）	時間 : ~ :

■連絡事項／相談・質問内容

(記入し ないで 下さい)	決 定 日		教 員	教員連絡	学生連絡	備 考
	／	／				

B5版（またはA4版）用紙にコピーして使用してください

